

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
フレッシュャーズセミナー	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村 泰治、辻 慶子、永崎 孝之、田中 悟郎、中山 広宣、近藤 敏、齋藤 嘉宏				講義		

授 業 概 要
新入生全員を対象とした初年次教育講座と位置づけ、高等学校時代とは異なる大学生として、大学とは如何なるところで何をどのように学ぶのか目的を明確にして、様々な学修課題を解決するためにSNSや図書館での検索方法を学ぶ。医療に携わる職種を選択した学生同士として討議を通して仲間づくりを行い切磋琢磨する意識やチームワーク力や表現力を学び、個々のキャリアについても思考し、4年間の大学生活を有意義に実りあるものとして過ごせるような基盤づくりを行う。

到 達 目 標
1. 大学で学ぶ意義を理解できる 2. 学修課題の解決方法を理解し検索できる 3. レポートの書き方を理解し意図が伝わるように表現できる 4. 看護学、理学療法学ならびに作業療法学の教育が目指す目標、学問の概要および連携の重要性を理解できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習とまとめをする

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
最終講義日に実施する記述試験

教 科 書
講師が提供する資料

参 考 図 書
特にない

留 意 事 項
授業に積極的に参加して、今後の学修に役立つ情報や知識を自らつかみ取ること

オフィスアワー等
火曜日（17時～18時）・水曜日（16時～18時）研究室

実 務 経 験
担当教員は、医師・大学教授(免疫学の基礎医学者) としての実務経験をもつ

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
フレッシャーズセミナー	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村 泰治、辻 慶子、永崎 孝之、田中 悟郎、中山 広宣、近藤 敏、齋藤 嘉宏				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	大学について知る 4月6日(月) 2時限	大学で学ぶことの意義、本大学の特色、科学的なものの考え方： 抗生物質（ペニシリン）の発見とその作用機序の研究を例に挙げて	西村泰治
2	健康を守るからだのしくみー1 4月13日(月) 1時限	免疫系の成り立ちと機能：免疫系が身体を微生物の感染から守るしくみ	西村泰治
3	カリキュラムマップ 4月20日(月) 1時限	3学科のカリキュラムポリシー、教育課程（授業科目、単位等）とカリキュラムツリー	辻 慶子 永崎孝之 田中悟郎
4	臨地・臨床実習の学び方 4月27日(月) 1時限	対人援助職、医療職（学生を含む）に対する社会の厳しい目（挨拶、マナー等）、先輩への敬意、患者さんへの接しかた、倫理観	中山広宣
5	学習法について 5月11日(月) 1時限	五感を使って記憶する、医学の基礎知識の反復学習、読解力をつける、自己研鑽、コミュニケーション能力の習熟	近藤敏
6	レポートの作成法 ノートの取り方 5月18日(月) 1時限	レポートの形式（表紙 本文 文献）、本文（序論 本論 結論）の書き方、ノートの取り方	齋藤嘉宏
7	将来展望（キャリアデザイン） 5月25日(月) 1時限	10年後のキャリアを考える（自己実現に向けて） 医療機関、福祉施設、老人保健施設、通所施設、訪問、行政職、研究職（大学教員等）、一般企業、起業（NPO法人、株式会社）、大学院進学、JICA海外協力隊	辻慶子 永崎孝之 田中悟郎
8	健康を守るからだのしくみー2 6月1日(月) 1時限	免疫学の医療への貢献：ワクチン接種による感染症の予防と、がんの免疫療法	西村泰治

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
心理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

授 業 概 要
本科目では基礎心理学と応用（臨床）心理学の知識を学び、心理学を日常生活に応用できるようになることを目的とする。人間の生活基盤としての「個人・集団」の関係形成、心理および行動について理解する。人間は人との関係の中で生活しているが、人間の「心」の在りようは複雑で、その在りようが身体にも他者との関係にも影響する。心理学の伝統的方法と行動的方法をもとに人間理解の具体的方法を学ぶ。心理学は人のこころの動きや、そこから生じる行動について探究する学問である。心理学を日常生活に活用できるように学修する。

到 達 目 標
1. 心理学の全体像について説明できる 2. 人のこころの基本的な仕組みと働きについて理論を用いて説明できる 3. 本科目での学びを日常生活に活用できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておく 事後学修：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
ミニレポート（20％）と定期試験（80％）により評価する。

教 科 書
はじめてふれる心理学〔第3版〕

参 考 図 書
授業中に適宜紹介する。

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
心理学		2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
山口 雄介					演習		
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	心理学とは	オリエンテーション 心理学の分野、心理学の全体像			山口雄介		
2	知覚	人間の視覚の仕組みについて、錯視図形（「図と地」「ゲシュタルト」）の概念について			山口雄介		
3	学習	人間が学習する仕組み「古典的条件づけ」、「オペラント条件づけ」、「観察学習」、「学習された無力感」の概念			山口雄介		
4	記憶	記憶のメカニズム（「記銘」・「保持」・「再生」）や記憶の変容など記憶力をアップさせる記憶方略			山口雄介		
5	発達	エリクソンの「発達漸成説」、人間の生涯にわたる発達段階と発達課題について			山口雄介		
6	青年（１）	青年期の区分 青年期の心理的特徴（「自己意識の高まり」、「劣等感と理想の追求」、「友情と恋愛」）			山口雄介		
7	青年（２）	青年期の鍵概念である「アイデンティティ」について 「アイデンティティ・ステイタス」、「モラトリアム」、「時間的展望」			山口雄介		
8	性格	性格を分類・記述する理論として「類型論」と「特性論」や各種心理療法に関連する人格理論心理テスト体験			山口雄介		
9	自己「自己とは何か？」	「自己概念」、「主体としての自己」、「物語的文脈としての自己」の3つの見地			山口雄介		
10	家族	家族心理学の観点、「家族の発達段階」と「家族関係の病理（家庭内暴力、DV）」			山口雄介		
11	心の病理と健康（１）心の健康性	「適応と不適応」、「欲求階層説」、健康な人間像に関する理論の一つとして、ロジャーズの「十分に機能している人間」について			山口雄介		
12	心の病理と健康（２）精神障害	「外因性」、「内因性」、「心因性」の病因論による分類 思春期・青年期の心理的問題（不登校、引きこもり、自殺など）について			山口雄介		
13	心の病理と健康（３）ストレス理論	「ストレスマネジメント」によって健康を回復・維持する必要性 ワークを交えながらストレス対処力の向上			山口雄介		
14	社会	対人認知とコミュニケーションと対人行動（人間の行動は社会的な文脈や文化に影響を受ける）			山口雄介		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
心理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	授業全体の振り返り、要点のまとめ	山口雄介

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鎌田 厚志				講義		

授 業 概 要
日本国憲法は「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の3つの柱から成り立っている。日本国憲法の基本的な考え方を知り、憲法が国家や社会の基礎をなしていることを理解する。「基本的人権は」侵すことのできない永久の権利であるが、基本的人権が法の下にどのように保障されているか学び、現在起こっている身近なものと結び付け現実的に考えられるようにする。また「患者の権利」について具体的に検討し、臨地（床）の場で生じる様々な問題についても学修する。

到 達 目 標
1. 憲法とは、立憲主義とはどのようなものか説明できる。 2. 人権の保障がどのように発展してきたか説明できる。 3. 法が担う役割について説明できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
毎回の授業への出席状況および定期試験などに基づいて総合的に成績を評価する。

教 科 書
池田真朗『プレスステップ法学 第6版』（弘文堂、2025年）

参 考 図 書
1. 初宿正典ほか『いちばんやさしい憲法入門』（有斐閣アルマ、2020年） 2. 手嶋豊『医事法入門』（有斐閣アルマ、2022年） 3. 初川満『実践 医療と法 医療者のための医事法入門』（信山社、2016年）

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問は授業の前後に受け付ける。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鎌田 厚志				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	法学への招待	授業ガイダンス、法とはどういうものか？ 日常生活と法、法は自分を守り他人を守るもの	鎌田 厚志
2	契約は絶対に守るべき？	民法（契約法）について 契約ってどういうこと？	鎌田 厚志
3	身近な生活と法	消費者法および過失責任について クーリングオフなど、知っているのと役に立つ法律の知識	鎌田 厚志
4	民法と刑法はどう違う？	刑法および法的責任について 刑罰とは何か？どのような場合に刑罰を受けることになるのか？	鎌田 厚志
5	性的トラブルにまきこまれたら	刑法について、および関連する法律、人権について セクハラ等、何をやってはいけないと法は定めているのか。	鎌田 厚志
6	憲法で人権を保障するという こと	憲法について、人権および国のしくみ 法の中で一番大事な憲法は何を定めているのか	鎌田 厚志
7	バイトも正社員も労働者	労働者の権利について、労働法について 働いている人々の身を守るための法律について	鎌田 厚志
8	患者の権利について	医事法について 医療者と法、患者の権利について考える 授業の振り返り、最近の事例から医療者と法について考える、まとめ	鎌田 厚志

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
人間関係論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
富岡 光直				講義		

授 業 概 要
人間は幼少期から成長する過程で様々な人間関係を経験する。その経験は個々の心と体の「健康」に大きな影響を与える。現代社会は常に変化しており、そこで生じる多様な人間関係も複雑化している。人間関係論はホーソンの実験により、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その因果関係を体系化した理論で人間関係の重要性を示したものである。医療に携わる学修者として人間関係づくりの基礎的知識を理解し、対象者となる人間理解と自己理解を深め、人々の健康課題に寄与できるように学修する。

到 達 目 標
1. 自己と他者の関係を説明できる 2. 発達に関わる人間関係の問題を説明できる 3. 現代の人間関係の諸問題について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：各授業のテーマに該当する内容について自主的に調べ、配布資料に目を通しておく 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・小テストの受験

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ○ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ◎ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。 ◎ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
試験60% 授業取組（毎回の授業での振り返り等の課題）40%

教 科 書
系統看護学講座基礎分野 人間関係論 医学書院

参 考 図 書
その他、参考となる書籍、文献については適宜授業にて紹介します

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
人間関係論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
富岡 光直				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	人間関係論とは	授業ガイダンス 社会的動物としての人間と人間関係の発達	富岡光直
2	自己認知と対人認知	自己について詳しく知る 自己は他者をどのように認知するのか	富岡光直
3	対人関係と役割	対人関係はどのように成立し，維持，崩壊するのか 人はどんな規範の中で生活し，どんな役割を期待されているのか	富岡光直
4	態度と対人行動	態度と態度変化の理論 説得的コミュニケーション 攻撃行動	富岡光直
5	感情	感情喚起のメカニズム 感情と対人関係 対人援助職のバーンアウト	富岡光直
6	集団	集団での課題遂行 集団での問題解決と意思決定	富岡光直
7	患者を支える人間関係（1）	患者・医療者関係 疾患を抱えて生きる患者を支える人間関係	富岡光直
8	患者を支える人間関係（2）	クリティカルな状況の患者を支える人間関係 試験	富岡光直

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
コミュニケーション論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
富岡 光直				講義		

授 業 概 要
コミュニケーションは私たちの生活のあらゆる場面に存在し、人間社会を成立させる重要な手段であり、人間の「考え・感情」を表現し、理解しあうことにつながる。健康課題を持つ対象に対応する医療関係者にとってこの能力は重要となる。本科目では多様なコミュニケーションにおいて、双方向の情報を正しく読み取り、適切に伝え、よりよいコミュニケーションをはかる手立てを探る力をつけることを目的に、医療に関する職業に携わる学修者として実践に活かせるように学修する。

到 達 目 標
1. コミュニケーションの概念について説明できる 2. 対人コミュニケーションの基礎について説明できる 3. コーチングについて説明できる 4. カウンセリングについて説明できる 5. コミュニケーションが社会に与える影響を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：各授業のテーマに該当する内容について自主的に調べ、配布資料に目を通しておく 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・小テストの受験

対応DP
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
○ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
○ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。
◎ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。
◎ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
試験60% 授業取組（毎回の授業での振り返り等の課題）40%

教 科 書
系統看護学講座基礎分野 人間関係論 医学書院

参 考 図 書
その他、参考となる書籍、文献については適宜授業にて紹介します

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
コミュニケーション論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
富岡 光直				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	コミュニケーションとは	授業ガイダンス コミュニケーションとは マスメディアとインターネットの社会的影響	富岡光直
2	援助行動	援助行動と援助要請 ソーシャルサポート 社会的スキル	富岡光直
3	カウンセリングと心理療法 (1)	支持的精神療法 来談者中心療法 精神力動的精神療法	富岡光直
4	カウンセリングと心理療法 (2)	行動療法 認知療法 認知行動療法	富岡光直
5	コーチング	コーチングの定義，歴史，スキル	富岡光直
6	アサーティブ・コミュニケーション	アサーティブ・コミュニケーションの技法 医療コミュニケーションへの応用	富岡光直
7	医療チームにおける コミュニケーション(1)	チームとチーム医療 医療チームにおける人間関係と役割	富岡光直
8	医療チームにおける コミュニケーション(2)	チームワークとチームエラー コミュニケーションエラー 試験	富岡光直

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
アジアの文学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
今井 明				講義	講義	

授 業 概 要
アジアの文学と一口に言っても、アジアは非常に広大な地域なので、地域が辿ってきた歴史によって根付く文学の特徴にも違いがある。ここではアジアの世界から日本・中国を取り上げ、二つの地域における古典文学と近代文学について学ぶ。作品を通して時代背景とともに人間の生きざまや考え方、思想が日本、中国の文学にどのように影響しているか、それぞれの文学の特徴や関連について学修することで、時代背景や各地の文化が人間に及ぼす影響について深く理解する。

到 達 目 標
1. 日本における古典文学と近代文学の特徴を説明できる。 2. 中国における古典文学と近代文学の特徴を説明できる。 3. 作品の背景を理解し、東アジアの文学の関連について説明できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各単元のキーワードとなる語句について調べ授業に臨むこと 事後学修：講義資料を用いて、学修した内容を理解し、理解を深める。

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☐
☐
☐
☐
☐

評 価
試験（１００％）。試験時、ノート持ち込みなどは認めないので、しっかり授業内容を理解すること。

教 科 書
なし

参 考 図 書
講義中に指示する

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業終了後しばらく時間を設けるので、質問・相談はその時間を利用してください。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
アジアの文学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
今井 明				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	文学入門	授業ガイダンス 文学入門-文学を味わう前に知って欲しいこと 文字のない日本と文字のある中国	今井 明
2	「世界」の捉え方	『今昔物語集』インド・中国・日本が世界だった「世界観」の文学。	今井 明
3	歴史と文学	『史記』と『大鏡』。歴史を人間を通して描く。現代の歴史小説にもつながる方法。司馬遼太郎生誕１００年に寄せて。	今井 明
4	物語と小説	「小説」と「物語」は同じか？日本の平安時代の物語と日本の近代小説を較べて考えよう。	今井 明
5	ロシア文学と二葉亭四迷	日本の近代文学とロシア文学（二葉亭四迷の挑戦）	今井 明
6	中国文学と日本文学へ	『長恨歌』を知っておこう。そして中国の悲運の女性を主題にした日本の古典和歌。	今井 明
7	死と文学	父俊成の死を看取る歌人・藤原定家。そして、北条民雄の『いのちの初夜』	今井 明
8	まとめ	授業内容の振り返りとまとめ。	今井 明

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
福岡の歴史と文化	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
今井 明				講義	講義	

授 業 概 要
福岡市の歴史、特に博多の成り立ちを学ぶ。福岡市は九州の玄関口として、またアジアに開かれた都市として、近年とみにグローバル化している。保健医療に携わる者としてこれから大学生活をおくる福岡の歴史、生活する人々の暮らしや地域で行われている習慣を知することは、地域の環境や文化の理解、地域で生活する人の理解につながるとともに、地域に対する誇りを確認することにもなり大切な要素となる。自らも福岡の魅力を発信できるように多方面から学修する。

到 達 目 標
1. 福岡の歴史を知り、古代から近代までの概要を説明できる。 2. 福岡の多文化共生社会の中で人権について説明できる。 3. 福岡の多文化共生社会における在日外国人の現状や課題について説明できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を理解し、理解を深める。

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
平常点と定期試験とで総合的に判断をする。

教 科 書
講師資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後対応

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
福岡の歴史と文化	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
今井 明				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	太宰府成立への緊張	額田王の和歌を題材に、九州北部と朝鮮半島の緊張関係を軸に、太宰府が成立するまでの歴史を振り返る。「鎮懐石」などの伝説にも触れたい。	今井明
2	太宰府の文化	「令和健康科学大学」の「令和」の由来を知ろう。大学名は福岡由来の事跡に拠る。大宰府「梅花」の宴について、『万葉集』を読む。	今井明
3	宗祇の歩いた道 その一	中世の連歌師宗祇は九州に来た。山口から太宰府へと至る道を、宗祇とともに辿る。歴史と文化を再現しながら、宗祇の『筑紫道記』を読む。	今井明
4	宗祇が歩いた道 その二	太宰府から博多・箱崎に出て、香椎・宗像を歩いて、宗祇は九州から去る。身近な地名の歴史・文化を理解する。二日市温泉の歴史にも触れたい。	今井明
5	福岡の食文化編	福岡市の承天寺境内にある石碑「鯉鮓（うどん）蕎麦発祥之地」。麵王国博多「うどん」を紹介しながら博多の麵文化を講義する。	小川洋平
6	福岡の先史編	アジアから流入した先史文化	宮井善朗
7	福岡・現代への声	日本の近代化を支えた「石炭」。その採掘に従事した人たち。森崎和江の聞き書き『まっくら』から、歴史を支える人間たちの声を聴きとる。	今井明
8	福岡の古代編	古代日本の玄関口 大宰府と筑紫館と鴻臚館	菅波正人

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
健康科学入門	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村 泰治、山口 浩雄、古後 晴基、田中 悟郎、久木原 博子、辻 慶子、森下 元賀、山根 伸吾				講義		

授 業 概 要
日本は世界に先駆けて高齢社会となり、国民が健康でよりよく生きるかということは大きな命題でもある。「健康」とは何か、人々のより良い健康を支援する職業に携わるものとして、看護、理学療法、作業療法、各々の視点から健康を深く理解し、人間の「健康」を支える「科学」とは何かを思考する。健康科学を支える学問は多岐にわたっており、人々の健康の実現を目指していく実践的な科学である。ここでは各学科の専門基礎分野・専門分野への導入として、その礎となる「健康科学」について学修する。

到 達 目 標
1. 自分が学ぶ領域における健康とは、どのようなものか説明できる 2. 科学とは何か説明できる 3. 健康を科学するとは自分が学ぶ領域で、どのようなことが考えられるか自分なりに説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習とまとめをする

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☒ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
講義日以外の日程で実施する記述試験

教 科 書
講師が提供する資料

参 考 図 書
特にない

留 意 事 項
授業に積極的に参加して、今後の学修に役立つ情報や知識を自らつかみ取ること

オフィスアワー等
火曜日（17時～18時）・水曜日（16時～18時）研究室

実 務 経 験
担当教員は、医師・大学教授(免疫学の基礎医学者) としての実務経験をもつ

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
健康科学入門	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村 泰治、山口 浩雄、古後 晴基、田中 悟郎、久木原 博子、辻 慶子、森下 元賀、山根 伸吾				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	健康とは 1	授業ガイダンス 健康とは何か、科学する心、健康を科学する	西村泰治
2	健康とは 2	医学領域からみた健康	山口浩雄
3	健康とは 3	理学療法領域からみた健康	古後晴基
4	健康とは 4	作業療法領域からみた健康	田中悟郎
5	健康とは 5	看護領域からみた健康	久木原博子
6	健康を科学する 1	健康を科学する；看護学の研究より	辻慶子
7	健康を科学する 2	健康を科学する；理学療法学の研究より	森下元賀
8	健康を科学する 3	健康を科学する；作業療法学の研究より	山根伸吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医療と情報リテラシー	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山下貴範 藤村直美				演習		

授 業 概 要
激しく変化している社会の中で生きていくためには生涯学習が必須となり、各自がそれぞれの方法を身につけるためには情報リテラシー能力の獲得が必要である。本科目ではインターネットの概要について学び、その上で動くアプリケーションの仕組みや基礎技術を理解し、適切に使いこなせるように学ぶ。医療の現場はICT（Information and Communication Technology）の発達によって大きく変化している。しかしその一方では様々な問題や課題がある。ICTを用いた新しい医療としては遠隔での診療が可能になったり、情報の共有ができたり、災害時に活用できたりなど現在の状況や、これから充実していく 5G（高速、大量の通信が可能）での医療の活用について学ぶ。さらに医療倫理的側面から、医療に関わる人々が知っておくべき課題について学修する。

到 達 目 標
1. インターネットで使える機能の仕組みを理解して、適切に使用できる 2. セキュリティについて理解し、安心・安全にインターネットとアプリを使用できる 3. インターネット上で入手できる様々なコンテンツの探索方法、活用方法を理解して活用できる 4. コンピュータの基礎知識を説明できる 5. 医療情報のリテラシーについて説明できる 6. 病院情報システムの構成について理解し、説明できる 7. ICTや情報技術、通信技術発達による医療への影響、IoT（Internet of Things）と生活の関連について説明できる 8. 個人情報の取り扱いについて説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応DP
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☐
☐
☐
☐
☐

評 価
毎回の課題で評価する。（藤村）

教 科 書
講師資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医療と情報リテラシー		2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
山下貴範 藤村直美					演習		
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	授業ガイダンス 電子メールについて	授業ガイダンス（出席、課題、評価、成績、連絡方法） 電子メール（配送の仕組み、利用上の注意） セキュリティ（ウイルス、詐欺メール、フィッシング）			山下貴範 藤村直美		
2	インターネットの概要	インターネットの概要 （構成要素、接続形態、I Pアドレス、ドメイン名）			山下貴範 藤村直美		
3	WWWとは 暗号化通信	WWW（サーバー、クライアント、HTTP/HTTPS、検索の仕組み） 暗号化方法			山下貴範 藤村直美		
4	移動通信	固定電話、携帯電話、仕組み、料金			山下貴範 藤村直美		
5	電子決済について OERについて	電子決済（仕組み、種類と特徴、メリット/デメリット） OER(Open Education Resources)（OCW、MOOC、世界の学習教材）			山下貴範 藤村直美		
6	コンピュータとデータベース	ハードウェア、ソフトウェア、データベース、クラウド（仕組み、特徴、利用方法）			山下貴範 藤村直美		
7	医療情報リテラシー	医療の情報化、医療情報の種類			山下貴範 藤村直美		
8	情報セキュリティ	情報セキュリティにおけるリスクと対策			山下貴範 藤村直美		
9	病院情報システム1	病院情報システムの歴史、概要、構成			山下貴範 藤村直美		
10	病院情報システム 2	医事会計システム、オーダーリングシステム、電子カルテシステム、 各部門システム、様々な医療システム構成 システム開発、導入、管理、運用			山下貴範 藤村直美		
11	病院情報システム3	医事会計システム、オーダーリングシステム、電子カルテシステム、 各部門システム、様々な医療システム構成 システム開発、導入、管理、運用			山下貴範 藤村直美		
12	医療情報標準化	医療情報標準化			山下貴範 藤村直美		
13	個人情報保護とガイドライン	医療現場における個人情報の扱い、個人情報保護法・次世代医療基盤法・医療情報ガイドライン			山下貴範 藤村直美		
14	医療DXとAI	医療DXの現状と医療現場におけるAI導入			山下貴範 藤村直美		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医療と情報リテラシー	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山下貴範 藤村直美				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	これからの医療情報	近未来の医療情報を考える、授業のまとめ	山下貴範 藤村直美

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
論理的思考法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
国越 道貴				講義		

授 業 概 要
作業療法師は、医療者間で専門的な情報を正確に伝達すること、また患者と適切にコミュニケーションすることが求められます。「論理的思考法」では、正しく考え、また他の人に理解可能な仕方 で論述する方法を学びます。

到 達 目 標
・ 即断だけに頼らず、じっくり考えることを学ぶ ・ 論拠に基づいて結論を導くことを学ぶ ・ 科学の方法について学ぶ

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：教科書を予習し、わからない点を明確にする。語句の意味など簡単に調べられることは自分で調べる。 事後学習：講義の要点を確認し、教科書を読み直す。

対応D P
○ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
学期末試験の点数に積極的な質問など平常の態度を加えて評価する。

教 科 書
植原亮『思考力改善ドリル』勁草書房, 2020.

参 考 図 書
野矢茂樹『大人のための国語ゼミ』増補版，筑摩書房，2018.

留 意 事 項
とくになし。

オフィスアワー等
moodle のメッセージにより質問などの連絡をする。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
論理的思考法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
国越 道貴				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	思考について	予断なき思考、一貫した思考	国越道貴
2	直観と思考	二重過程理論 ・代表性ヒューリスティック ・利用可能性ヒューリスティック	国越道貴
3	因果関係を捉える	相関関係と因果関係の相違	国越道貴
4	対照実験	因果関係の確保	国越道貴
5	演繹	代表的推論パターンを学ぶ	国越道貴
6	帰納	一般化、投射、類比、アブダクション	国越道貴
7	仮説演繹法	科学者の実践から	国越道貴
8	まとめ	要点の確認	国越道貴

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生物学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
照屋 輝一郎				演習		

授 業 概 要
医療職に必要な不可欠な生物学の基本事項を学修し、生命とは何かを考える。初めに生命の基本となる細胞の構造と機能を理解し、生体を構成する分子や恒常性維持のメカニズムについて学ぶ。また発生・分化、遺伝と生物進化、生命誕生と死に関する事項の学びを通じて、「生きるとは何か」という生命の本質を理解する。ここでは医療の基礎となる生物学を学ぶことで、私たちの生命がどのような仕組みで維持されているのかを理解し、それを専門分野に応用できる基礎的能力を養う。

到 達 目 標
1. 細胞を構成する物質の特徴を説明できる 2. 遺伝の仕組みについて説明できる 3. エネルギー代謝、細胞の増殖、細胞の死について説明できる 4. 脳神経、免疫の仕組みについて説明できる 5. 生命のしくみについて説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☐
☐
☐
☐
☐

評 価
成績は主に学期末テストの結果で評価するが、課題などの提出状況も含めて評価する。

教 科 書
西沢いづみ 著 看護系で役立つ 生物の基本 第2版 化学同人 ISBN 978-4-7598-2065-2

参 考 図 書
田村隆明 著 医療・看護系のための 生物学（改訂版） 裳華房 ISBN 978-4-7853-5233-2 南雲 保 編著 やさしい基礎生物学 第2版 羊土社 ISBN 978-4-7581-2051-7 中村桂子、松原謙一、榊佳之、水島昇 監訳 Essential細胞生物学原書第5版 南江堂 ISBN 978-4-524-22682-5

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生物学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
照屋 輝一郎				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	生物の最小機能単位	授業ガイダンス 生命の誕生、細胞の働き、細胞膜	照屋輝一郎
2	体液のしくみと働き	水、人体の構成成分、細胞内液、細胞外液、電解質、浸透圧	照屋輝一郎
3	遺伝情報とDNA	DNA、遺伝子、セントラルドグマ、複製、RNA、転写、翻訳	照屋輝一郎
4	遺伝情報の伝え方	細胞分裂、染色体、減数分裂	照屋輝一郎
5	遺伝と遺伝性疾患のしくみ	形質と遺伝、遺伝子型と表現型、遺伝子の変異、遺伝性疾患、DNA多型、SNP	照屋輝一郎
6	化学エネルギーと代謝	化学エネルギー、異化、同化、エネルギー代謝、ATP	照屋輝一郎
7	化学反応と酵素	酵素、活性化エネルギー、触媒、基質特異性、補酵素、フィードバック阻害	照屋輝一郎
8	糖質の代謝	グルコース、解糖系、グリコーゲン、血糖値、糖新生	照屋輝一郎
9	脂質の代謝	脂質、脂肪酸、 β 酸化、リポタンパク質、ケトン体、コレステロール	照屋輝一郎
10	タンパク質・アミノ酸の代謝	タンパク質、アミノ酸、アミノ基転位反応、 α -ケト酸（炭素骨格）、アミノ基、尿素回路	照屋輝一郎
11	内分泌系による情報伝達	内分泌腺、ホルモン、ホルモン受容体、フィードバック調節	照屋輝一郎
12	神経系による情報伝達	ニューロン、活動電位、神経伝達物質、中枢神経、末梢神経	照屋輝一郎
13	血管系とリンパ系	血管系、循環系、体循環、血液の役割、リンパ系、リンパ循環	照屋輝一郎
14	免疫系のしくみ1	免疫とは、自己と非自己、物理・化学的防御、自然免疫	照屋輝一郎

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生物学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
照屋 輝一郎				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	免疫系のしくみ2	獲得免疫、免疫担当細胞の誕生、アレルギー	照屋輝一郎

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
物理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黒木 昌一				演習	講義	

授 業 概 要
物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。 本科目の目的は、力学の基本的な原理について正しい理解を得ること、看護師、理学療法士、作業療法士に必要な物理学に関連する知識を得ること、科学的または論理的な考え方を養うことである。人体の運動と物理の法則の関係を理解し、科学的な思考で人間の動きを捉えられるように学ぶことで、無理のない体の動きや力の使い方についても日常的に重力や摩擦など考えながら行動し、各分野に活かせるように学修する。

到 達 目 標
1. 人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける 2. 臨床場面における科学的思考の基礎を身につける

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：当該テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
レポート・授業中の小テスト30% と期末試験（筆記試験） 70%で評価する。

教 科 書
特に指定しない。（プリント配布等で対応）

参 考 図 書
1) 廣岡秀明・崔東学・古川裕之・吉村玲子・山本洋 共著「医療系の基礎としての物理」 学術図書出版社 2) 横田俊昭著 「看護と医療技術者のためのぶつり学」 第2版 共立出版 3) 藤城敏幸/佐藤幸一著 「医療系のための物理」 第2版 東京教学社

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
物理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黒木 昌一				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	物理学基礎で学習すること 物理量とその表し方(1)	物理量、国際単位系（基本単位と組立単位）、ベクトル量とスカラー量	黒木昌一
2	物理量とその表し方(2)	大きい数、小さい数の表し方、指数の計算、有効数字とその計算	黒木昌一
3	物理学で使うグラフと関数 (1)	数式とグラフ、三角関数	黒木昌一
4	物理学で使うグラフと関数 (2)	変化率と微分、ベクトルの計算	黒木昌一
5	いろいろな運動(1)	位置と変位、速度、加速度、等速直線運動	黒木昌一
6	いろいろな運動(2)	等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げ、水平投射	黒木昌一
7	さまざまな力(1)	力とは、力の単位、重力、張力	黒木昌一
8	さまざまな力(2)	垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力	黒木昌一
9	力のつり合いと運動の法則 (1)	力の合成と力のつり合い、慣性の法則、遠心力	黒木昌一
10	力のつり合いと運動の法則 (2)	運動方程式、作用反作用の法則	黒木昌一
11	運動量、仕事とエネルギー (1)	運動量と力積、仕事と仕事率、運動エネルギー	黒木昌一
12	運動量、仕事とエネルギー (2)	位置エネルギー、エネルギー保存の法則	黒木昌一
13	物体の重心と回転運動 (1)	剛体の回転運動、力のモーメントのつり合い、重心と重心の求め方	黒木昌一
14	物体の重心と回転運動 (2)	剛体の運動と剛体にはたらく力、力のモーメントと3つのてこ	黒木昌一

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
物理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黒木 昌一				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	波、音と光	波の特徴、縦波と横波、照度と光度	黒木昌一

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
英語Ⅰ（医療英語）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
				演習	演習	

授 業 概 要
“Medical English 1” is the first in a series of two courses intended for 1st year students in the Faculty of Health Sciences as part of their integrated English curriculum. Through the medium of English, students will integrate listening & notetaking, vocabulary building, controlled practice, reading, and role-playing by exploring common healthcare scenarios in a Japan-specific context.

到 達 目 標
By the end of this semester, students will be expected to: ・Understand short, level-appropriate audio texts of English dialogues in healthcare scenarios and take accurate notes ・Achieve relative mastery of the most common English vocabulary likely to appear in non-specialist healthcare contexts ・Achieve control of basic- and intermediate-level English grammatical forms and constructions ・Orally communicate basic ideas and requests using English in a comprehensible fashion, particularly in healthcare scenarios ・Understand and complete basic medical forms that includes patient information ・Participate in simple role-plays from both healthcare professional and patient viewpoints using English ・Navigate a variety of cultural obstacles likely to be encountered when dealing with non-Japanese patients

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
pre-study : Prepare for class by reviewing the relevant sections of the textbook beforehand. post-class study : Use textbooks, lecture materials, and reference materials to organize what you have learned and deepen your understanding.

対応DP
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
Quizzes & tests 70% Participation/homework 30%

教 科 書
Vital Signs by Vivian Morooka & Terri Sugiura (Nan’ un-do) (ISBN978-4-523-17868-2)

参 考 図 書
Additional materials may be made available online.

留 意 事 項

オフィスアワー等
Study help: Your Teacher will share contact details during the Class Introduction

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
英語 I（医療英語）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	1. Introduction / Unit 1		Aleles Jonathan
2	2. Unit 2		Aleles Jonathan
3	3. Unit 3		Aleles Jonathan
4	4. Unit 4		Aleles Jonathan
5	5. Test 1		Aleles Jonathan
6	6. Unit 5		Aleles Jonathan
7	7. Unit 6		Aleles Jonathan
8	8. Unit 7		Aleles Jonathan
9	9. Unit 8		Aleles Jonathan
10	10. Test 2		Aleles Jonathan
11	11. Unit 9		Aleles Jonathan
12	12. Unit 10		Aleles Jonathan
13	13. Unit 11		Aleles Jonathan
14	14. Unit 12		Aleles Jonathan

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
英語 I（医療英語）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	15. Test 3		Aleles Jonathan

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学Ⅰ（筋骨格系、神経系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中島民治				講義	講義	

授 業 概 要
人体を構成する器官・器官系のうち、動物性機能に関係の深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・感覚器）の基本的構造について学ぶ。人体の基本構造の知識に基づき、理学・作業療法と関連のある臨床症例の概要を理解し、人体解剖学とリハビリテーションの関連性についての理解を深める。

到 達 目 標
1. 人体の骨と筋について、名称、起始、停止、神経支配、作用を述べることができる。 2. 神経系に属する各器官の名称や解剖学的区分、特徴等を説明することができる。 3. 理学・作業療法を行うにあたり人体解剖学を学ぶ意義について理解する。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当箇所を読んでおく 事後学修：授業内容を復習し、整理する

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐
☐
☐
☐
☐

評 価
定期試験（100％）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版（野村 巖 編 医学書院） 2. 講義ノート（パワーポイント）

参 考 図 書
解剖生理学ワークブック 坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀 編 医学書院

留 意 事 項
教科書の熟読を求める。

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学Ⅰ（筋骨格系、神経系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中島民治				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	解剖学総論	解剖学とは（定義・目的）、解剖学用語と人体の区分、人体の構成、人体の発生	中島民治
2	骨格	骨格総論、骨格各論（頭蓋・脊柱・上肢の骨・下肢の骨）	中島民治
3	関節と靭帯	関節靭帯総論、関節靭帯各論（頭蓋の連結・脊柱、脊柱と頭蓋および胸郭の連結・上肢の連結・下肢の連結）	中島民治
4	筋系（運動器）1	筋系総論、筋系各論（体幹の骨格と筋）	中島民治
5	筋系（運動器）2	筋系各論（上肢の骨格と筋）	中島民治
6	筋系（運動器）3	筋系各論（下肢の骨格と筋）	中島民治
7	筋系（運動器）4	筋系各論（頭頸部の骨格と筋）	中島民治
8	筋系（運動器）5	筋の収縮による運動	中島民治
9	神経系 1	神経系総論	中島民治
10	神経系 2	中枢神経系（脊髓・脳）	中島民治
11	神経系 3	中枢神経系（神経路）	中島民治
12	神経系 4	末梢神経系（脊髓神経・脳神経）	中島民治
13	神経系 5	末梢神経系（自律神経系）	中島民治
14	感覚器系 1	外皮、視覚器の構造と機能	中島民治

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学Ⅰ（筋骨格系、神経系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中島民治				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	感覚器系 2	平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器の構造と機能	中島民治

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、角田 孝行、川崎 一平				実習	演習，実習	

授 業 概 要
人体模型等を用いた実習および献体解剖の見学を通して、人体（運動器系・神経系）の構造を立体的に理解する。

到 達 目 標
1. 上肢・下肢・頭蓋・体幹を構成する骨と筋の基本的形態について説明することができる 2. 消化器系、循環器系、呼吸器系、神経系の基本的な構造について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：事前に示された課題について個人学修しておくこと 事後学修：実習およびグループ学修で学んだことをまとめ、記録する

対応DP
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
筆記試験（50％）、課題レポート（50％）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版（野村 嶺 編 医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書
・ 人体解剖カラーアトラス 原著第8版（佐藤達夫，秋田恵一 訳 南江堂） ・ イラスト解剖学 第10版（松村譲児 中外医学社） ・ カラースケッチ解剖学 第4版（長門康和 訳 廣川書店） ・ 基礎から学ぶ解剖学ノート 第4版（中島雅美，中島晃徳，野口瑠美子 医歯薬出版）

留 意 事 項
解剖学実習は人体を立体的に捉え、理解するための授業です。人体模型等を積極的に触り，解剖アプリ等を活用しつつ，絵を描くなどデジタルとアナログを活用しながら，3D構造を把握するように努めてください。

オフィスアワー等
吉田和弘：メールにて事前に予約すること（k.yoshida@rhs-u.ac.jp）。 角田孝行：メールにて事前に予約すること（t.kakuda@rhs-u.ac.jp）。 川崎一平：メールにて事前に予約すること（i.kawasaki@rhs-u.ac.jp）。

実 務 経 験
担当する教員は作業療法士としての実務経験があり，解剖に対する知識・経験も豊富である

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、角田 孝行、川崎 一平				実習	演習，実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション	模型等を用いた実習の目的と方法	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
2	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習①）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
3	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習②）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
4	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習③）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
5	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習④）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
6	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習⑤）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
7	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習①）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
8	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習②）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
9	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習③）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
10	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習④）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
11	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習⑤）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
12	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習①）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
13	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習②）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
14	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習③）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、角田 孝行、川崎 一平				実習	演習，実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能（模型等を用いた実習④）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
16	解剖見学	献体の解剖見学①（上肢の筋骨格と神経）	産業医科大学解剖学教室 吉田和弘 角田孝行 川崎一平
17	解剖見学	献体の解剖見学②（上肢の筋骨格と神経）	産業医科大学解剖学教室 吉田和弘 角田孝行 川崎一平
18	解剖見学	献体の解剖見学③（上肢の筋骨格と神経）	産業医科大学解剖学教室 吉田和弘 角田孝行 川崎一平
19	解剖見学	献体の解剖見学④（下肢の筋骨格と神経）	産業医科大学解剖学教室 吉田和弘 角田孝行 川崎一平
20	神経と臓器の構造と機能	神経と臓器の構造と機能（模型等を用いた実習①）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
21	神経と臓器の構造と機能	神経と臓器の構造と機能（模型等を用いた実習②）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
22	神経と臓器の構造と機能	神経と臓器の構造と機能（模型等を用いた実習③）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平
23	神経と臓器の構造と機能	神経と臓器の構造と機能（模型等を用いた実習④）	吉田和弘 角田孝行 川崎一平

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学Ⅰ（動物性機能）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中川 和憲				講義		

授 業 概 要
人体を構成する器官・組織のうち、動物性機能に関係が深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・末梢神経）の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学・作業療法と関わりが深い筋骨格系および神経系の代表的な障害（疾患）の概要について学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。

到 達 目 標
1. 筋骨格系と神経系に属する各器管の名称について説明することができる。 2. 筋骨格系と神経系に属する各器管の生理機能について説明することができる。 3. 感覚に関わる器官と需要のしくみについて説明することができる。 4. 理学・作業療法を行うにあたり生理学を学ぶ意義について理解する。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通し、理解を深めておくと同時に、難解な箇所をまとめておき講義にのぞむこと。 事後学習：教科書と配布資料による復習を行ない、関連分野の過去問を解くなどして、自己の知識の再確認を行うこと。

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験（100%） 最終試験で60%以上の得点を単位取得の必須要件とする。 評価が「D（不可）」であった場合は、1度に限り再試験を実施する。

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項
学習の理解度は、次回授業にて指名して確認する場合もある。スライドや資料で示すポイント項目、キーワード等は、自己の言葉で論述できるようまとめておくこと。テーマ関連の国試を演習としてMoodleに設定するので、積極的に利用して下さい。

オフィスアワー等
オフィスアワー：講義前後および昼休み。時間を取る場合、事前連絡が望ましい。 連絡先メール：Moodleメッセージ機能にて連絡可能です。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学Ⅰ（動物性機能）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中川 和憲				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	組織・器管・器管系、ホメオスタシス	中川和憲
2	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能、物質の移動、静止電位と活動電位	中川和憲
3	筋と骨	筋の種類と分類、骨格筋の構造と神経支配、骨格筋の収縮、筋紡錘とGolgi器官	中川和憲
4	筋と骨	心筋の活動電位と興奮収縮連関，収縮経過と不応期、長さ－張力関係、収縮性	中川和憲
5	筋と骨	平滑筋の機能、張力の発生と収縮、骨の成長と老化	中川和憲
6	運動生理	筋力と筋持久力、筋収縮のエネルギー源	中川和憲
7	神経系	神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、神経の種類、体性神経	中川和憲
8	神経系	自律神経、シナプスにおける興奮の伝達	中川和憲
9	神経系	中枢神経系の構成と機能、脊髄の構造と反射、脳幹の構造と機能	中川和憲
10	神経系	小脳の構造と機能、小脳への入出力、運動学習、視床および視床下部の構造と機能	中川和憲
11	神経系	大脳皮質の構造と機能、高次脳機能	中川和憲
12	神経系	大脳基底核と脳梁、大脳辺縁系、脳室と脳脊髄液、血液脳関門	中川和憲
13	感覚	体性感覚、内臓感覚	中川和憲
14	感覚	特殊感覚1	中川和憲

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学Ⅰ（動物性機能）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中川 和憲				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	感覚	特殊感覚2	中川和憲

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
人間発達学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				演習	講義・演習	

授 業 概 要
人間は生涯にわたり心身の構造、機能が変化していく。人間の各発達段階、特に乳幼児期の特徴と発達課題について知的側面（言語、認知等）、身体的側面（原始反射、姿勢反射、腹臥位・背臥位での運動等）、情緒的側面（信頼、内発的動機等）、社会的側面（遊び等）などに焦点をあてて論じる。さらにライフサイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえて、医療技術者としていかに人間関係を深め、援助活動に生かしていくのか学修する。

到 達 目 標
1. 認知的・身体的・情緒的・社会的発達について重要なマイルストーンを述べることができる 2. 発達プロセスを理解し、次の段階への発達支援に必要な知識を説明することができる 3. 生涯にわたる発達過程の観点から活動参加を援助するために必要となる生涯人間発達の知識を述べることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：moodle上に掲載されている講義資料を確認し、予習すること。 事後学修：教授された内容の振り返りを行い、理解した内容を整理する。前回の授業内容について的小テストを行うので、復習し、理解を深めておくこと。

対応D P
○ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験：70％　小テスト・課題：20％　参加度：10％

教 科 書
笹田 哲（編集） 「イラストと動画で学ぼう！人間発達学」　診療と診断社

参 考 図 書
大城昌平・儀間祐貴（編集） 「リハビリテーションのための人間発達学 第3版」　メディカルプレス

留 意 事 項
大学におけるルールに従い、出席管理を厳密に行う。授業中の私語は慎み、授業に積極的に参加するよう務めることとする。なお、座席は教員が指定した位置に着座することとする

オフィスアワー等
あらかじめメール等でアポイントを取れば対応可能とする

実 務 経 験
小児療育施設（病院）・地域療育施設で作業療法士として従事した経験を活かし講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
人間発達学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	発達とは	発達の意義：人間発達を学ぶ意味	森本誠司
2	発達理論とは	発達理論は何を説明するのか？	森本誠司
3	胎児・新生児期の発達	出生前から新生児期（生後4週まで）の発達について学ぶ	森本誠司
4	原始反射・姿勢反射	新生児（胎児期）にみられる原始反射に加え、生後1年の間に獲得する姿勢反応（反応）について学ぶ	森本誠司
5	乳児期の運動発達①	新生児期から独歩獲得までも運動発達を学ぶ①	森本誠司
6	乳児期の運動発達②	新生児期から独歩獲得までも運動発達を学ぶ②	森本誠司
7	乳児期の運動発達③	新生児期から独歩獲得までも運動発達を学ぶ③	森本誠司
8	新生児期・乳児期の発達	新生児期、乳児期の発達（手指機能、摂食・言語機能、歩行獲得後の運動発達等）	森本誠司
9	乳児期の発達①	1歳から就学前までの発達について学ぶ①	森本誠司
10	乳児期の発達②	1歳から就学前までの発達について学ぶ②	森本誠司
11	学齢期～思春期・青年期の発達①	就学後から成人を迎える時期までの発達について学ぶ①	森本誠司
12	学齢期～思春期・青年期の発達②	就学後から成人を迎える時期までの発達について学ぶ②	森本誠司
13	成人期・壮年期・老年期の発達①	成人期以降の発達（変化）について学ぶ①	森本誠司
14	成人期・壮年期・老年期の発達②	成人期以降の発達（変化）について学ぶ②	森本誠司

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
人間発達学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	生涯発達について	生涯発達についてまとめ	森本誠司

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医学概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
富永隆治				演習	講義	

授 業 概 要
医学を「心身の病気をなおし、健康を増進させる学問」と定義し、人間と病気の歴史や健康との関係を知ることにより、医療観や倫理観、医療を担う人材の教育や診断技術、治療の進歩、今日の我が国の医療システムなどについて学ぶ。さらに、代表的な診療科の対象となる主な疾患や医師の仕事について学び、チーム医療の一翼を担い、信頼される医療専門職としての将来の自身の在り方について考える。

到 達 目 標
1. 健康と病気の定義、病気と老化との違いについて説明することができる 2. 病院で標榜できる診療科の対象となる代表的な疾患をあげることができる 3. 医療従事者として必要な倫理観について自身の考えを述べるることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：テキスト、参考書で該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応D P
☐ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
筆記試験（100%）

教 科 書
1. 現代医学概論 第3版 柳澤信夫 著 （医歯薬出版） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
講義後質問を受け付けます

実 務 経 験

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医学概論		2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
富永隆治					演習	講義	
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	医学の基本 医の倫理、患者の権利（第15章）	医学とは何か（定義、医道、サイエンスとアート、医療）、人間の生命を考える（医の倫理、生命倫理）			寺坂禮治		
2	医学の歴史（第1章）	医学の起源、医学の展開、我が国における医学の発展			富永隆治		
3	病気の治療と予防（第2章）	治療学総論、治療学各論、病気の予防、健康診断、人間ドック			山永義之		
4	患者の診察と検査（第3章）	診断学総論、診断学の基本、診断学各論、画像診断、病理診断			山永義之		
5	社会保障と医療保険（第4章） 日本の医療の現状と国民の意識（第5章）	医療法規、社会保障制度、電子カルテ、医療情報 医療サービス大国、数字から見る我が国の医療			富永隆治		
6	我が国の医療の問題点と対策（第6章） 生活習慣病、健康日本21と特定検診（第7章）	医師不足の背景と対策、無医地区の問題、救急医療、国の対策 成人病から生活習慣病へ、健康日本 (5/18月・4限)			寺坂禮治		
7	産業保健と勤労者医療（第8章） 心身の発達、学校保健とう障害児教育（第9章）	労働安全衛生法に基づく一般健康診断、メンタルヘルス対策 出生、発達と養育、学校保健、障害児施設と障害児教育			原寿郎		
8	高齢者医療、健康長寿と介護保険（第10章） 医療安全（第13章）	健康長寿、介護保険 医療事故の原因と対処、院内感染予防、病院の安全管理体制			上野道雄		
9	医療職の役割とチーム医療（第12章） 災害医療（第14章）	医療の担い手、医療専門者間のチームワーク、課題対応チーム医療の実際 我が国の災害医療対策、災害時救護医療のキーワード			富永隆治		
10	医療の現場（1）	産科・婦人科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、診断、治療） (6/25木・1限)			林広典		
11	医療の現場（2）	内科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、診断、治療）			有田武史		
12	医療の現場（3）	外科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、診断、治療）			蒲池浩文		
13	国際医療協力（16章）医学研究と臨床への応用（17章） 医療と法律（第18章）	国際医療協力、臨床医学研究、医療と法律 (7/6月・4限)			有信洋二郎		
14	医療の現場（4）	脳神経外科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、診断、治療）			福山幸三		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医学概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
富永隆治				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	まとめ	富永隆治

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中山 広宣				講義		

授 業 概 要
リハビリテーションの歴史や理念，医療人としての基本的事項を論説し，リハビリテーションの対象となる障害とリハビリテーションの流れを教授する．そして，リハビリテーションに関わる各種専門職とその職務内容を説明することで，関連職種が協働する専門職連携（チーム医療）の重要性とリハビリテーションを取り巻く社会や社会保障制度から障害者の支援を考える．

到 達 目 標
1. リハビリテーションの定義，障害の概念，ノーマライゼーションやQOLについて説明できる 2. 代表的な障害分類について説明できる 3. リハビリテーションの過程を説明できる． 4. リハビリテーションの関連職種と役割について概説できる 5. 各種専門職が連携するチーム医療の重要性について述べることができる 6. リハビリテーションに関連する社会保障制度を説明できる．

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストと資料を読んで，疑問点を整理しておくこと． 事後学修：テキスト，講義資料，参考資料などを用いて，学修した内容を整理し，理解を深める．

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ○ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。 ○ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ◎ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。 ◎ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
小テスト，定期試験，60点以上を合格とする．

教 科 書
1. 医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版（永井書店）ISBN：978-4-8159-1922-1 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項
遅刻３回は欠席１回とする． 講義中の離席・私語はしない．

オフィスアワー等
在室時随時

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中山 広宣				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論：医療人の構え	リハビリテーションにおける医療人の構え（在り方）：グループ討議	中山広宣
2	患者理解と支援	障害者の理解と支援，コミュニケーション，傾聴・受容・共感・支持：グループ討議	中山広宣
3	リハビリテーションの歴史	欧米・日本の歴史（身体障害・精神障害・肢体不自由児）	中山広宣
4	リハビリテーションの定義	リハビリテーションの定義と目的，リハビリテーションの4分野，地域リハビリテーション	中山広宣
5	障害の分類	国際障害分類（ICIDH），国際生活機能分類（ICF），	中山広宣
6	障害と心理機制	心理的障害と障害受容，防衛機制	中山広宣
7	チームリハビリテーション	各専門職の役割とチームアプローチ	中山広宣
8	リハビリテーションの過程	評価，治療計画，ゴール	中山広宣
9	身体障害リハビリテーション	身体障害の特徴と評価：中枢神経障害，肢体不自由、内部障害	中山広宣
10	精神障害リハビリテーション	精神障害・発達障害の特徴と評価：統合失調症、躁うつ病，うつ病など	中山広宣
11	リハビリテーションの管理	記録・管理・組織運営	中山広宣
12	リハビリテーションと社会保障制度	社会福祉と公的扶助制度、保健医療制度、社会保険制度、介護保険制度，精神保健福祉法	中山広宣
13	リハビリテーションと作業療法1	生活，人生における作業の意義	中山広宣
14	リハビリテーションと作業療法2	リハビリテーションにおける作業療法の領域	中山広宣

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中山 広宣				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	リハビリテーションと倫理	中山広宣

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
保健医療福祉制度論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鎌田 厚志				講義		

授 業 概 要
医療福祉分野の専門職として知っておくべき基本的な法令の概要とその役割について学ぶ。また、我が国における国民の健康維持・増進に寄与する各種法令と社会資源について学び、医療を取り巻く現状の諸問題や将来展望について理解する。

到 達 目 標
1. 因療福祉に関係する法令の名称を挙げ、その概要について説明することができる 2. 自身が目指す資格（職種）に関係する法令の名称を挙げ、その概要について説明することができる 3. 国民の健康のために各種法令が果たす役割について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨む 事後学習：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験（100%）

教 科 書
1. 府川哲夫・磯部文雄（著）『保健医療福祉行政論〔第三版〕』ミネルヴァ書房、2025年2月刊 2. 配布資料

参 考 図 書
系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問は、授業の前後に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
保健医療福祉制度論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鎌田 厚志				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	法の概念 衛生法	法の概念、衛生法、厚生労働行政のしくみについて	鎌田厚志
2	医療サービス①	医療保険制度の概要	鎌田厚志
3	医療サービス②	診療報酬、医療保険の実施体制	鎌田厚志
4	医療サービス③	医療提供体制 医療提供の状況 地域医療構想などについて	鎌田厚志
5	医療サービス④	高齢者医療 後期高齢者医療制度 日本医療サービスの特徴と課題	鎌田厚志
6	介護サービス①	介護保険成立の事情 介護保険制度の概要	鎌田厚志
7	介護サービス②	介護提供体制 介護マンパワー 現行介護提供体制の課題	鎌田厚志
8	社会福祉サービス①	社会福祉制度の歴史 福祉行政の実施体制	鎌田厚志
9	社会福祉サービス②	生活保護制度の歴史 生活保護制度の実態	鎌田厚志
10	社会福祉サービス③	高齢者福祉と制度 主な高齢者福祉サービス	鎌田厚志
11	社会福祉サービス④	障害者福祉 障害者総合支援法	鎌田厚志
12	社会福祉サービス⑤	児童家庭福祉 母子・寡婦福祉	鎌田厚志
13	社会福祉サービス⑥	地域福祉 社会福祉法 福祉事務所	鎌田厚志
14	保健医療福祉財政	国の保健医療福祉予算 日本の社会保障の規模	鎌田厚志

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
保健医療福祉制度論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鎌田 厚志				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	環境法、労働法	環境基本法 労働基準法 まとめ	鎌田厚志

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法学概論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 敏				講義		

授 業 概 要
作業療法を学ぶ学生のための道標となる科目である。最初に作業療法のルーツとアーツアンドクラフツ運動、パラダイム理論に基づく米国作業療法の歴史、そして、わが国の作業療法の歴史について学修する。次に作業療法実践の事例、作業療法における「作業」の意義、「作業」と健康との関係、作業療法の対象と場所、作業療法のプロセス、作業療法モデル論、作業療法の進化について学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標
1. 作業療法の発展に尽くした国内外の先達を10人あげることができる 2. パラダイム理論で作業療法の歴史を説明できる 3. 作業療法における作業の意義について説明できる 4. 作業療法のプロセスを説明できる 5. 日本作業療法士協会のホームページにアクセスし、その活動について知ることができる 6. 作業療法を家族や友人に分かりやすく説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：必ず教科書を読んで授業に臨んで下さい 事後学修：作成したノートや配布した資料及び確認テストを一元的にファイル化して下さい

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
筆記試験（毎回授業終了時に行う確認テスト50%、復習テスト2回（50%）100%

教 科 書
鎌倉矩子・著：作業療法の世界、三輪書店、978-4-89590-205-2

参 考 図 書
日本作業療法士協会・監修：作業療法概論、協同医書、978-4-7639-2118-5 矢谷令子・監修：作業療法学概論、医学書院、978-4-260-02535-5

留 意 事 項
確認テストは各授業の終了前に行います。教科書や配布資料、自身のノートをみて解答してかまいませんが、他者と相談してはいけません。欠席は0点となります。復習テストは実施した確認テストから出題しますが持ち込みは禁止します。

オフィスアワー等
月、火曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士としての実務経験（身体・発達・高齢期の臨床経験）は数十年です。

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法学概論		2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
近藤 敏					講義		
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	序	私は作業療法士Occupational Therapist OT! 作業は手段か目的か			近藤敏		
2	作業療法の生い立ち 1	古代養生法としての作業、作業療法の源流～18・19世紀の道徳療法、ピネルの功績、米国における隆盛と衰退			近藤敏		
3	作業療法の生い立ち 2	作業の再発見～アーツアンドクラフツ運動、作業療法の創始者達			近藤敏		
4	作業療法の生い立ち 3	米国における作業療法の成立～第一次世界大戦と「再建助手」、作業療法の認知と拡大			近藤敏		
5	わが国における作業療法の発展 1	黎明期～精神科医と作業療法、結核の作業療法、肢体不自由児の療育			近藤敏		
6	わが国における作業療法の発展 2	作業療法の再生と新生、新しい作業療法の始まり、「作業療法士」の誕生			近藤敏		
7	わが国における作業療法の発展 3	国試受験の特例措置、作業療法の診療報酬化、新たな保健政策と作業療法			近藤敏		
8	作業療法の現在 1	復習テスト1、作業療法実践例～作業と健康との関係			近藤敏		
9	作業療法の現在 2	作業療法実践例～作業と健康との関係			近藤敏		
10	作業療法の現在 3	作業療法実践例～作業と健康との関係			近藤敏		
11	作業療法の現在 4	作業の意義、作業の範囲、作業療法士の役割、集団の利用			近藤敏		
12	作業療法実践の枠組み 1	作業療法の前提概念～創始者の思想、ライリーの作業行動パラダイム、作業療法の対象者、行われる場所			近藤敏		
13	作業療法実践の枠組み 2	作業療法実践のプロセス、作業療法評価と介入の技術、臨床思考過程（クリニカル・リーズニング）			近藤敏		
14	作業療法モデル論	人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、AOTAの公式見解、作業科学の参入			近藤敏		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法学概論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 敏				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	作業療法の進化	復習テスト2、作業療法の効果の検証、まとめ	近藤敏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業学実習Ⅰ（手工芸等・作業分析）	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子				実習		

授 業 概 要
作業療法で活用頻度の高い手工芸、絵画、陶芸を学修者が実際に経験することにより、それが身体（からだ）と精神（こころ）に与える影響を分析する。また、各種の手工芸に用いる素材や材料が持つ特性に触れ、それらの応用方法も考えていく。さらに、各手工芸の分析を行い、作業の特徴・工程・段階付け・効果・適用等を学修する。

到 達 目 標
1. 臨床において使用する代表的な作業活動（手工芸）の手順や工程について自分の言葉で説明ができる 2. 臨床において使用する代表的な作業活動（手工芸）について、作業分析ができる 3. 臨床において使用する代表的な作業活動（手工芸）について、基本技術を修得できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各講義の内容に該当する活動につき、テキストに目を通しておくこと 事後学修：講義ごとにレポート形式の課題の提出を求めます。各期限、提出方法を守ってください

対応DP
◎ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
各教員が提示する提出課題を100％として判定する

教 科 書
作業活動実習マニュアル 第二版 医歯薬出版 古川宏

参 考 図 書

留 意 事 項
・各講義における課題（レポート等）の提出期限や形式は、各教員に確認してください ・講義内容により、講義室が異なります。必ず確認して出席してください

オフィスアワー等
オフィスアワーは別段設けていません。メールにて事前に予約すれば確実です ①角田（革細工）：t.kakuda@rhs-u.ac.jp ②坂口（手工芸一般）：s.sakaguchi@rhs-u.ac.jp ③吉田（陶芸）：k.yoshida@rhs-u.ac.jp

実 務 経 験
実習を担当する教員3名とも、作業療法士としての実務経験があり、代表的な作業についての経験も豊富である

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業学実習Ⅰ（手工芸等・作業分析）	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子				実習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション	作業学実習Ⅰで行う内容について説明する	角田
2	作業とは	作業（Occupation）とは何か概論を説明する	角田
3	革細工（１）	基本的な革細工（コースター作成）について 革細工の特性を学ぶ	角田
4	革細工（２）	基本的な革細工（コースター作成）について 技術（掘り）を経験する	角田
5	革細工（３）	基本的な革細工（コースター作成）について 技術（塗り）を経験する	角田
6	革細工（４）	基本的な革細工（コースター作成）について 作業分析を行う	角田
7	スプールウィービング （１）	自らが修得した技術を人に伝える経験をする	角田
8	スプールウィービング （２）	自らが修得した技術を人に伝え、行ってもらった内容について振り返る	角田
9	マクラメ（１）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口
10	マクラメ（２）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口
11	パンチングニードル（１）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口
12	パンチングニードル（２）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口
13	パンチングニードル（３）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口
14	紙袋リメイク（１）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業学実習Ⅰ（手工芸等・作業分析）	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子				実習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	紙袋リメイク（2）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口
16	紙袋リメイク（3）	基本的な手工芸について経験をし、作業分析を行う	坂口
17	陶芸（1）	応用的な手工芸について経験をする ＊登録された開講曜日以外に講義が移動する場合がありますので注意すること	吉田
18	陶芸（2）	応用的な手工芸について経験をする ＊登録された開講曜日以外に講義が移動する場合がありますので注意すること	吉田
19	陶芸（3）	応用的な手工芸について経験をする ＊登録された開講曜日以外に講義が移動する場合がありますので注意すること	吉田
20	陶芸（4）	応用的な手工芸について経験をする ＊登録された開講曜日以外に講義が移動する場合がありますので注意すること	吉田
21	陶芸（5）	応用的な手工芸について経験をする ＊登録された開講曜日以外に講義が移動する場合がありますので注意すること	吉田
22	園芸（1）	応用的な手工芸について経験をする ＊登録された開講曜日以外に講義が移動する場合がありますので注意すること	吉田
23	園芸（2）	応用的な手工芸について経験をする ＊登録された開講曜日以外に講義が移動する場合がありますので注意すること	吉田

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
スポーツ実践	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
小西 裕之				演習		

授 業 概 要
学生の健康管理の一環ともなるよう、様々なスポーツを経験することで体を動かし健康づくりについて考えるとともに、お互いに協力してコミュニケーション力を向上させ、生涯スポーツに取り組めるように学ぶ。スポーツ実践の際はその競技のルールに従うことや、チームで行う場合は協力し、ともに仲間の力を信じてお互いの能力を最大限に発揮できるように臨むことが必要となる。各スポーツの実践を通して協調性や、目標を共有し協力しあう楽しさも学修する。

到 達 目 標
1. スポーツの健康に対する意義について説明できる 2. 運動を通してチームと協力して目的を達成できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについてゲームのルール等調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマについて振り返りや自主的に練習する

対応D P
☒ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☐ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。
☐
☐
☐
☐

評 価
出席2/3以上が基本

教 科 書
なし

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
水曜日10時～12時

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
スポーツ実践	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
小西 裕之				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	レクリエーション運動の歴史	授業ガイダンス レクリエーション（自己紹介を兼ねる）	小西裕之 鳥越弘史
2	スポーツ実技1	バレーボール・バスケットボール 1	小西裕之 鳥越弘史
3	スポーツ実技2	バレーボール・バスケットボール 2	小西裕之 鳥越弘史
4	スポーツ実技3	バレーボール・バスケットボール 3	小西裕之 鳥越弘史
5	スポーツ実技4	バレーボール・バスケットボール・ウォーキング 1	小西裕之 鳥越弘史
6	スポーツ実技5	バレーボール・バスケットボール・ウォーキング 2	小西裕之 鳥越弘史
7	スポーツ実技6	バレーボール・バスケットボール・ウォーキング 3	小西裕之 鳥越弘史
8	スポーツ実技7	バレーボール・ドッチボール 1	小西裕之 鳥越弘史
9	スポーツ実技8	バレーボール・ドッチボール 2	小西裕之 鳥越弘史
10	スポーツ実技9	ドッチボール・バドミントン 1	小西裕之 鳥越弘史
11	スポーツ実技10	ドッチボール・バドミントン 2	小西裕之 鳥越弘史
12	スポーツ実技11	ドッチボール・バドミントン 3	小西裕之 鳥越弘史
13	スポーツ実技12	ドッチボール・バドミントン 4	小西裕之 鳥越弘史
14	スポーツ実技13	ドッチボール・バドミントン 5	小西裕之 鳥越弘史

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
スポーツ実践	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
小西 裕之				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	スポーツと健康 まとめ	スポーツの健康に対する意義、まとめ	小西裕之 鳥越拡史

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
経営学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
加藤 佳奈				講義		

授 業 概 要
本科目では、企業や経営についての基本的知識を学修すると共に、現代社会におけるその役割と意味について考え、社会における経営の問題に興味・関心を抱き、専門学修へと展開していかれるような力を育成することを目的とする。経営について事例やディスカッション※をつうじて学ぶことで、経営的なものの見方・考え方を身につける。社会状況に応じた戦略的な考え方を学び、経営組織の基本形態とその特徴を学ぶことで、経営組織を機能させる思考や、資源をいかに活用するかなど、将来的に施設運営に参画できるような基礎的能力を養う。なお、講義計画の内容は、受講生の関心や講義の進捗により調整・変更することがある。 ※ディスカッションの実施（予定：受講者数による） 例：受講生自身の生活費を例に、経営について考える 病院の認知度を高めるための方法を、身近な例（お菓子など）をもとに考えてみる など

到 達 目 標
1．現代社会の重要な機関としての「企業」に焦点をあて、その社会的な役割・目的・責任などを理解する 2．企業の存続と発展にとって不可欠な「経営」について説明できる 3．経営の基礎理論について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応D P

評 価
毎回の講義後のミニッツペーパー（20%）、全講義終了後の試験または課題レポート（80%） ※本年度は試験を予定していますが、受講者数や講義の進捗等により学期途中に決定します。 その他、受講態度等により加点・減点します。

教 科 書
講師資料

参 考 図 書
適宜紹介する。

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
経営学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
加藤 佳奈				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	イントロダクション 経営学とは何かー	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価、経営学の目的および意義	加藤佳奈
2	事業とは	「生産・営利」などの目的を伴う活動としての事業	加藤佳奈
3	企業とは	企業の役割、制度、形態	加藤佳奈
4	経営理論と 企業の諸形態	企営理論、企業・会社・病院・施設の諸形態	加藤佳奈
5	戦略とは 経営戦略	経営戦略の3つのレベル、企業戦略・事業戦略・機能戦略	加藤佳奈
6	組織とは 基本形態とその特徴	事務部制組織、職能別組織	加藤佳奈
7	経営資源とは ヒト・モノ・カネ・情報	人的資源(ヒト)、物的資源(モノ)、財務的資源(カネ)、情報の資源(情報)	加藤佳奈
8	復習・まとめ	講義のまとめと最終レポートの説明を行う。	加藤佳奈

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
韓国語Ⅰ（日常会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白岩 美穂				演習	演習	

授 業 概 要
2000年代の初め、韓流ブームが日本国内で沸騰し、2018年度には韓国人訪日客は約750万人、日本人訪韓客は約300万人に達した。韓国語を学ぶ人口も飛躍的に伸びた。韓国語を初めて学ぶ学生諸君を対象に、韓国語の基本である発音を身につけ、簡単な日常会話（挨拶等）ができるように韓国語に関する体系的な基礎知識を学ぶ。韓国語と日本語は基本的な語順が同一であるので、学生諸君はその修得スピードに驚くだろう。併せて、韓国文化の理解と共に、韓国語で簡単なコミュニケーションを可能にする。

到 達 目 標
1．基本的な発音ルールを習得し、文字を読み、書くことができる。 2．韓国語であいさつができる 3．韓国語で自己紹介ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を復習する

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
平常点(課題を含む)：30%、小テスト：30%、定期試験：40%

教 科 書
書名：コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ(長谷川由起子) 出版社名：白帝社 ISBNコード：ISBN9784863980860

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後質問を受け付ける

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
韓国語Ⅰ（日常会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白岩 美穂				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	ガイダンス 母音と母音字母Ⅰ 半母音と母音字母Ⅱ	①ガイダンス ②ハングルの仕組みと文の構造 ③1課 1. 母音と母音字母Ⅰ、2. 半母音と母音字母Ⅱ ④出会いのあいさつⅠ	白岩美穂
2	子音と子音字母Ⅰ	①2課 子音と子音字母Ⅰ ②出会いのあいさつⅡ	白岩美穂
3	無声子音の有声音化	①3課 無声子音の有声音化 ②別れのあいさつⅠ	白岩美穂
4	激音と子音字母Ⅱ	①4課 激音と子音字母Ⅱ ②別れのあいさつⅡ	白岩美穂
5	濃音と子音字母Ⅲ	①5課 濃音と子音字母Ⅲ ②尋ねる・答える	白岩美穂
6	半母音と母音字母Ⅲ	①6課 半母音と母音字母Ⅲ ②感謝の言葉Ⅰ	白岩美穂
7	終声とバッチム	①7課 終声とバッチム	白岩美穂
8	数の数え方Ⅰ	①7課 感謝の言葉Ⅱ ②数の数え方Ⅰ	白岩美穂
9	連音 「～です／～ですか」	①8課 連音Ⅰ・Ⅱ ②名詞文「～です／～ですか」	白岩美穂
10	日本語のハングル表記 hの弱音化	①日本語のハングル表記 ②8課 プレゼントをもらった時の会話 ③9課 hの弱音化	白岩美穂
11	鼻音化 「～は～ですか」	①9課 鼻音化Ⅰ・Ⅱ ②謝罪の言葉 ③10課 「～は～ですか」	白岩美穂
12	「～といます」	①10課 「～といます」 ②自己紹介	白岩美穂
13	激音化 数の数え方Ⅱ	①11課 激音化 ②数の数え方Ⅱ	白岩美穂
14	日付	①11課 月日の言い表し方 ②誕生日を尋ね、答える	白岩美穂

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
韓国語Ⅰ（日常会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白岩 美穂				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	韓国語Ⅰのまとめ	①11課までの復習 ②自己紹介	白岩美穂

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
中国語Ⅰ（日常会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黄 冬 柏				演習		

授 業 概 要
アジア圏の中で中国のエネルギーはすさまじいものがある。人口も14億と多く、多くの人が世界中を旅したり、留学したりと、日常的に私たちが中国語を耳にする機会も増えてきている。福岡の地は中国からの旅行者も多くみられる。中国語の基本である発音を身につけ、会話を通して簡単な日常会話（挨拶 他）ができるように学ぶ。また日常会話を通して現代中国の文化や社会について理解できるように概説する。学修を通してお互いの文化や考え方の理解につながるように学ぶ。

到 達 目 標
1. 基本的な子音や母音が発音できる。 2. 中国語であいさつができる。 3. 中国語で簡単な日常会話ができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応DP
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
1) 授業到達目標への到達努力の評価 2) 最終到達度の評価

教 科 書
芦 益平・黄 冬柏『漢語生活会話』 白帝社 ISBN 9784891746780

参 考 図 書

留 意 事 項
朗読や練習など、日常の学習が非常に大切なので、必ず予習と復習を行うこと。中国語のリズムや抑揚を体得するには、ヒアリングが一番重要なので、教科書に付いているCDを繰り返し聴くこと。授業中は積極的に声を出して練習すること。

オフィスアワー等
授業時間の前後、あるいはメール（huang@kyukyo-u. ac. jp）で対応する。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
中国語Ⅰ（日常会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黄 冬 柏				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	ガイダンス	パワーポイントで、まずは担当教員の簡単な自己紹介を行い、次は授業の内容や進め方および成績評価などについて詳しく説明し、最期に中国と中国語について紹介する。	黄 冬 柏
2	発音（１）：声調と単母音	声調と単母音の発音要領を説明し、練習を行う。（教科書p1-p3）	黄 冬 柏
3	発音（２）：子音	子音の発音要領を説明し、練習を行う。（教科書p5-p8）	黄 冬 柏
4	発音（３）：複合母音	複合母音の発音要領を説明し、練習を行う。（教科書p10-p12）	黄 冬 柏
5	発音（４）：発音の規則	発音の規則を説明し、練習を行う。（教科書p14-p16）	黄 冬 柏
6	第5課：時間	単語と本文を説明し、発音を練習する。（教科書p21-p22）	黄 冬 柏
7	文法の学習と練習問題	文法を解説し、練習問題を解く。（教科書p23-p26）	黄 冬 柏
8	復習と中間テスト	これまで勉強した内容を復習した後、中間テストを行う。	黄 冬 柏
9	第6課：天気	単語と本文を説明し、発音を練習する。（教科書p27-p28）	黄 冬 柏
10	文法の学習と練習問題	文法を解説し、練習問題を解く。（教科書p29-p32）	黄 冬 柏
11	第7課：家庭	単語と本文を説明し、発音を練習する。（教科書p33-p34）	黄 冬 柏
12	文法の学習と練習問題	文法を解説し、練習問題を解く。（教科書p35-p38）	黄 冬 柏
13	第8課：買物	単語と本文を説明し、発音を練習する。（教科書p39-p40）	黄 冬 柏
14	文法の学習と練習問題	文法を解説し、練習問題を解く。（教科書p41-p44）	黄 冬 柏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
中国語Ⅰ（日常会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黄 冬 柏				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	復習、まとめ	復習や質疑応答を行った後、期末試験について説明する。	黄 冬 柏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学Ⅱ（下肢、歩行）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習	対面参加	

授 業 概 要
作業療法で接することの多い運動機能障害の問題を解決するために、人の随意運動のメカニズムについて学修する。骨盤帯・下肢・歩行における各関節の構造と機能を解説した後、運動の力源である各筋の作用、さらに筋収縮時における腱、靱帯との関連性を疾患・障害を交えながら学修する。また、骨盤帯や下肢の関節の特徴と正常歩行と異常歩行について作業療法の視点から学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標
1. 骨盤帯・下肢の構造（骨・関節・靱帯・筋・神経）を理解し、各関節の運動のメカニズムが理解できる 2. 姿勢保持機構と正常歩行について理解する 3. 疾患と障害による運動学的特徴について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各単元の教科書を読み、わからない言葉については調べておく 事後学修：授業資料や教科書を振り返り、説明できるようにまとめる

対応DP
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ○ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。 ○ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ○ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。

評 価
筆記試験（70％）・小テスト（20％）・授業態度（提出物や忘れ物など）（10％）を総合して評価する

教 科 書
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 原著者 Donald A. Neumann 医歯薬出版株式会社

参 考 図 書
身体運動学 関節の制御機構と筋機能 基礎運動学 第6版

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火曜日（11時～12時）・木曜日（16時～）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学Ⅱ（下肢、歩行）		2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
近藤 昭彦					演習	対面参加	
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	各論：股関節の運動学①	股関節の骨構造・股関節の関節構造について 股関節運動の基礎となる骨盤・大腿骨近位部の解剖学的構造を振り返り定着させる			近藤昭彦		
2	股関節の運動学②	股関節の受動的制御と受動的制御の機能障害について の関節運動の特徴を理解する			股関節	近藤昭彦	
3	股関節の運動学③	股関節の能動的制御と能動的制御の機能障害について の関節運動における筋の作用を理解する			股関節	近藤昭彦	
4	各論：膝関節の運動学①	膝関節の骨構造・関節構造について 膝関節運動の基礎となる大腿骨遠位部・脛骨骨近位部の解剖学的構造を振り返り定着させる			近藤昭彦		
5	膝関節の運動学②	膝関節の受動的制御；膝関節の構造・関節包・靱帯による運動制御について 理解する			近藤昭彦		
6	膝関節の運動学③	膝関節の能動的制御；筋による運動制御について理解する			近藤昭彦		
7	膝関節の運動学④	膝関節の機能障害と運動学；変形性膝関節症などについて理解する			近藤昭彦		
8	各論： 足関節と足部の運動学①	足関節・足部の骨構造, 関節の関節構造, 関節の受動的制御（関節構造・関節包・靱帯による運動制御）について振り返り定着させる			近藤昭彦		
9	足関節と足部の運動学②	足関節・足部の能動的制御と関節の機能障害と運動学について理解する			近藤昭彦		
10	各論： 立位姿勢と姿勢制御①	立位姿勢と姿勢制御；力学的平衡・姿勢制御・運動器系, 感覚器系の役割について理解する			近藤昭彦		
11	立位姿勢と姿勢制御②	立位姿勢と姿勢制御；中枢神経系の役割・座位, 立位の姿勢制御について理解する			近藤昭彦		
12	各論：歩行①	歩行周期と歩行に関する各因子, 身体重心と床反力、歩行における3つの機能などについて理解する			近藤昭彦		
13	歩行②	歩行時の各関節の運動と筋活動・力学的エネルギーなどについて理解する			近藤昭彦		
14	各論：呼吸の運動学	呼吸の運動学 胸郭の動き・横隔膜・呼吸筋についてについて理解する			近藤昭彦		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学Ⅱ（下肢、歩行）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習	対面参加	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	各論：摂食・嚥下の運動学	咀嚼筋および嚥下に関するメカニズムについて理解する	近藤昭彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、吉田 和弘、坂口 聡子				実習	対面参加	

授 業 概 要
解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎知識をもとに、身体運動のメカニズムについて実習を交えて理解する。人体における骨、関節、骨格筋の位置の確認および触診を行う。上肢（肩甲骨、肩、肘、前腕、手）、下肢（骨盤、股、膝、足）、体幹（頭部、顔面、頸部、胸部、腰部）の運動機能を自身と他人の身体を使って体験し理解する。人の基本的動作を運動学的に分析し、運動学の知識を日常生活活動との関連で理解する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標
1. 人体における、骨、関節、筋など触診可能ができる 2. 身体運動のメカニズムについて重心と支持基底面の関係を説明できる 3. 基本的動作介助法の力学的説明ができる 4. 床反力計や筋電計などを用いた運動学的分析の重要性を理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：事前配布資料および教科書の該当箇所を読み、専門用語については調べておく 事後学修：授業資料を振り返り、実際に実技でやったことを確実に再現できるように練習をする

対応D P
○ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。 ○ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ○ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。 ○ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
実技50％　筆記試験50％

教 科 書
「機能解剖学的触診技術 上肢」青木隆明　監修　MEDICAL VIEW

参 考 図 書
リハビリテーションの考え方をとり入れた介助のしかたー

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火曜日（11時～12時）・木曜日（16時～）2808研究室・8階作業療法学科共同研究室　メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
本授業科目は医療・介護・地域分野で豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、吉田 和弘、坂口 聡子				実習	対面参加	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	上肢・体幹を構成する骨・筋①（肩甲骨・肩甲上腕関節）	触診の基礎・上肢帯を構成する骨と肩甲帯周囲筋の位置関係について理解し、骨のランドマークおよび、主要な筋の筋腹を触診することができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
2	上肢・体幹を構成する骨・筋②（肩甲骨・肩甲上腕関節）	上肢帯を構成する骨と肩甲帯周囲筋の位置関係について理解し、骨のランドマークおよび、主要な筋の筋腹を触診することができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
3	上肢・体幹を構成する骨・筋③（肘関節～手指）	上肢肘関節から指先にかけての骨と関連する筋の位置関係を理解し、骨のランドマークおよび主要な筋の筋腹を触診することができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
4	上肢・体幹を構成する骨・筋④（脊柱・胸郭）	脊柱・体幹の骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診することができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
5	上肢・体幹を構成する骨・筋⑤（頭頸部）	頭頸部における骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診することができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
6	上肢・体幹を構成する骨・筋⑥（顔面）	顔面における骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診できる。また、咀嚼・嚥下の運動に関連した部位の触診も行う	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
7	上肢・体幹を構成する骨・筋⑦（まとめ）	上肢・体幹・顔面を構成する骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診することができる。	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
8	上肢・体幹を構成する骨・筋⑧（確認テスト）	教員より指定された上肢・体幹・顔面を構成する骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診することができる。	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
9	骨盤・下肢を構成する骨・筋①	骨盤帯における骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
10	骨盤・下肢を構成する骨・筋②	骨盤帯における骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
11	骨盤・下肢を構成する骨・筋③	大腿骨における骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
12	骨盤・下肢を構成する骨・筋④	脛骨・腓骨における骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
13	骨盤・下肢を構成する骨・筋⑤	足関節・足部における骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
14	骨盤・下肢を構成する骨・筋⑥（まとめ）	骨盤・下肢を構成する骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診することができる。	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、吉田 和弘、坂口 聡子				実習	対面参加	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	骨盤・下肢を構成する骨・筋⑦（確認テスト）	教員より指定された骨盤・下肢を構成する骨のランドマークの触診と主要な筋の筋腹を触診することができる。	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
16	ボディメカニクス①	基本的姿勢と支持基底面・重心の関係について立ち上がり動作などを実際に行いながら、説明できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
17	ボディメカニクス②	姿勢変化と立ち直り・平衡反応を実際に行いながら、姿勢制御について説明ができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
18	ボディメカニクス③	床反力計・動作解析装置を用いた分析方法を学ぶ	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
19	基本的動作介助法①	寝返り・起き上がり・立ち上がり動作における、正常動作の分析を行い、説明ができる 介助法について運動学的に分析し、介助法について説明できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
20	基本的動作介助法②	寝返り・起き上がり・立ち上がり動作における、介助法について運動学的に分析し、介助法について説明できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
21	基本的動作介助法②	寝返り・起き上がり・立ち上がり動作における、介助法について運動学的に分析し、介助法について説明できる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
22	基本的動作介助法③	歩行分析を基に、歩行介助方法の基礎ができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子
23	基本的動作介助法③	歩行分析を基に、歩行介助方法の基礎ができる	近藤昭彦 吉田和弘 坂口聡子

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
内科学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口浩雄				演習	講義	

授 業 概 要
代表的な内科疾患（循環器疾患、血液・造血管疾患、アレルギー疾患、膠原病、免疫不全、感染症）について、関連する解剖学・生理学・症候・検査法の基礎的な知識について学ぶ。また、各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に留意すべきことについて考える。

到 達 目 標
1. 各疾患に関連する器管の解剖と生理について説明することができる 2. 各疾患の代表的な症候について説明することができる 3. 各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に、留意すべきことについて考える

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学習：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること

対応DP

評 価
期末試験（100%）

教 科 書
1. PTOT標準理学療法学・作業療法学 内科学（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後に質問を受け付けます。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
内科学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口浩雄				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	病態・疾患の総論、内科的診断と治療、各種症候の総論①	井口東郎
2	総論	病態・疾患の総論、内科的診断と治療、各種症候の総論②	井口東郎
3	循環器疾患	循環器系の解剖と生理、主要な症候、検査法、循環器疾患各論①（循環器総論）	和白病院循環器内科医師
4	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	免疫系の働き、アレルギー疾患、膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症①	原寿郎
5	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	免疫系の働き、アレルギー疾患、膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症②	原寿郎
6	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	免疫系の働き、アレルギー疾患、膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症③	原寿郎
7	循環器疾患	循環器系の解剖と生理、主要な症候、検査法、循環器疾患各論②（虚血）	和白病院循環器内科医師
8	循環器疾患	循環器系の解剖と生理、主要な症候、検査法、循環器疾患各論③（心不全）	和白病院循環器内科医師
9	循環器疾患	循環器系の解剖と生理、主要な症候、検査法、循環器疾患各論④（不整脈）	和白病院循環器内科医師
10	感染症	感染症総論（感染症とは、病原体、感染経路、感染部位、生体反応、臨床症状） 感染症各論（細菌感染症、真菌症、ウィルス感染症、寄生虫病、プリオン病）①	山口浩雄
11	感染症	感染症総論（感染症とは、病原体、感染経路、感染部位、生体反応、臨床症状） 感染症各論（細菌感染症、真菌症、ウィルス感染症、寄生虫病、プリオン病）②	山口浩雄
12	感染症	感染症総論（感染症とは、病原体、感染経路、感染部位、生体反応、臨床症状） 感染症各論（細菌感染症、真菌症、ウィルス感染症、寄生虫病、プリオン病）③	山口浩雄
13	血液・造血器疾患	血液の成分と生理、造血と分化、主要な症候、検査法、血液疾患各論①	田口 文博
14	血液・造血器疾患	血液の成分と生理、造血と分化、主要な症候、検査法、血液疾患各論②	田口 文博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
内科学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口浩雄				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	血液・造血器疾患	血液の成分と生理、造血と分化、主要な症候、検査法、血液疾患各論③	田口 文博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
神経内科学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 浩雄				演習	講義	

授 業 概 要
神経内科領域の臨床症候について、神経解剖学と神経生理学の観点から全般的に学ぶ。また、各症候とリハビリテーションに関連する事項について学ぶ。

到 達 目 標
1. 神経系の構造と機能について概説することができる 2. 神経学的診断の意義と検査法について説明することができる 3. 各症候の概念や特徴について説明することができる 4. 各症候とリハビリテーションに関連する事項について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：テキスト、参考書で該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする 事後学修：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める 講義後配布される復習課題を解き理解を深める

対応DP
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐
☐
☐
☐
☐

評 価
筆記試験（100%）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火、木曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることをとする。

実 務 経 験
担当する教員は、臨床現場におけ神経内科医としての実務経験を活かして講義を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
神経内科学 I（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 浩雄				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	中枢神経系の解剖と機能	神経の発達と加齢、中枢神経・末梢神経の構造と機能、神経の再生と可塑性	山口浩雄
2	神経学的診断法	神経学的診断と評価、神経学的検査法	山口浩雄
3	神経症候学	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神の概念・分類・特徴	山口浩雄
4	神経症候学	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮の概念・分類・特徴	山口浩雄
5	神経症候学	錐体外路徴候、不随意運動の概念・分類・特徴	山口浩雄
6	神経症候学	運動失調、感覚障害の概念・分類・特徴	山口浩雄
7	神経症候学	高次脳機能障害（失語）の概念・分類・特徴	山口浩雄
8	神経症候学	高次脳機能障害（失認）の概念・分類・特徴	山口浩雄
9	神経症候学	高次脳機能障害（失行）の概念・分類・特徴	山口浩雄
10	神経症候学	高次脳機能障害（記憶障害）の概念・分類・特徴	山口浩雄
11	神経症候学	高次脳機能障害（注意障害）の概念・分類・特徴	山口浩雄
12	神経症候学	高次脳機能障害（遂行機能障害）の概念・分類・特徴	山口浩雄
13	神経症候学	構音障害、嚥下傷害の概念・分類・特徴	山口浩雄
14	神経症候学	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状の特徴	山口浩雄

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
神経内科学 I（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 浩雄				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	総括	まとめ	山口浩雄

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
整形外科科学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
関矢仁				演習	講義	

授 業 概 要
運動機能や日常生活活動を障害する代表的な整形外科疾患の病因や病態生理、診断と治療の総論を学ぶことにより、整形外科疾患のリハビリテーションを行うために必要な基礎知識を修得する。

到 達 目 標
1. 運動器の構造と機能について説明することができる 2. 整形外科疾患に対する検査と診断の概要について説明することができる 3. 代表的な疾患の概要について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応DP

評 価
筆記試験（100%）

教 科 書
1. 標準整形外科科学（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後質問を受け付けます

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
整形外科学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
関矢仁				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	骨	骨の構造・生理・生化学・発生・成長・維持・病態・病理、骨の修復と再生	原國睦
2	関節	関節の構造・生理・生化学・病態・病理、関節軟骨の修復と再生	石橋鍊
3	筋骨格の構造と痛み	骨格筋および神経の構造と機能、痛みの定義・分類・生理学・評価・治療	関矢仁
4	検査と診断	視診、触診、四肢の計測と筋力評価、神経学的検査、機能評価、画像検査、検体検査、生体検査、他	関矢仁
5	保存療法と手術療法	保存療法の種類（安静、薬物療法、徒手整復、牽引法、固定法、他） 整形外科領域における手術の特徴、特殊な器具を用いた手術（関節鏡、内視鏡、他）	原國睦
6	軟部組織・骨・関節の感染症	軟部組織感染症、骨髄炎、感染性関節炎、その他の骨関節感染症	石橋鍊
7	関節リウマチと類縁疾患	関節リウマチ、脊椎関節炎、リウマチ性多発筋痛、突発性関節炎、線維筋痛症、他	関矢仁
8	変形性関節症と類縁疾患	変形性関節症、結晶誘発性関節炎、神経病性関節症、代謝異常症による関節疾患、他	関矢仁
9	四肢循環障害と阻血壊死性疾患	四肢循環障害をきたす疾患、外傷後血管障害、骨壊死、他	原國睦
10	先天性骨系統疾患と先天異常症候群	先天性骨系統疾患の概要、先天異常症候群の概要	石橋鍊
11	代謝性骨疾患	骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、腎性骨ジストロフィー、甲状腺機能異常、成長ホルモン異常、他	原國睦
12	骨腫瘍	骨腫瘍の分類、原発性良性骨腫瘍、骨腫瘍類似疾患、原発性悪性骨腫瘍、続発性悪性骨腫瘍、他	石橋鍊
13	軟部腫瘍	軟部腫瘍の分類、良性軟部腫瘍、悪性軟部腫瘍	原國睦
14	神経・筋疾患	中枢神経疾患、末梢神経障害、筋疾患	関矢仁

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
整形外科科学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
関矢仁				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの背景・定義・概念、評価と対策	関矢仁

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神医学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村良二				演習	講義	

授 業 概 要
精神疾患や精神障害を有する患者理解に必要な精神医学の基礎について学ぶ。特に臨床上頻度の多い疾患や障害を取り上げ、その症状・診断・治療・リハビリテーションの概要について理解するとともに、精神障害を有する対象者へのチーム医療の在り方について考える。

到 達 目 標
1. 精神障害を生じる代表的な疾患の症状・診断・治療の概要について説明することができる 2. 精神障害を有する対象者への医療的支援について、チーム医療の観点から説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習　：講義時、関連するテキストの該当部分を熟読して出席する 事後学習　：講義当日の配布資料やノートを読み返し、レポートの課題に取り組み、学びを深める

対応DP
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験（80％）レポート（20％）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後に質問を受け付けます。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神医学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村良二				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	精神医学の定義と歴史、精神障害の概念と成因、精神障害の分類	西村 良二
2	精神機能の障害と精神症状①	各種障害（意識、注意、見当識、知能、性格、記憶、感情、情動と意志、自我意識、知覚、思考、病識）	西村 良二
3	精神機能の障害と精神症状②	主な精神状態像、神経心理学的症状	西村 良二
4	精神障害の診断と評価①	身体的検査法（CT,MRI,脳波検査など）	西村 良二
5	精神障害の診断と評価②	心理検査法、精神症状の評価、社会生活の評価、主観的QOL評価	西村 良二
6	統合失調症	精神症状の特徴、病型、病態、社会生活、経過・予後・治療・リハビリテーション	西村 良二
7	気分障害	うつ病・躁うつ病・持続性気分障害の経過・予後・治療・リハビリテーション	西村 良二
8	神経症性障害	不安・恐怖を中心とする障害、ストレス関連障害、解離、身体表現性障害	西村 良二
9	精神作用物質依存	アルコール依存、薬物依存	西村 良二
10	認知症	アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、血管性認知症	西村 良二
11	知的障害	精神遅滞の概念と分類、頻度の高い精神遅滞の概要・治療・リハビリテーション	西村 良二
12	心理的発達の障害①	特異的発達障害、広汎性発達障害	西村 良二
13	心理的発達の障害②	注意欠如多動性障害	西村 良二
14	てんかん	てんかんの発作症状と精神症状、てんかんの経過・予後・治療・リハビリテーション	西村 良二

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神医学Ⅰ（総論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村良二				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	総括	まとめ（確認試験）	西村 良二

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
小児科学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
原寿郎				演習	講義	

授 業 概 要
小児を取り巻く諸問題について、医学的および社会的な観点から学ぶ。胎児期から学童期までの成長と発達に関する基礎的事項を理解するとともに、神経・筋・骨格・循環器・呼吸器・消化器・腎泌尿器といった臓器および系統別に疾患の特徴を学ぶ。さらに、理学療法士や作業療法士が携わる機会が増えている重症心身障害児を対象とした療育制度について学ぶ。

到 達 目 標
1. Ⅱ児の発育および発達について説明できる 2. Ⅱ児と関係の深い疾患概要（症状、検査、発生頻度、要因、治療、その他）について説明できる 3. 療育の意義および体制について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学習：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める

対応DP	

評 価
定期試験（100%）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後に質問を受け付けます。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
小児科学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
原寿郎				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	小児の成長・発育と発達	原 寿郎
2	新生児・未熟児	新生児の評価と問題、早産児の神経学的所見、異常症状、中枢神経障害と疾患	李 守永
3	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇型、先天代謝異常症	李 守永
4	神経・筋・骨系疾患	中枢神経疾患、てんかん、発達遅延を伴う疾患、発達障害、脊髄性疾患、末梢神経性疾患、筋疾患、骨・関節疾患①	李 守永
5	神経・筋・骨系疾患	中枢神経疾患、てんかん、発達遅延を伴う疾患、発達障害、脊髄性疾患、末梢神経性疾患、筋疾患、骨・関節疾患②	李 守永
6	循環器疾患	症状と検査、発症頻度と要因、先天性心疾患、後天性心疾患	李 守永
7	重症心身障害児	重症心身障害児の諸問題（運動障害・知的障害・神経学的障害）、療育体制	李 守永
8	内分泌・代謝疾患	視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患、糖尿病、低血糖、肥満の症状・診断・治療	原寿郎
9	血液疾患	赤血球系の異常、白血球系の異常、出血性・血栓性疾患の症状・診断・治療	原寿郎
10	呼吸器疾患	症状と検査、治療と処置、上気道疾患、下気道疾患	金政 光
11	感染症	感染症の症状、診断と治療、周産期および新生児・乳児・幼児・学童期の感染症	金政 光
12	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患および自己炎症性疾患の症状・診断・治療	中山 秀樹
13	腫瘍性疾患、その他	悪性腫瘍の発生頻度、神経芽腫、網膜芽腫の症状・診断・治療	中山 秀樹
14	消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃・腸疾患、肝・胆道系疾患、その他の疾患	李 守永

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
小児科学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
原寿郎				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	腎・泌尿器系、生殖器疾患	尿路感染症、血尿・蛋白尿を主とした腎疾患、生殖器疾患の症状・診断・治療	李 守永

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
臨床心理学概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

授 業 概 要
心に問題を有する人たちに対する心理学的援助の理論について学ぶ。また、具体的な事例を通して各種理論に基づいた実践方法を学ぶことにより、医療福祉の現場において対峙する対象者の心の問題について関心を深める。

到 達 目 標
1. 臨床心理学の基本的な理論と技法について説明することができる 2. 対人援助における臨床心理学の重要性について理解する 3. 医療福祉の現場で対峙する対象者が抱える心の問題について考える

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応D P	

評 価
ミニレポート（20％）定期試験（80％）

教 科 書
1. 臨床心理学概論 2. 配布資料

参 考 図 書
授業中に適宜紹介する。

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
臨床心理学概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	臨床心理学の定義・構造・歴史・実践活動	山口 雄介
2	生物・心理・社会モデル	生物・心理・社会モデルの概要、メンタルヘルスの捉え方、チームアプローチ①	山口 雄介
3	生物・心理・社会モデル	生物・心理・社会モデルの概要、メンタルヘルスの捉え方、チームアプローチ②	山口 雄介
4	クライアント中心療法	クライアント中心療法の理論と実践、クライアント中心療法の適応と限界と発展①	山口 雄介
5	クライアント中心療法	クライアント中心療法の理論と実践、クライアント中心療法の適応と限界と発展②	山口 雄介
6	精神力動的アプローチ	精神分析学の概要、力動的心理療法の種類、精神力動的アプローチの実際①	山口 雄介
7	精神力動的アプローチ	精神分析学の概要、力動的心理療法の種類、精神力動的アプローチの実際②	山口 雄介
8	行動療法	行動主義の概要、学習の原理と行動療法、行動療法の実際	山口 雄介
9	認知行動療法	認知モデルの概要、認知の変容技法、認知療法・認知行動療法の実際①	山口 雄介
10	認知行動療法	認知モデルの概要、認知の変容技法、認知療法・認知行動療法の実際②	山口 雄介
11	システムアプローチ	システム論の概要、システムとしての家族、家族療法・カップルセラピーの実際①	山口 雄介
12	システムアプローチ	システム論の概要、システムとしての家族、家族療法・カップルセラピーの実際②	山口 雄介
13	コミュニティアプローチ	コミュニティ心理学の概要、コミュニティに必要な心理的援助の実際	山口 雄介
14	ナラティブアプローチ	社会構成主義の概要、物語のもつ力、ナラティブアプローチの実際	山口 雄介

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
臨床心理学概論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	対人援助における臨床心理学の重要性	山口 雄介

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白石 裕子、森本 誠司、坂口 聡子、太田 研吾、吉田 和弘				演習	講義・演習	

授 業 概 要
保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICFの概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。

到 達 目 標
1． ICFの概念を活用して事例の課題を抽出することができる 2． 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる 3． 事例の検討を通して、チームビルディングのステップを踏んでチームを形成できる 4． チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる 5． 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べるができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習し、まとめを行いレポートを作成する

対応D P

評 価
課題レポートと事前事後課題

教 科 書
講師資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
水曜日（17時～19時）・木曜日（17時～18時）研究室

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白石 裕子、森本 誠司、坂口 聡子、太田 研吾、吉田 和弘				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	授業ガイダンス	授業の概要 グループワークの進め方	白石裕子
2	チームづくりの基礎的知識	ICF（国際生活機能分類）について講義と事例を用いた演習	白石裕子
3	チームビルディング演習①	・事例を用いたグループワーク ・事例の理解	全員
4	チームビルディング演習①	・各職種との協働作業におけるチームビルディングの基本演習 ・チームづくりのためのリーダーシップとフォロワーシップ	全員
5	チームビルディング演習②	・事例を用いたグループワーク② ・事例の支援において必要な職種とそれ以外の人々の役割と機能を明確化する。 ・自職種の立ち位置について考える。	全員
6	チームビルディング演習②	・グループワークの中でのコンフリクト（葛藤）場面を振り返る。 ・コンフリクトマネジメントについて（講義と演習）	全員
7	福祉と医療の連携を考える会参加	学術集会に参加し、リハビリテーションに向けた多職種連携の実際を学ぶ ・各グループでの体験の共有化	全員
8	福祉と医療の連携を考える会参加	学術集会に参加し、リハビリテーションに向けた多職種連携の実際を学ぶ ・各グループでの体験の共有化	全員
9	福祉と医療の連携を考える会参加	学術集会に参加し、リハビリテーションに向けた多職種連携の実際を学ぶ ・各グループでの体験の共有化	全員
10	多職種連携の実際からの学び	福祉と医療の連携を考える会での多職種連携講義と事例についてグループ討議	全員
11	多職種連携の実際からの学び	福祉と医療の連携を考える会での多職種連携講義と事例についてグループ討議の発表会	全員
12	チームビルディング演習③	事例を用いたグループワーク③ ・患者の目標の設定とその理由	全員
13	チームビルディング演習③	事例を用いたグループワーク③ ・非専門職、社会資源との連携	全員
14	チームビルディング演習まとめ	チームビルディング演習体験のまとめ グループ発表会の準備	全員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白石 裕子、森本 誠司、坂口 聡子、太田 研吾、吉田 和弘				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	発表会	グループ発表会 全体発表会での優秀なグループを選出し、表彰する 講義の総括	全員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法理論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義	

授 業 概 要
作業療法計画を立案及び治療の効果を判定する際に用いられる理論やモデルを学修する。作業療法独自に開発された感覚統合理論、人間作業モデル、カナダ作業遂行モデルをはじめ、作業療法で用いられる超メタ理論から小範囲理論にわたる階層性毎の理論を学修する。

到 達 目 標
1. 作業療法理論の開発に貢献した人・集団とそのモデル・理論を説明できる 2. 作業療法で使われている関連領域の実践理論をに説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：moodle上に掲載されている講義資料を確認し、予習すること。 事後学修：教授された内容の振り返りを行い、理解した内容を整理する。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
試験70％、課題20％、参加度10％

教 科 書
小川真寛・藤本一博・京極誠（編集）「5 W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書」 メディカルビュー

参 考 図 書
鎌倉柅子（著）「作業療法能の世界 第2版」 三輪書店 岩崎テル子（監訳）「作業療法実践のための6つの理論」 協同医書

留 意 事 項
事前学修：moodle上に掲載されている講義資料を確認し、予習すること。 事後学修：教授された内容の振り返りを行い、理解した内容を整理する（授業毎にリアクションペーパー実施する）。

オフィスアワー等
あらかじめメール等でアポイントを取れば対応可能とする。

実 務 経 験
作業療法士として、長年、臨床に携わった際の経験を踏まえ講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法理論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	理論の意義	なぜ理論を学ぶ必要があるのか？ 理論の開発に貢献した作業療法士達	森本 誠司
2	感覚統合モデル	感覚統合モデルと事例	森本 誠司
3	人間作業モデル	人間作業モデルと事例	森本 誠司
4	カナダ作業遂行モデル	カナダ作業遂行モデルと事例	森本 誠司
5	超メタ理論・メタ理論	作業に根差した実践（OBP2.0）・作業科学（Occupational Science）	森本 誠司
6	大範囲理論・中範囲理論	川モデル・作業適応理論（OA理論）	森本 誠司
7	中範囲理論	認知行動療法（CBT）・認知機能リハビリテーション	森本 誠司
8	小範囲理論・プロセスモデル・臨床における理論	生体力学モデル及びまとめ	森本 誠司

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法評価学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、田中 悟郎、谷川 良博、森本 誠司、近藤 昭彦、江口 喜久雄、太田 研吾、角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義	

授 業 概 要
作業療法評価は、情報収集、面接、観察、検査や測定など多様な方法を用いて実施される。それぞれの評価により得られた情報を組み合わせ、整理をすることで、適切な作業療法の介入計画を立案できる。作業療法評価学では、作業療法の重要なプロセスである評価についての基本的な知識と技術の修得を目的とする。情報収集、面接、観察、検査や測定などの様々な情報収集手段によって、適切な情報を得て、処理するために必要な知識と技術の修得を目指す。

到 達 目 標
1. 作業療法評価における情報収集、面接、観察、検査や測定の違いと特徴について説明することができる 2. 作業療法評価における対人交流技能の重要性を説明することができる 3. 作業療法評価の背景となる作業療法理論を理解することの説明することができる 4. 作業療法の各領域における、作業療法評価の概要と基本的な評価方法について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：授業に該当する部分の教科書を読み、授業に備えること 事後学修：授業で学んだ内容を、教科書や資料を参照しながら、学修の定着と深化を測ること

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
筆記試験100%

教 科 書
能登 真一，山口 昇，玉垣 努，新宮 尚人編 作業療法評価学 第4版（標準作業療法学 専門分野） 医学書院 2024

参 考 図 書
なし

留 意 事 項

オフィスアワー等
水（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
各領域において作業療法実践経験の豊富な教員が担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法評価学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、田中 悟郎、谷川 良博、森本 誠司、近藤 昭彦、江口 喜久雄、太田 研吾、角田 孝行、吉田和弘、坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	作業療法と評価（オリエンテーション）	情報収集、面接、観察、検査や測定などの手段によって得られた情報をもとに行われる作業療法評価について理解する	山根伸吾
2	作業療法実践における対人交流技能	作業療法士として面接、観察、検査測定を実施する上で、基本となる対人交流技能を理解し実践できる	近藤昭彦
3	カナダモデルとその評価	カナダモデルに基づき、COPMおよび興味・関心チェックリスト等のクライアント中心の作業療法評価を学ぶ	川崎一平
4	人間作業モデルとその評価	MOHOST, OSAについて理解する	吉田和弘
5	OTIPMとAMPS	OTIPMとAMPSの概要について理解する	山根伸吾
6	精神機能の評価①	精神機能の評価①（観察、面接、評価尺度、集団、回復段階、疾患別、他）	田中悟郎
7	精神機能の評価②	精神機能の評価②（観察、面接、評価尺度、集団、回復段階、疾患別、他）	田中悟郎
8	精神機能の評価③	精神機能の評価③（観察、面接、評価尺度、集団、回復段階、疾患別、他）	江口喜久雄
9	精神機能の評価④	精神機能の評価④（観察、面接、評価尺度、集団、回復段階、疾患別、他）	太田研吾
10	発達領域の評価①	運動障害を持つ児の評価	角田孝行
11	発達領域の評価②	神経発達症を持つ児の評価	森本誠司
12	高齢期領域の評価①	高齢期に用いる評価①	江口喜久雄
13	高齢期領域の評価②	高齢期に用いる評価②	坂口聡子
14	地域作業療法における評価①	地域在住の健康高齢者に対する活動や社会参加に関連する評価、アセスメント	谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法評価学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、田中 悟郎、谷川 良博、森本 誠司、近藤 昭彦、江口 喜久雄、太田 研吾、角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	地域作業療法における評価②	地域在住で障害をもつ高齢者、介護する家族に関連する評価、アセスメント	谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能評価学演習Ⅰ（筋・骨格系）	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、吉田 和弘				演習	対面参加	

授 業 概 要
作業療法評価法のなかで身体機能評価（運動器系）に用いられる形態測定（姿勢、上・下肢長、周径等）、関節可動域検査ROM-T、徒手筋力検査法MMT、粗大筋力（握力・ピンチ力）等の具体的技法について演習形式で学修する。身体機能領域における作業療法の基本となる評価技術であり、患者と作業療法士の役割を設定しながら学修し、レポート作成及び実技試験を実施する。

到 達 目 標
1. 作業療法評価の概要を理解し、基本的評価の技術・態度を身に付ける 2. 形態計測、関節可動域測定法（ROM-T）、筋力検査法（MMT、粗大筋力測定）、上肢機能検査法についての基本的技術を獲得する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業テーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：技術修得のため、自己学修を行うこと

対応DP
○ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。 ○ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ○ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。 ○ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
小テスト50％ テスト50％

教 科 書
新徒手筋力検査法 医歯薬出版株式会社 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院

参 考 図 書

留 意 事 項
実技を行うため、臨床実習に即した身なりで受講すること

オフィスアワー等
月、火曜日（11時～12時）・木曜日（15時～16時）2808・8階作業療法学科共同研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
医療・介護・地域分野で臨床実践を多く積んだ実務経験のある教員が実施する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能評価学演習Ⅰ（筋・骨格系）	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、吉田 和弘				演習	対面参加	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	姿勢・形態計測1	形態計測の目的について学修する 姿勢の評価法について修得する	近藤昭彦 吉田和宏
2	姿勢・形態計測2	体位と構えについて修得する 臥位・座位の種類とその意義について修得する	近藤昭彦 吉田和宏
3	姿勢・形態計測3	体幹のランドマークの触診を行う	近藤昭彦 吉田和宏
4	姿勢・形態計測4	四肢のランドマークの触診を行う	近藤昭彦 吉田和宏
5	姿勢・形態計測5	周径と四肢長の測定方法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
6	姿勢・形態計測6	周径と四肢長の測定方法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
7	関節可動域検査1	関節の構造、運動の面と軸、運動方向、正常な関節可動域および関節可動域制限とその原因、関節可動域検査の手順、測定器具の使用法を学修する	近藤昭彦 吉田和宏
8	関節可動域検査2	ゴニオメーターおよびテープメジャーを使用して、肩甲帯、肩関節の関節可動域の測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
9	関節可動域検査3	ゴニオメーターおよびテープメジャーを使用して、肩甲帯、肩関節の関節可動域の測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
10	関節可動域検査4	ゴニオメーターおよびテープメジャーを使用して、肩甲帯、肩関節の関節可動域の測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
11	関節可動域検査5	ゴニオメーター等を使用して、肘関節、手関節、手指の関節可動域の測定法および測定の変法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
12	関節可動域検査6	ゴニオメーター等を使用して、肘関節、手関節、手指の関節可動域の測定法および測定の変法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
13	関節可動域検査7	ゴニオメーターおよびテープメジャー等を使用して、下肢、体幹の関節可動域の測定法および測定の変法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
14	関節可動域検査8	ゴニオメーターおよびテープメジャー等を使用して、下肢、体幹の関節可動域の測定法および測定の変法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能評価学演習Ⅰ（筋・骨格系）	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、吉田 和弘				演習	対面参加	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	筋力検査1	筋力とは何か、解剖生理・検査の意義、徒手筋力検査法の検査方法のルールを学修する	近藤昭彦 吉田和宏
16	筋力検査2	徒手筋力検査法に沿って肩甲帯・肩関節・肘関節の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
17	筋力検査3	徒手筋力検査法に沿って肩甲帯・肩関節・肘関節の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
18	筋力検査4	徒徒手筋力検査法に沿って肩甲帯・肩関節・肘関節の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
19	筋力検査5	徒手筋力検査法に沿って手関節・指関節の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
20	筋力検査6	徒手筋力検査法に沿って手関節・指関節の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
21	筋力検査7	徒手筋力検査法に沿って頸部・体幹の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
22	筋力検査8	徒手筋力検査法に沿って頸部・体幹の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
23	筋力検査9	徒手筋力検査法に沿って股関節・膝関節・足関節の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
24	筋力検査10	徒手筋力検査法に沿って股関節・膝関節・足関節の筋力測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
25	筋力検査⑥	測定機器を使用して、粗大筋力（握力・ピンチ力・背筋力など）の測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
26	疼痛の評価	疼痛とは何か、検査の意義や手順を学修する，痛みの臨床的評価尺度について知り、検査の一部を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
27	上肢機能評価1	簡易上肢機能検査法やDASHの測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
28	上肢機能評価2	簡易上肢機能検査法やDASHの測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能評価学演習Ⅰ（筋・骨格系）	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、吉田 和弘				演習	対面参加	

回数	単 元	内 容	担当教員
29	上肢機能評価3	簡易上肢機能検査法やDASHの測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏
30	上肢機能評価4	簡易上肢機能検査法やDASHの測定法を修得する	近藤昭彦 吉田和宏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能評価学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
太田 研吾、江口 喜久雄				演習	講義、演習	

授 業 概 要
精神機能評価の目的および情報収集・面接・観察・検査の目的や方法について学修する。また、作業療法評価法のなかで精神・認知機能評価に用いられる、意欲や行動に関する評価、思考の評価、社会適応に関する評価、知的機能検査、認知機能検査について学修する。

到 達 目 標
1. 精神機能作業療法における評価の目的を理解し、説明することができる 2. 精神機能作業療法における評価の方法を理解し、説明することができる 3. 精神機能作業療法における評価を実施することができる 4. 精神機能作業療法における評価結果をまとめることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書等で予習し、事前に予備知識を取得しておくことが必要 事後学修：理解困難な所は必ず教員に質問し解決する。また、レポートは迅速に対応する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期テスト（90％） レポート課題（10％）

教 科 書
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 医学書院

参 考 図 書
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規 精神障害作業療法額 改定第2版 作業療法学ゴールドマスター メジカルビュー社 標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版 医学書院 精神・心理機能評価ハンドブック 中山書店

留 意 事 項
グループ学修を主とした形式であるため、学生自身が能動的に取り組むこと。また、事前学修において各評価を予習し、特徴を捉えた上で講義に臨むこと。

オフィスアワー等
研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることにする。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能評価学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
太田 研吾、江口 喜久雄				演習	講義、演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	精神機能作業療法評価学の基礎	導入、精神（機能）とは	江口喜久雄 太田研吾
2	精神機能作業療法評価学の基礎	精神機能評価の目的とは	江口喜久雄 太田研吾
3	精神機能作業療法における情報収集	情報収集の目的と方法とは	江口喜久雄 太田研吾
4	精神機能作業療法における情報収集	評価の項目とは①	江口喜久雄 太田研吾
5	精神機能作業療法における情報収集	評価の項目とは②	江口喜久雄 太田研吾
6	精神機能作業療法における面接法	面接の目的とは	江口喜久雄 太田研吾
7	精神機能作業療法における面接法	面接の方法とは①	江口喜久雄 太田研吾
8	精神機能作業療法における面接法	面接の方法とは②	江口喜久雄 太田研吾
9	精神機能作業療法における観察法	観察の目的とは	江口喜久雄 太田研吾
10	精神機能作業療法における観察法	観察の方法とは①	江口喜久雄 太田研吾
11	精神機能作業療法における観察法	観察の方法とは②	江口喜久雄 太田研吾
12	精神機能作業療法における検査法	検査・調査の目的とは	江口喜久雄 太田研吾
13	精神機能作業療法における検査法	検査の方法とは①	江口喜久雄 太田研吾
14	精神機能作業療法における検査法	検査の方法とは②	江口喜久雄 太田研吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能評価学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
太田 研吾、江口 喜久雄				演習	講義、演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	精神機能作業療法における検査法	検査の方法とは③	江口喜久雄 太田研吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
日常生活支援学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				講義	講義	

授 業 概 要
日本人の生活様式・伝統的な価値観を踏まえながら、起居・移動、コミュニケーション、セルフケア等について、それがもつ意味や動作分析を行う。日常生活活動ADL、手段的ADL、また生活・人生の質QOLの評価法についても学修する。さらに作業療法で対象にすることの多い疾患を有するクライアントに対するADL・手段的ADLのポイントについて学修する。

到 達 目 標
1. BADL、IADL、QOLの概念について説明できる 2. 代表的なADL評価を挙げ、そこに含まれる項目について説明できる 3. ADLに含まれる諸活動の分析を通して、その特性と機能を説明できる 4. 作業療法士がADLに関わる意義を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当する教科書を熟読すること(30分) 事後学修：講義内容を踏まえて、教科書を読みなおし、理解を深めること(30分)

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
授業内小テスト（100％）

教 科 書
濱口編：標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 第2版 医学書院，2022

参 考 図 書
伊藤利之ら編 新版 日常生活活動（ADL） 第2版 評価と支援の実際，医歯薬出版 2020

留 意 事 項

オフィスアワー等
水曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士としての臨床経験を基に講義を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
日常生活支援学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	ADLの基礎、ADL評価	ADLの基礎的な概念、ADLの代表的な評価について講義する	山根伸吾
2	食事、整容	食事、整容がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
3	更衣	更衣がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
4	起居・移動	起居、移動がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
5	排泄	排泄がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
6	入浴	入浴がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
7	IADL、QOLの概念と評価	IADLならびにQOLの概念と評価について講義する	山根伸吾
8	ADL/IADLの観察評価について	作業遂行評価について概要を講義する	山根伸吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション工学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
川原田 淳				講義	対面、座学	

授 業 概 要
障害児・者のリハビリテーションを支援する工学・技術に関する基本的な考え方、電子工学・人間工学・生体計測・バイオメカニクスなど関連する基礎技術およびこれらの実用的応用からの生活環境についても学修する。また、歩行介助や介護支援機器、ロボット等近年注目されている技術についても学修する。

到 達 目 標
1. リハビリテーション工学の基本的概念・定義について理解する。 2. 生活支援のためのリハビリテーション工学を実践するための基礎知識を身につける。 3. 高齢者・障害者のためのバリアフリーやリハビリテーションのあり方について理解し、今後の工学的アプローチを考究できる素養を身につける。 4. 身体の機能低下や代替が必要となった生体臓器に対する究極的な工学技術のサポートである人工臓器について、種々の臓器に対する各種人工臓器に目を向け、医工融合の具体例についての詳細な内容を理解する。 5. リハビリテーションや介護におけるロボット等の活用と、その今後の可能性について理解する。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：学習支援システムを利用して単元毎に提示される事前学修についての課題（リーディング課題と調査型課題）を行い、それらを基にして行われる単元での学修に備える。 事後学修：各単元の終了時に、まとめ課題と発展課題を提示する。まとめ課題の実施によって、各自の学修状況を自己評価し、必要に応じて補修を行う。十分な学修の基で、発展課題を行い、学修の定着と深化をはかる。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
総合的に判断する（小テスト40%、レポート課題60%）

教 科 書
テキスト（教科書）は特に指定しない。 別途資料を提示する。

参 考 図 書
・ 嶋津秀昭他『医用工学概論』コロナ社 2007<ISBN：9784339071061> ・ 山口昌樹他『人間科学と福祉工学』コロナ社 2007< ISBN：9784339070934>

留 意 事 項
事前学修・事後学修は非常に大切ですが、授業中に疑問を生じた場合はそのまませず、積極的に質問を行うなど、なるべくその場で解決するようにしてください。

オフィスアワー等
・ 特に時間帯を定めない。 ・ 可能な限りいつでも対応するので、予め、メールかMoodleで連絡してください。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション工学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
川原田 淳				講義	対面、座学	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	ガイダンス（総論）	医療・保健・福祉の分野において利用されている工学技術に焦点をあて、その現状と応用分野について学ぶ。	川原田淳
2	リハビリテーション工学	①リハビリテーションとは、②リハビリテーションの目標、③リハビリテーション工学の目指すもの、④障害を理解する、⑤障害の克服に向けての心理作用、⑥リハビリテーション工学の位置づけ、などの項目について学ぶ。	川原田淳
3	福祉工学	①福祉工学とは、②高齢者のための福祉工学、③福祉機器による自立支援と介護支援、④生活環境と共用品、⑤先端技術と福祉工学、などの項目について学ぶ。	川原田淳
4	在宅医療技術	①超高齢社会の到来、②ホームケアテクノロジー、③在宅医療とは、④在宅医療の意義と内容、⑤介護との違い、⑥対象となる患者と療法、などの項目について学ぶ。	川原田淳
5	在宅生体計測（ホームヘルスモニタリング）	①在宅生体計測とは、②健康度と健康の制御の概念、③在宅生体計測のステージ、④トイレを利用した生体計測、⑤浴槽を利用した生体計測、⑥ベッドを利用した生体計測、⑦在宅生体計測の現状と今後の課題、などの項目について学ぶ。	川原田淳
6	生活支援工学	①生活支援工学の概念、②支援機器による生活支援、③アクセシブルデザイン、④人にやさしい生活環境、などの項目について学ぶ。	川原田淳
7	人工臓器（生体機能代行装置）	①人工臓器とは何か、②臓器移植か人工臓器か、③人工臓器の意義、④人工臓器の分類、⑤人工臓器の種類、⑥人工臓器に要求される条件、などの項目について学ぶ。	川原田淳
8	まとめ（今後の課題と展望）	ロボットを活用した歩行練習や脳活動をリアルタイムで表示するブレイン・マシン・インターフェイスの機能回復効果など、近年注目されつつある機器と人とのかかわりを通したリハビリテーションについて学ぶ。	川原田淳

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
公衆衛生学（選）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岩永正彦				演習	講義	

授 業 概 要
医学・医療を通して疾病予防や健康増進を図るために必要な公衆衛生学の基礎知識について学ぶとともに、代表的な保健活動（環境保健・母子保健・学校保健・産業保健・高齢者保健・精神保健・国際保健）の概要を理解し、個人または社会における保健医療福祉を多面的視点で捉える。

到 達 目 標
1. 公衆衛生の理解に必要な基礎知識について説明することができる 2. 様々な対象の保健概要について説明することができる 3. 保健医療制度の概要について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：教科書による復習を行うこと

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ☒ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
定期試験（100%）

教 科 書
シンプル衛生公衆衛生学2026（南江堂）

参 考 図 書

留 意 事 項
教科書に沿って講義を行うので、教科書を必ず購入してください。

オフィスアワー等
質問等は、授業後または授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
公衆衛生学（選）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岩永正彦				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	Chapter1 衛生学・公衆衛生学序論	衛生学・公衆衛生学，健康をめぐって，生活と健康，健康問題の変遷，公衆衛生と医療の歴史，公衆衛生活動，生命倫理―保健医療福祉の倫理	岩永正彦
2	Chapter2 保健統計	健康の測定と健康指標，人口統計，その他の統計	岩永正彦
3	Chapter3 疫 学	疫学とは，疫学調査の手順と留意事項，疾病の分類，疾病量の把握，疫学の方法	岩永正彦
4	Chapter4 疾病予防と健康管理	疾病リスクと予防医学，健康管理，健康増進，健康日本21，健康づくりの新しい動き	岩永正彦
5	Chapter5 主な疾病の予防	感染症の予防，循環器系の疾患の予防，糖尿病・脂質異常症・痛風・メタボリックシンドロームの予防，がんの予防，腎疾患の予防，アレルギー疾患の予防，不慮の事故と自殺の防止	岩永正彦
6	Chapter6 環境保健	人間の環境化学的環境要因，環境の把握とその評価・対策，物理的環境要因，生物的環境要因―微生物を中心に，空気の衛生と大気汚，水の衛生と水質汚濁，廃棄物，衣食住の衛生，公害と環境問題，環境の管理	岩永正彦
7	Chapter7 地域保健と保健行政	地域社会と地域保健，地域保健活動と行政，消費者保健，	岩永正彦
8	Chapter8 母子保健	母子保健の水準，母子保健の課題，母子保健活動と行政	岩永正彦
9	Chapter9 学校保健	子どもの健康状況，学校保健とは，学校保健の組織と運営，学校保健管理，歯科保健―小児を中心として，学校環境管理，学校保健教育	岩永正彦
10	Chapter10 産業保健	働く人々の健康，労働災害・事故，職業病，職場における健康診断と健康増進，勤労者の労働時間と余暇，職場復帰	岩永正彦
11	Chapter11 高齢者の保健・医療・介護	老化とは，高齢者の生活と健康，高齢者の健康状態，高齢者の保健と医療，認知症と対策，介護保険，地域包括ケアシステム	岩永正彦
12	Chapter12 精神保健	精神保健と心の働きの理解，精神の健康とは，精神障害の分類と疫学，主な精神疾患と精神保健の課題，精神保健福祉活動	岩永正彦
13	Chapter13 国際保健医療	国際保健とは，人種と民族と国，開発途上国の健康問題とその対策，日本の保健医療の国際協力，国際機関を通じた協力―国連，WHOなど，国際保健医療の展望	岩永正彦
14	Chapter14 保健医療福祉の制度と法規	保健医療行政医療制度の仕組み，政の概要と基礎知識，保健制度の仕組み―行政組織，保健医療行政に関するその他の事項，医療保障・年金の仕組み，社会福祉の仕組みと障害者福祉	岩永正彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
公衆衛生学（選）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岩永正彦				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	まとめ	岩永正彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医療危機管理論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
角 秀秋				演習	講義	

授 業 概 要
リスクマネジメントに関する基本的な知識と技術を学ぶとともに、具体的な事例を通してリスクマネジメントの実際について考え、医療福祉に携わる専門職として医療の質と安全を確保することの重要性を理解する。

到 達 目 標
1. 危機管理の概要について説明することができる 2. 医療の質と安全の重要性について説明することができる 3. 事例を通して医療現場での危機管理体制構築について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする 事後学修：講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。
☐
☐
☐
☐

評 価
筆記試験（100%）

教 科 書
ねころんで読める これだけは知っておきたい WHO患者安全カリキュラムガイド（メディカ出版） 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項
履修希望者が5名以下の場合は、講義を開講しないことがあります。

オフィスアワー等
講義後質問を受け付けます。

実 務 経 験

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医療危機管理論		2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	3年前期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
角 秀秋					演習	講義	
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	エラー総論	エラーをヒューマンエラーとシステムエラーから説明し、医療において必要な場面を示す			鮎澤純子		
2	エラー各論	医療におけるエラーの特徴、それを形成・促進する要因を説明する			鮎澤純子		
3	医療事故	医療事故の例を提示し、ここまで学んだことに基づいて危機管理の問題点、改善方法について共に考える			鮎澤純子		
4	チーム医療	正しいチーム医療は危機管理にとってプラスであるが、ひとたび間違えると大きなマイナスとなる。チームについて、その分類と特徴、個人特性とチーム特性、リーダーシップ、フォロワーシップ等を説明する			鮎澤純子		
5	コミュニケーション	コミュニケーションは感情伝達と情報伝達であり、医療危機管理、チーム医療を含めてすべての基盤である。その目指すべき具体的方策について説明する			鮎澤純子		
6	患者安全の本質	Topic 1 患者安全の本質を知ろう（患者安全とは）			富永隆治 （今村）		
7	人間工学の応用	Topic 2 人間工学を応用しよう（患者安全におけるヒューマンファクターズの重要性）			富永隆治 （今村）		
8	システムの活用	Topic 3 良いシステムを活用しよう（システムとその複雑さが患者管理にもたらす影響を理解する）			角秀秋		
9	チームプレー	Topic 4 良いチームプレーヤーになろう（有能なチームの一員であること）			角秀秋		
10	エラーから学ぶ	Topic 5 エラーから学ぼう（エラーに学び、害を予防する）			角秀秋		
11	リスクマネジメント	Topic 6 リスクを知ってコントロールしよう（臨床におけるリスクの理解とマネジメント）			角秀秋		
12	医療の改善	Topic 7 ケアの質を高める方法を知ろう（品質改善の手法を用いて医療を改善する）			角秀秋		
13	患者、介護者との協同	Topic 8 患者さん・家族を巻き込もう（患者や介護者と協同する）			角秀秋		
14	感染の予防と管理	Topic 9 感染をしない、させない（感染の予防と管理）			角秀秋		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医療危機管理論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
角 秀秋				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	まとめ（確認テスト）	角秀秋

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医用画像診断学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
石神 康生				講義	講義	

授 業 概 要
医療現場で使用される各種医用画像の撮像原理と正常人の画像形態を理解するとともに、代表的な疾患の画像所見の特徴について学ぶ。また、これまでに学んだ解剖学・生理学・各種病理学などの知識を応用し、画像所見と出現する症候との関係について理解する。

到 達 目 標
1. X線・CT・MRI・核医学・血管造影・超音波を用いた検査の仕組みについて概説することができる 2. 代表的疾患の各種画像所見の特徴について説明することができる 3. 医療画像診断の意義について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと 事後学習：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める

対応DP
☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
定期試験（100%）

教 科 書
1. 凹ハビリテーションのための画像の読み方（メジカルビュー） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後に質問を受け付けます。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
医用画像診断学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
石神 康生				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	画像の基礎知識、X線・CT・MRI・SPECT・PETの仕組みと読影のチェックポイント（総論、pp2-26）	石神 康生
2	頭部画像	正常画像、代表的疾患（脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血・その他）の画像診断① 脳・脳血管の解剖(pp27-41)、正常像（pp42-56）	梅尾 理
3	頭部画像	正常画像、代表的疾患（脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血・その他）の画像診断② 正常像（pp42-56）、代表的疾患とリハ上の注意（pp57-72）	山下孝二
4	頭部画像	正常画像、代表的疾患（脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血・その他）の画像診断③ 正常像（pp42-56）、代表的疾患とリハ上の注意（pp73-78）	菊地一史
5	胸部画像	正常画像、代表的疾患（肺炎・COPD・DPB・気胸・その他）の画像診断① X線写真の原理とチェックポイント、正常像（pp80-99） 代表的疾患とリハ上の注意（pp100-105）	近藤雅敏
6	胸部画像	正常画像、代表的疾患（肺炎・COPD・DPB・気胸・その他）の画像診断② 代表的疾患とリハ上の注意（pp106-130）	樋田知之
7	骨関節画像	正常画像、代表的疾患（骨折・関節症・外傷・その他）の画像診断① 頸椎、腰椎、肩関節、肘関節、手関節の正常像（pp132-141）と代表的疾患（pp150-169）	近藤雅敏
8	骨関節画像	正常画像、代表的疾患（骨折・関節症・外傷・その他）の画像診断② 股関節、膝関節、足関節、足の正常像（pp142-149）と代表的疾患（pp170-189）	日野卓也

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
ケアマネジメント論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岡田 和敏				講義	講義	

授 業 概 要
客観的な身体機能や精神的な評価尺度を用いたとしてもそれのみで人々の生活を推し量ることは出来ない。クライアントがもつ意欲や出来る能力、そしてストレングスなど本人の気持ちや考え方などを対話を通じ検討することが必要となる。対象者の年齢、これまでの生活経験、知力や体力、病気や障害の認識度などを客観的に評価し、自立を支援して行く個別具体的な方法を計画しなければならない。その為に何が必要か、具体的にどのようなプログラムが必要となるかの考え方を考える思考が出来るように討議しながらケアマネジメントについて講義して行きたい。

到 達 目 標
1. ケアマネジメントの概要と過程について説明することができる 2. 地域包括ケアシステムの在り方について説明することができる 3. 専門職として多職種連携の重要性について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
講義開講時に説明する。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
講義への取り組み（出席）、試験によって評価する。

教 科 書
配布資料など

参 考 図 書
参考文献等については講義時に紹介します。

留 意 事 項
講義回数は僅かです。実践場面での経験を中心に展開します。各自が主体的に、積極的に講義に参加してくれることを期待します。

オフィスアワー等
講義内容についての疑問、意見があれば遠慮せずメールを下さい。アドレスは講義の時にお伝えします。

実 務 経 験
九州労災病院リハビリテーション診療科において医療ソーシャルワーカーとして勤務した。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
ケアマネジメント論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岡田 和敏				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	はじめに	ケアマネジメントが求められた背景から。 自分自身の問題解決傾向を知る。	岡田 和敏
2	初回講義で提示	講義を進めながら提示する	岡田 和敏
3	講義を進めながら提示	講義を進めながら提示する	岡田 和敏
4	講義を進めながら提示	講義を進めながら提示する	岡田 和敏
5	講義を進めながら提示	講義を進めながら提示する	岡田 和敏
6	講義を進めながら提示	講義を進めながら提示する	岡田 和敏
7	講義を進めながら提示	講義を進めながら提示する	岡田 和敏
8	講義を進めながら提示	講義を進めながら提示する	岡田 和敏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岡 真一郎、松井 聡子、佐々木 孝、大村 由紀美、西原 かおり、野村 あす美、間山 一枝、野田 佳奈恵、濱地 望、齊藤 貴文、北村 匡大、野中 嘉代子、澤田 誠、松本 典久、岡本 伸弘、江口 喜久雄、角田 孝行、山根 伸吾、谷川 良博、太田 研吾、川崎 一平				演習	演習	

授 業 概 要
専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例に対する専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中で専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深く関わることを学ぶ。

到 達 目 標
1．選択した事例に対し、チームの目標達成に向けてチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる 2．チーム内の環境に合わせてメンバーと協力できる 3．チームの内・外的環境に合わせて柔軟に対応できる 4．自職種の知識や技術を用いてできる範囲や課題を説明できる 5．他職種と協働することは対象の健康の保持増進や、生活の質に関わることを説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする。

対 応 D P
○ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をととして広く社会に貢献する能力を有している。 ◎ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。

評 価
事前課題10％ グループワーク45％ 報告会35％ 課題レポート（リフレクションシート）10％

教 科 書
令和7年度専門職連携教育Ⅲ 3年次 要項

参 考 図 書
・各学科で学修してきた専門知識や技術に基づいてグループワークが展開されるので、これまで講義や実習で使用してきたテキストや資料等を活用する。 ・事例を理解するために必要な各学科の専門図書 ・治療・ケアプランを立てるために必要な各学科の専門図書

留 意 事 項
本科目はグループワークを中心に進んでいく。事例の検討や資料の作成などの活動を通して、意見交換し、コミュニケーション能力が高まり、チームが形成されていくプロセスが重要である。学生一人ひとりが主体的に参加することが求められる。

オフィスアワー等
月～金曜日（12時～13時） 各教員の研究室

実 務 経 験
全ての教員が臨床業務の中で他職種との専門職連携を経験している。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岡 真一郎、松井 聡子、佐々木 孝、大村 由紀美、西原 かおり、野村 あす美、間山 一枝、野田 佳奈恵、濱地 望、齊藤 貴文、北村 匡大、野中 嘉代子、澤田 誠、松本 典久、岡本 伸弘、江口 喜久雄、角田 孝行、山根 伸吾、谷川 良博、太田 研吾、川崎 一平				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション	コースガイダンス（授業概要、到達目標、評価方法、グループ編成、スケジュール、指定事例の提示）	岡 科目担当全教員
2	事例検討	＜グループワーク＞ 各職種の紹介（自職種の役割、これまで学んだこと、実習の経験）の共有、事例の疾患、健康状態（症状、障害）、主訴のアセスメントと問題点の整理、事例検討の振り返り	科目担当全教員
3	事例検討	＜グループワーク＞ 事例のニーズの確認、各職種の目標を設定、チーム目標の提案	科目担当全教員
4	事例検討	＜グループワーク＞ 事例のニーズの確認、各職種の目標を設定、チーム目標の提案 事例検討の振り返り	科目担当全教員
5	事例検討	＜グループワーク＞ 各専門領域における専門用語の共通理解、チームの目標設定と自職種の目標設定	科目担当全教員
6	事例検討	＜グループワーク＞ 各専門領域における専門用語の共通理解、チームの目標設定と自職種の目標設定 事例検討の振り返り	科目担当全教員
7	事例検討	＜グループワーク＞ 職種間で連携した治療・ケアプランの作成	科目担当全教員
8	事例検討	＜グループワーク＞ 職種間で連携した治療・ケアプランの作成 事例検討の振り返り	科目担当全教員
9	中間報告	＜グループワーク＞ 中間報告の準備	科目担当全教員
10	中間報告	中間報告 リフレクション	科目担当全教員
11	全体報告会準備	＜グループワーク＞ 全体報告会（プレゼンテーション）の準備	科目担当全教員
12	全体報告会準備	＜グループワーク＞ 全体報告会（プレゼンテーション）の準備	科目担当全教員
13	全体報告会	全体報告会（プレゼンテーション）の予選	科目担当全教員
14	全体報告会	全体報告会（プレゼンテーション）の投票による本選発表（5事例）	科目担当全教員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
岡 真一郎、松井 聡子、佐々木 孝、大村 由紀美、西原 かおり、野村 あす美、間山 一枝、野田 佳奈恵、濱地 望、齊藤 貴文、北村 匡大、野中 嘉代子、澤田 誠、松本 典久、岡本 伸弘、江口 喜久雄、角田 孝行、山根 伸吾、谷川 良博、太田 研吾、川崎 一平				演習	演習	
回数	単 元	内 容			担当教員	
15	全体報告会	リフレクション			科目担当全教員	

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
機能代償学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、近藤 敏、川原田 淳				演習	講義 演習	

授 業 概 要
機能代償学では、対象者の機能・構造が原因となって生じた活動・参加の制約を種々の機器や環境調整などによって軽減するための専門的知識と技術を修得する。心身機能の代償の視点から活動・参加を支援する方法として、義肢・装具、テクニカルエイド（自助具、環境制御機器、移動援助機器、コミュニケーション援助機器等）、環境因子の視点から支援する方法として、住宅環境調整、社会環境調整などがあり、これらを作業療法過程の中で、対象者のニーズに応じて適切に適用するための方法を学ぶ。

到 達 目 標
1. 作業療法における機能代償の役割を説明することができる 2. 切断者のリハビリテーションの作業療法の役割を説明し、義肢の種類と適応について説明することができる 3. 身体機能の代償手段としての装具の役割を説明し、装具の種類と適応について説明することができる・スプリントの作成手順を理解し、対象者に適切なデザインを考え、作成ができる 4. テクニカルエイド（自助具、環境制御機器、移動援助機器、コミュニケーション援助機器等）の種類と適応について説明することができる 5. 心身機能の代償方法としての住宅環境調整、社会環境調整を説明できる 6. 義肢、装具、テクニカルエイド等についての公的支援制度について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書で予習し、事前に予備知識を取得しておく 事後学修：講義資料と教科書で復習し、知識の整理を行う

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
総合的に判断する（筆記試験80%、レポート20%）

教 科 書
長崎重信監修・山中武彦・中村恵一編集：義肢装具学（作業療法学ゴールドマスターテキスト）.MEDICAL VIEW. 2023 濱口豊太編集：日常生活活動・社会生活行為学 第2版 標準作業療法学 専門分野. 医学書院. 2022

参 考 図 書
松元義彦. 手作り自助具の工作技術. 三輪書店 作業療法ジャーナル編集委員会. テクニカルエイド Technical Aid 生活の視点で役立つ選び方・使い方(作業療法ジャーナル増刊号保存版). 三輪書店 大庭潤平/西村誠次/柴田八衣子. 義肢装具と作業療法. 医歯薬出版

留 意 事 項
機能代償学では、主に身体機能の代償のために利用される機器（義肢・装具・自助具・テクニカルエイドなど）を学修する。広範な知識とその整理が求められるので、予習と復習を確実に行って欲しい。

オフィスアワー等
各担当教員へメール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。 吉田：k.yoshida@rhs-u.ac.jp 近藤：s.kondo@rhs-u.ac.jp 川原田：a.kawarada@rhs-u.ac.jp

実 務 経 験
長年作業療法士またはリハビリテーション工学に従事していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、身体運動の 基礎知識を踏まえ、義肢・装具・テクニカルエイドについて指導する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
機能代償学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、近藤 敏、川原田 淳				演習	講義 演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	機能代償と作業療法	作業療法実践において機能代償学とその応用技術の果たす役割を整理する	吉田和弘
2	切断とリハビリテーション	切断部位と処方される義手の種類、断端管理、義手の分類、構造について理解する	近藤敏
3	義手	義手の種類と構成要素と部品について整理し、それらの適用について理解する	近藤敏
4	切断者に対する作業療法	義手装着訓練と義手のチェックアウトを含む上肢切断者に対する作業療法過程を理解する	近藤敏
5	装具学総論	装具の役割、装具の分類（使用目的・装着部位）を理解する	近藤敏
6	上肢装具と下肢装具	各装具の目的と適応を理解する	近藤敏
7	上肢の機能障害と福祉用具	上肢機能を代償する福祉用具を概観し、それらの種類と適応を理解する	近藤敏
8	姿勢保持・移動と福祉用具	体幹・下肢機能を代償する福祉用具を概観し、姿勢保持や移動援助機器の種類と適応を理解する	吉田和弘
9	環境制御装置とコミュニケーション支援機器	環境制御機器とコミュニケーション支援機器の種類と適応を理解する	吉田和弘
10	テクニカルエイドの活用と作業療法	重度障害を持つ対象者に対するテクニカルエイドの活用した作業療法支援について理解する	川原田淳
11	技術の進歩	技術の進歩による近年の機能代償する機器と今後の進化について理解する	川原田淳
12	実習：スプリント作成（１）	上肢装具とスプリントの種類と適応を理解し、スプリントの作成手順を理解する：スプリントのデザインと作成手順	吉田和弘
13	実習：スプリント作成（２）	上肢装具とスプリントの種類と適応を理解し、スプリントの作成手順を理解する：スプリント材料と作成（準備と制作）	吉田和弘
14	演習：自助具（１）	事例検討	吉田和弘

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
機能代償学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、近藤 敏、川原田 淳				演習	講義 演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	演習：自助具（2）	事例検討（発表）	吉田和弘

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習	講義 演習	

授 業 概 要
作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした実践を学ぶために、身体機能障害の治療原理と作業療法実施の枠組みを学ぶ。関節可動域制限、筋力低下、協調性障害などの改善を目的とした手段的作業療法の実際を修得する。また、作業療法の対象とする脳血管障害、脊髄損傷、パーキンソン病等の中樞神経障害、末梢神経障害、骨折、関節リウマチ等の運動器障害、さらに糖尿病等の内部障害などの基本的アプローチについて学修する。

到 達 目 標
1. 作業療法の対象となる身体障害領域の範囲について説明できる 2. 身体障害を持つ方に対して作業療法の役割と治療方法について説明できる 3. 器障害と治療的作業の関連性について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
筆記試験（90%）・授業態度など（10%程度）を総合して評価する。基本的に再試験は実施しない。やむをえない事情において本試験を受験できなかった場合は、追試験を実施する。

教 科 書
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院

参 考 図 書
作業療法学ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学改訂第2版 Medical View

留 意 事 項
授業については講義と演習を組み合わせで効果的に実施する。

オフィスアワー等
月、火曜日（11時～12時）・木曜日（15時～16時）2808研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習	講義 演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	身体機能障害作業療法学の基礎	身体機能障害作業療法の目的, 臨床推論, 身体機能作業療法のプロセスなどについて学修する	近藤昭彦
2	身体機能障害の治療原理①; ボディメカニクス	物理学的基础知識・身体運動の基礎知識・動作介助の具体例について学修する	近藤昭彦
3	身体機能障害の治療原理②; 運動制御と運動学習	運動制御理論, 運動学習について学修する	近藤昭彦
4	身体機能障害の治療原理③; 関節可動域の維持・拡大	関節可動域制限の原因と機序, 評価・治療手技と作業療法との関連について学修する	近藤昭彦
5	身体機能障害の治療原理④; 筋力と筋持久力の維持・増強	筋力・筋持久力低下の要因と原理, 評価治療手技と作業療法との関連について学修する	近藤昭彦
6	身体機能障害の治療原理⑤; 筋緊張異常とその治療	筋緊張異常を起こす疾患と発生機序, 評価および治療手技と作業療法との関連について学修する	近藤昭彦
7	身体機能障害の治療原理⑥; 不随意運動とその治療	不随意運動を起こす疾患と発生機序, 評価および治療手技と作業療法との関連について学修する	近藤昭彦
8	身体機能障害の治療原理⑦; 協調運動障害とその治療	協調運動障害を起こす疾患と発生機序, 評価および治療手技と作業療法との関連について学修する	近藤昭彦
9	身体機能障害の治療原理⑧; 知覚再教育	知覚再教育のための, 評価および治療手技と作業療法との関連について学修する	近藤昭彦
10	身体機能障害の治療原理⑨; 廃用症候群とその対応	廃用症候群を起こす原因とその影響, 評価および対応と作業療法との関連について学修する	近藤昭彦
11	身体機能障害の治療原理⑩; リスク管理と物理療法	リスク管理 (インシデント・アクシデントレポート, 医療安全管理など) と物理療法の基礎について学修する	近藤昭彦
12	身体機能作業療法実践の枠組み①	処方箋・依頼箋, リハビリテーション実施計画書とインフォームドコンセントなどについて学修する	近藤昭彦
13	身体機能作業療法実践の枠組み②	病期及び作業療法に関わる時期・病期に応じた治療・指導・援助内容と実施場所について学修する	近藤昭彦
14	身体機能作業療法実践の枠組み③	実施場所に応じた, 治療・指導・援助について学修する	近藤昭彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習	講義 演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	身体機能作業療法実践の枠組み④	ライフサイクルに応じた治療・指導・援助の違いについて学修する	近藤昭彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、江口 喜久雄				演習	演習・講義	

授 業 概 要
精神機能作業療法の理論と治療構造、および精神障害者の理解と基本的対応について講義する。加えて、精神機能作業療法に用いられる主な関連療法についても説明して、その応用を解説する。

到 達 目 標
1．精神医療の歴史を理解し、精神医療における治療理念を確立する 2．精神機能作業療法学の理論と実際について説明できる 3．精神機能作業療法の治療構造を理解し、解説できる 4．作業活動の治療的意義を説明できる 5．各種治療理論を理解し、作業療法との関連性および応用を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書、配付資料等で予習し、予備知識を取得しておくとともに、疑問点を整理しておく 事後学修：復習することで、解決できなかった疑問点、理解困難な箇所は必ず教員に質問し解決する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
筆記試験100%とし、60点以上を合格とする

教 科 書
標準作業療法学 精神機能作業療法学 第4版 医学書院 新宮尚人 治療構造論による精神科作業療法 青海社 中山広宣

参 考 図 書
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規出版 堀田英樹

留 意 事 項
精神障害および精神機能作業療法学で使用される専門用語の理解は難しいので事前学修において疑問点を整理して講義に臨むこと

オフィスアワー等
田中悟郎 研究室在室時はいつでも対応します。但し、メール等で2日前までに事前に予約を取ること。 江口喜久雄 研究室在室時はいつでも対応します。但し、メール等で2日前までに事前に予約を取ること。

実 務 経 験
精神科作業療法の実務経験を有する教員が、精神医療の歴史、主要理論、その応用、ならびに各種精神疾患の特徴について講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、江口 喜久雄				演習	演習・講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	精神機能作業療法学総論 1	精神機能作業療法学の歴史	田中悟郎
2	精神機能作業療法学総論 2	精神機能作業療法学の基礎知識及び特性	田中悟郎
3	精神機能作業療法学各論 1	精神機能作業療法学の理論 1	田中悟郎
4	精神機能作業療法学各論 2	精神機能作業療法学の理論 2	田中悟郎
5	精神機能作業療法学各論 3	精神機能作業療法の手順	田中悟郎
6	精神機能作業療法学各論 4	精神機能作業療法の治療構造と治療機序 1	江口喜久雄
7	精神機能作業療法学各論 5	精神機能作業療法の治療構造と治療機序 2	江口喜久雄
8	精神機能作業療法学各論 6	精神機能作業療法の各種療法 1	江口喜久雄
9	精神機能作業療法学各論 7	精神機能作業療法の各種療法 2	江口喜久雄
10	精神機能作業療法学各論 8	精神機能作業療法の対象疾患 1	江口喜久雄
11	精神機能作業療法学各論 9	精神機能作業療法の対象疾患 2	江口喜久雄
12	精神機能作業療法学各論10	精神機能作業療法の対象疾患 3	江口喜久雄
13	精神機能作業療法学各論11	精神機能作業療法学の関連療法 1	田中悟朗
14	精神機能作業療法学各論12	精神機能作業療法学の関連療法 2	田中悟朗

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、江口 喜久雄				演習	演習・講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	精神機能作業療法学各論13	精神機能作業療法学の関連療法 3	田中悟朗

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期作業療法学	2026年度	作業療学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義	

授 業 概 要
作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入方法を学習する。また、治療や訓練の方法だけではなく、家庭や学校等で行かせる援助法についても学習する。

到 達 目 標
1．小児領域の作業療法の対象となる運動障害がある児に対する治療や支援の方法が理解できる 2．小児領域の作業療法の対象となるASD等の発達障害児に対する治療や支援の方法が理解できる 3．小児領域の作業療法の対象となる児に対する家庭や学校等で行かせる援助法が理解できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：今回の講義内容についてMoodleに事前配信された資料を確認する。 事後学修：教科書並びに配布資料等を用いて講義内容を復習する。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
試験70％、課題20％、参加度10％

教 科 書
長崎重信監修・神作一実（編集）「発達障害作業療法学 改訂第3版」 メジカルビュー

参 考 図 書

留 意 事 項
小テスト（確認テスト）を実施することもあるので、授業範囲を復習しておくこと

オフィスアワー等
研究室に在室時はいつでも対応可。ただし、事前にメールにて予約を取ることとする

実 務 経 験
作業療法士として発達障害領域で実務経験があり、対象となる子どもの評価・治療の経験も豊富である。その経験を活かして講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	作業療法の対象となる疾患の概要	発達過程の対象となる児に対する作業療法の概要について	森本 誠司
2	運動障害がある児に対する作業療法①	脳性麻痺（痙直型片麻痺・痙直型両麻痺・痙直型四肢麻痺）の概論と介入について	森本 誠司
3	運動障害がある児に対する作業療法②	脳性麻痺（アテトーゼ型四肢麻痺）の概論と介入について	森本 誠司
4	運動障害がある児に対する作業療法③	筋ジストロフィー・二分脊椎・分娩麻痺・その他の概論と介入について	森本 誠司
5	発達障害がある児に対する作業療法①	自閉スペクトラム症の概論と介入について	森本 誠司
6	発達障害がある児に対する作業療法②	注意欠如・多動症の概論と介入について	森本 誠司
7	発達障害がある児に対する作業療法③	限局性学習症・発達性運動症の概論と介入について	森本 誠司
8	作業療法の対象となる児に対するTherapy	発達過程の対象となる児に対する作業療法実践について	森本 誠司

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
高齢期作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川良博				講義	講義、演習	

授 業 概 要
作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした高齢期のクライアントに対する介入法を学修する。高齢期の心身機能の低下に伴うロコモティブ症候群、廃用症候群、転倒事故といったリスクを踏まえながら、高齢者に対し、個人の長年の経験や教育歴、誇りを尊重する態度を身につける。作業療法の理論をベースに評価法の選択、検査をもとに作業療法計画と介入について学修する。

到 達 目 標
1. 高齢期における対象者の身体面・心理面の変化について説明することができる。 2. 高齢期に多くみられる疾患を挙げ、その支援方法について説明することができる。 3. 高齢期における介護者への支援の必要性とその支援について説明することができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：講義中に行う発表やディスカッションに向けて事前準備を行う 事後学修：教科書や講義中に配布する資料等を熟読し、授業内容の復習を行う

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
筆記試験（60％），授業内で指定する課題（40％）によって行う

教 科 書
監修 松房利憲 高齢期作業療法学第4版 医学書院 2024

参 考 図 書
浅海奈津美・守口恭子 老年期の作業療法 三輪書店 2018

留 意 事 項
授業については講義と演習を組み合わせで効果的に実施する。

オフィスアワー等
谷川良博 月、火、金曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士として実務経験のある教員が、老年期の対象となる方に対して具体的な作業療法実践を展開するための基本的知識と方法について講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
高齢期作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川良博				講義	講義、演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	高齢期作業療法の枠組みと対象	高齢者が主体性を保ち、社会参加し、自己実現を追求し、尊厳のある生き方をすることを作業の側面から支えるために作業療法が貢献できる事柄を学ぶ	谷川良博
2	高齢期作業療法の制度的位置づけと実施形態	地域包括ケアシステムの概要や介護保険の目的や仕組みについて理解するさらに、介護保険下で作業療法士が配置されるサービスの概要を学ぶ	谷川良博
3	高齢期とはどのような時期か	老化について、身体機能面や精神機能面の変化について理解する これら心身機能面が老年期うつ病などの疾患に影響を及ぼすことを学ぶ	谷川良博
4	実践現場で多い疾患 廃用症候群	認知症について医学的側面、生活上の側面から理解し、支援方法について理解する	谷川良博
5	高齢期で用いられる評価	評価の目的や活用方法を学ぶ 検査に際しての基本的な留意点を学ぶ。	谷川良博
6	高齢期における家族支援	高齢者介護の現状について学び、家族支援の意義を理解する	谷川良博
7	介入の実際 終末期における支援	高齢者は複数の疾患や障害を併せ持ち、社会的にも影響を受けやすいため、その終末期はきわめて多様であることから、作業療法士の立場としての支援を理解する	谷川良博
8	高齢者の人権と権利擁護	高齢者の人権に関する歴史を学び、身体拘束の禁止や高齢者虐待防止法、そして権利擁護について理解する	谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
認知症作業療法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博				講義	講義	

授 業 概 要
認知症およびその予備軍を合わせると800万人を超すと言われ、この対策と予防は我が国の国民的課題である。認知症の当事者の心理特性を理解しながら、その人らしい作業を取り戻すことで行動心理症状を防ぎ、自分らしく生活できるために作業療法が果たす役割は大きい。この授業では、認知症になっても安心・安全に暮らせる地域づくりや認知症予防に対する作業療法の技術を学修する。また、これまでに行われている認知症に対する代替療法についても学修する。

到 達 目 標
1．認知症者の生活障害について具体例を挙げることができる 2．認知症の支援について、作業療法実践と社会資源の活用について具体例を挙げて説明ができる 3．認知症予防や地域在住認知症者に対する地域支援について具体例を挙げて説明ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと。 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。

対応D P
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
筆記試験60％ 課題（レポート、発表）40％

教 科 書
守口恭子 谷川良博 認知症のある人の生活と作業療法 三輪書店 2024

参 考 図 書
小川敬之編 認知症の作業療法 医歯薬出版 2019

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火、金曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることをとする。

実 務 経 験
作業療法士として実務経験のある教員が、認知症の当事者や家族の方々に対する具体的な作業療法実践を展開するための基本的知識と方法について講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
認知症作業療法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	高齢社会と認知症	高齢社会にともない認知症高齢者が増加しているなか、平均寿命と健康寿命との関係、発症率に関する知識、介護保険での作業療法士の役割について理解を深める	谷川良博
2	認知症の定義と分類	認知症の診断基準をもとに、その症状について理解を深める。さらに、認知症の代表的なタイプについて症状と特徴について理解を深める	谷川良博
3	認知症に関連する評価	認知症の作業療法実践では、認知症者を正確に把握する必要がある。そのためには、評価を進める際の基本的姿勢、実際のテスト法について理解する	谷川良博
4	認知症に関連する社会資源	資源として、制度（関連法規）、家族会、福祉用具などがある。支援する際に留意するポイントや活用方法について理解する	谷川良博
5	認知症の作業療法の実際 1	認知症関連の支援施設を調査する。調査は事前にその目的や方法を調べる。	谷川良博
6	認知症の作業療法の実際 2	認知症関連の施設や取り組みについて調査する。これには認知症カフェや当事者会も含まれる。	谷川良博
7	認知症者とのコミュニケーション	認知症者とのコミュニケーションのために、表情やアイコンタクトなどから読み取る、聴く際の態度、共感の方法など具体的に理解する	谷川良博
8	認知症予防に対する地域づくりと作業療法	地域で認知症予防教室を展開する、地域で軽度認知症者への作業療法の展開などの実践をもとに、地域づくりと作業療法について理解する	谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、田中 悟郎、森本 誠司				講義	講義	

授 業 概 要
作業療法は病院だけでなく、地域で生活していく人たちを支援していく関わりが要求される。この授業では、家庭を基盤に地域で生活している人への作業療法の知識と技術を学修する。対象は子どもから高齢者に至るまで、また急性期、維持期（生活期）、終末期まで、さらに身体・精神障害、難病等さまざまなものである。介護保険や自立支援法、地域包括システムなど個人を支えていくための公的制度にも触れながら在宅生活支援のための援助法について学修する。

到 達 目 標
1. 地域における基本的な作業療法について説明できる 2. 在宅生活支援のための専門職連携について例を挙げられる 3. 地域生活支援のためのマネジメントについて説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：講義中に行う発表やディスカッションに向けて事前準備を行う 事後学修：教科書や講義中に配布する資料等を熟読し、授業内容の復習を行う

対応D P
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
筆記試験（80％），授業内で指定する課題（20％）によって行う

教 科 書
大熊明/加藤朋子 編：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第4版，医学書院，2023 伊藤良高 監修 森本誠司 竹下徹 永野典詞 編：教育と福祉の展望 晃洋書房

参 考 図 書
大田仁史 著：地域リハビリテーション言論Ver. 7 池田由里子他 著：REHABILITATION LIFE

留 意 事 項
授業については講義を中心にディスカッションを組み合わせで効果的に実施する。

オフィスアワー等
谷川良博 火、金曜日（13時～14時）研究室 /田中悟郎 月、火曜日（13時～14時）・金曜日（11時～12時）研究室 森本誠司 水曜日（15時～16時）・木曜日（14時～15時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士として実務経験のある教員が、地域作業療法の対象となる方々に対して作業療法実践を展開するための基本的知識と方法について講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、田中 悟郎、森本 誠司				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	地域作業療法の基礎概念	地域作業療法を理解するために、地域のとらえ方や地域医療、地域におけるリハビリテーションの歩みを学ぶ	田中悟郎 森本誠司 谷川良博
2	多職種連携と協働	地域作業療法にかかわる多職種を知り、実践過程をもとに社会生活支援と連携について学ぶ	谷川良博
3	地域作業療法を支える制度（小児・発達領域）	発達領域の地域作業療法を支えている制度や政策を知り、社会の流れを背景にした作業療法実践を学ぶ。社会保障制度や関連法規について学ぶ	森本誠司
4	小児・発達領域におけるリスクマネジメント	作業療法士が行う小児・発達領域でのリスクマネジメントには生活全体を包括的にとらえる必要があり、その小児領域での留意するポイントを学ぶ	森本誠司
5	地域作業療法を支える制度（精神機能領域）	精神領域の地域作業療法を支えている制度や政策を知り、社会の流れを背景にした作業療法実践を学ぶ。社会保障制度や関連法規について学ぶ	田中悟郎
6	精神機能領域におけるリスクマネジメント	作業療法士が行う精神機能領域でのリスクマネジメントには生活全体を包括的にとらえる必要があり、精神機能領域での留意するポイントを学ぶ	田中悟郎
7	地域作業療法を支える制度（身体障害・老年領域）	身体障害・老年期領域の地域作業療法を支えている制度や政策を知り、社会の流れを背景にした作業療法実践を学ぶ。社会保障制度や関連法規について学ぶ	谷川良博
8	地域作業療法と生活障害	各領域の地域作業療法の現状を理解し、その生活上の障害とその支援の方法と考え方を学ぶ	谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
ヘルスプロモーション作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義	

授 業 概 要
本授業では、ヘルスプロモーションの理念と作業療法の専門性を基盤として、個人・集団・地域の健康を支援するための理論と実践的アプローチを学ぶ。講義を中心に、発表やディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れ、作業療法士として健康作りに貢献するための実践的な思考力を養う。

到 達 目 標
1. ヘルスプロモーションの歴史的背景と健康の概念について説明できる 2. 作業に基づく健康支援の視点を理解し、地域・集団・個人における健康づくりの枠組みを説明できる 3. 地域課題を踏まえて、ヘルスプロモーション事業の計画立案ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：講義中の発表やディスカッションに向け、指定された資料の読解や情報収集などの事前準備を行う 事後学修：配布する資料や講義内容を振り返り、課題の整理やまとめを行うとともに、次回の発表に向けた準備を進める

対応D P
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
講義内発表70％、講義への参加度30％

教 科 書
必要に応じて資料を配布する

参 考 図 書
日本作業療法士協会学術部編集：ヘルスプロモーション，（社）日本作業療法士協会

留 意 事 項
授業を中心にディスカッションも組み合わせて進める。連続性のある授業構成のため、やむを得ない事情などの欠席を除き、他のメンバーに支障を与えないよう参加すること。

オフィスアワー等
坂口聡子：2824研究室、川崎一平：2816研究室 メールなどで2日前までに事前に予約を取ることにする

実 務 経 験
豊富な臨床経験を持つ作業療法士が、実践に基づいた視点から健康づくりのプロセスを分かりやすく指導する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
ヘルスプロモーション作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション ヘルスプロモーション総論	ヘルスプロモーションの概念及び、ヘルスプロモーションの主要理論について学ぶ。	坂口聡子 川崎一平
2	ヘルスプロモーションと作業療法 1	国内外のヘルスプロモーションの実践を取り上げ、作業療法の視点から健康づくりのアプローチを多角的に学ぶ。また、環境要因を活用した行動変容理論を取り上げ、環境デザインについて学ぶ。	坂口聡子 川崎一平
3	ヘルスプロモーションと作業療法 2	日本における健康づくりの実践例を取り上げ、健康教室の企画立案を通してヘルスプロモーションの具体的な展開方法を学ぶ。	坂口聡子 川崎一平
4	ヘルスプロモーション事業の企画立案 1	地域に暮らす人々が過ごしやすい環境とは何かについて、ヘルスプロモーションの視点から検討し、健康行動を促進するポイントを学ぶ。	坂口聡子 川崎一平
5	ヘルスプロモーション事業の企画立案 2	地域の健康課題を踏まえ、対象のニーズを適切に把握し、ヘルスプロモーション事業の企画・実践に生かす方法を学ぶ。	坂口聡子 川崎一平
6	ヘルスプロモーション事業の企画立案 3	ヘルスプロモーション事業の企画を体系的にまとめる。実施可能性の高い企画書作りを通して、地域の健康づくりに向けた実践的な計画立案能力を学ぶ。	坂口聡子 川崎一平
7	ヘルスプロモーション事業の発表 1	講義内容をもとにディスカッションで得た学を発表し、ヘルスプロモーション事業の構築に必要な思考力と説明力を養う。	坂口聡子 川崎一平
8	ヘルスプロモーション事業の発表 2	相互評価を通じて、ヘルスプロモーション事業企画の妥当性を県とする力を身に着つける。	坂口聡子 川崎一平

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
総合臨床実習Ⅱ	2026年度	作業療法学科	6単位	270時間	必修	4年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、谷川 良博				実習		

授 業 概 要
学生はこれまで学内外で学んだ知識・技術を経験ある作業療法士の指導のもとで、1) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を見学する、2) 実習指導者の監視のもと、基本的な評価（観察，面接，検査・測定，解釈）、作業療法計画（治療目的，ゴール設定）を経験する。3）実習指導者の担当している対象者1～2名に対して、指導を受けながら学生の考えた作業療法計画を作成し、評価から介入までの過程を経験する。

到 達 目 標
1. 作業療法過程における必要な知識・技術および態度を学修する 2. 実習指導者の作業療法実践に参加し、基本的な作業療法計画の立案と介入を学修する 3. 実習指導者の担当する対象者の作業療法の観察、模倣を通して、作業療法の思考過程を学修する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前：学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を進める 事後：報告会に参加し、幅広い意見と知識を学修する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
学内教育ルーブリック（Rubric）、実習目標到達度確認シートを行い、最終成績（合否判定）については本学が責任をもって判定する。

教 科 書

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
総合臨床実習Ⅱ	2026年度	作業療法学科	6単位	270時間	必修	4年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
吉田 和弘、谷川 良博				実習		

内 容
1．学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監視のもとで行う診療参加型実習を実施する。実習は、4年次前期に実施する 2．実習前に以下のことを行う 1）実習前セミナー（オリエンテーション）に参加することで、学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を行う 2）実習前に、学生は臨床実習に必要な知識・技術、態度について客観的臨床能力試験Objective Structured Clinical Examination（以下、OSCE）を受験することで、技能の確認を行う 3．実習施設では実習指導者の指導のもと診療チームの一員として以下のことを行う 1）対象者の疾患と障害の理解：対象者の疾患や障害状況の把握に必要な情報収集をする 2）評価法の準備：面接、観察、検査測定の方法と手順を確認する。学生は評価法選択の根拠を説明する 3）作業療法計画の立案と介入 実習指導者の観察、面接、検査測定を見学および模倣する 評価結果をICF（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）を用いて整理し全体像を把握する 評価結果をもとに対象者の問題点と利点・資源について説明する 対象者中心の作業療法の目標および効果的な作業を選択する 対象者等に作業療法計画に対する実習指導者の説明と同意について見学する 対象者の作業療法介入を見学、模倣しながら対象者との治療関係やリスク管理について体験する 対象者の作業療法の経過を記録する 対象者の個人情報保護する 4．課題 1）対象者の観察、検査測定および介入の記録 対象者の作業療法の記録（情報収集、面接・観察、検査測定、計画立案、介入、経過等）を記載する。この書式については、実習指導者と相談する 2）症例報告書の作成 作業療法の展開について、リーズニングを含む事例報告を作成する 3）デイリーノート作成 毎日の実習内容および学修内容、質問、感想等を記載する 4）報告会における発表 実習後、学内において症例発表会を実施する

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
総合臨床実習Ⅲ	2026年度	作業療法学科	6単位	270時間	必修	4年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、吉田 和弘				実習	実習	

授 業 概 要
学生はこれまで学内外で学んだ知識・技術を経験ある作業療法士の指導のもとで、1) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を見学する、2) 実習指導者の監視のもと、基本的な評価（観察，面接，検査・測定，解釈）、作業療法計画（治療目的，ゴール設定）を経験する。3) 実習指導者の担当している対象者1～2名に対して，指導を受けながら学生の考えた作業療法計画を作成し，評価から介入までの過程を経験し，実践的な行動を学修する。

到 達 目 標
1. 作業療法過程における必要な知識・技術および態度を学修する 2. 実習指導者の作業療法実践に参加し、基本的な作業療法計画の立案と介入を学修する 3. 実習指導者の担当する対象者の作業療法の観察、模倣を通して、作業療法の思考過程を学修する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前：学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を進める 事後：報告会に参加し、幅広い意見と知識を学修する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
学内教育ルーブリック（Rubric）、実習目標到達度確認シート、OSCE結果を合わせて総合的に成績評価を行い、最終成績（可否判定）については本学が責任をもって判定する

教 科 書

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験
作業療法士業務に携わる作業療法士によって、実地で対象者を通じて指導する。並びに、作業療法士として実務経験のある教員によって実習における基本的知識について指導する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
総合臨床実習Ⅲ	2026年度	作業療法学科	6単位	270時間	必修	4年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、吉田 和弘				実習	実習	

内 容
1．学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監視のもとで行う診療参加型実習を実施する。実習は、4年次前期に実施する 2．実習前に以下のことを行う 1）実習前セミナー（オリエンテーション）に参加することで、学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を行う 2）実習後に、学生は臨床実習に必要な知識・技術、態度について客観的臨床能力試験Objective Structured Clinical Examination（以下、OSCE）を受験することで、技能の確認を行う 3．実習施設では実習指導者の指導のもと診療チームの一員として以下のことを行う 1）対象者の疾患と障害の理解：対象者の疾患や障害状況の把握に必要な情報収集をする 2）評価法の準備：面接、観察、検査測定の方法と手順を確認する。学生は評価法選択の根拠を説明する 3）作業療法計画の立案と介入： 実習指導者の観察、面接、検査測定を見学および模倣する 評価結果をICF（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）を用いて整理し全体像を把握する 評価結果をもとに対象者の問題点と利点・資源について説明する 対象者中心の作業療法の目標および効果的な作業を選択する 対象者等に作業療法計画に対する実習指導者の説明と同意について見学する 対象者の作業療法介入を見学、模倣しながら対象者との治療関係やリスク管理について体験する 対象者の作業療法の経過を記録する 対象者の個人情報保護する 4．課題 1）対象者の観察、検査測定および介入の記録 対象者の作業療法の記録（情報収集、面接・観察、検査測定、計画立案、介入、経過等）を記載する。この書式については、実習指導者と相談する 2）症例報告書の作成 作業療法の展開について、リーズニングを含む事例報告を作成する 3）デイリーノート作成 毎日の実習内容および学修内容、質問、感想等を記載する 4）報告会における発表 実習後、学内において症例発表会を実施する

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	4年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、角田 孝行、近藤 昭彦				演習	演習	

授 業 概 要
患者を全人的にアセスメントし、患者中心の専門職連携によってケアプラン・リハビリプログラムの立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで培ったIPEに関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、グループワークを通し専門職の役割を活用しながら、対象者の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームでケアプラン・リハビリプログラムの作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実際についての講義・シンポジウム等を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。2026年度は、9／15（火）、9／16（水）、9／17（木）の3日間（予定）の集中講義で実施する。

到 達 目 標
1. 各専門分野における患者の問題を明確にすることができる 2. チームメンバーと良好な人間関係の下、話しやすい雰囲気を作ることができる 3. チームの目標達成のためにチーム状況を評価し、自己の実践を決定できる 4. 患者への全人的評価に基づいたケアプラン・リハビリプログラムを立案できる 5. 実習指導者及び教員等の支援を受けて、最新の専門知識をケアプラン・リハビリプログラムに反映できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：専門職連携教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして該当テーマについて調べる 事後学修：当日の該当テーマに沿ってまとめを行いレポートを作成する

対応D P

評 価
課題レポート(100%)

教 科 書
講師資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
9／15（火）・9／16（水）・9／17（木）の16：20－17：50、各担当教員の研究室。

実 務 経 験
本科目を担当する教員は、臨床現場における看護・リハビリテーション活動の実務経験を生かして講義・演習を展開する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	4年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、角田 孝行、近藤 昭彦				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	授業オリエンテーション	授業オリエンテーション 個人ワーク・グループワーク等の説明	全員
2	個人ワーク	プレゼンテーション資料の作成	全員
3	個人ワーク	プレゼンテーション資料の作成、グループメンバー自己紹介・発表順番等の決定	全員
4	グループワーク①	30分／人（20分プレゼン＋10分討論）×2～3人	全員
5	個人ワーク	初日（9／15）の学びのレポート作成・提出	全員
6	グループワーク②	30分／人（20分プレゼン＋10分討論）×2～3人	全員
7	グループワーク③	30分／人（20分プレゼン＋10分討論）×2～3人	全員
8	グループワーク④	30分／人（20分プレゼン＋10分討論）×2～3人	全員
9	グループワーク⑤	30分／人（20分プレゼン＋10分討論）×2～3人	全員
10	個人ワーク	2日目（9／16）の学びのレポート作成・提出	全員
11	講義①	「専門職連携の実際」	全員
12	講義②	「専門職連携の実際」	全員
13	シンポジウム①	「専門職連携の実際・コツ」	全員
14	シンポジウム②	「臨床実習での学び」	全員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	4年前期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、角田 孝行、近藤 昭彦				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	個人ワーク	3日目（9／17）の学びのレポート作成・提出	全員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
スポーツ理論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
小西 裕之				講義		

授 業 概 要
学生の健康管理の一環ともなるようスポーツについて学修する。人間にとって体を動かすことがどのような意義があるのか、スポーツがもたらす心や体への影響を考え、体力づくりや健康づくりや、スポーツ理論について学ぶ。 さらに障害者のスポーツに関しても学修する。障害には身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などがある。 初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ活動の導入を支援できるように学修する。

到 達 目 標
1. スポーツが身体・精神に及ぼす影響について説明できる 2. 健康と体力づくりの関係について説明できる 3. スポーツに取り組む際の安全への配慮について説明できる 4. 障がい者スポーツの概要を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応D P
☒ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☐ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
テストの結果により評価 （テストは8回目授業内で行う）

教 科 書
なし

参 考 図 書
適宜配布する。

留 意 事 項
携帯電話等モバイル機器の無断使用を禁止する

オフィスアワー等
授業終了後、もしくはメールにて問い合わせること

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
スポーツ理論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
小西 裕之				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	スポーツの意義と役割	授業ガイダンス 健康の概念 運動・スポーツが健康に及ぼす影響	小西裕之
2	ライフステージによる運動・スポーツ	ライフステージ別にみた運動・スポーツ及びそれらの健康に及ぼす影響	小西裕之
3	スポーツとメンタルヘルス	運動・スポーツがメンタルヘルスに及ぼす影響	小西裕之
4	安全管理	安全管理の考え方、安全上の約束と指導、レクリエーションの工夫	小西裕之
5	運動処方	運動処方の原則、運動処方についての留意点	小西裕之
6	障害別指導の特徴	身体別障害、知的障害、精神障害、発達障害	小西裕之
7	障がい者スポーツ	障がい者スポーツ振興の経過	小西裕之
8	まとめ	ノーマライゼーションの考え方、授業の振り返り	小西裕之

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
カウンセリング論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				講義		

授 業 概 要
カウンセリングの基本的なテクニックについて、具体的な事例や技法を通して学ぶ。 クライアントの立場に立って、カウンセリング体験について学ぶ。 リハビリテーション医療におけるカウンセリングの重要性について理解する。

到 達 目 標
1. 因カウンセリングの意義と過程について説明することができる 2. 因カウンセリングに用いられる基本的なテクニックについて説明することができる 3. 因ハビリテーションにおけるカウンセリングの重要性について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当する教科書および配布資料に目を通しておくこと 事後学修：授業の内容について理解できるよう、整理しておくこと

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
ミニレポート（40％）と定期試験（60％）により評価する。

教 科 書
1. 配布資料

参 考 図 書
やさしいカウンセリング論（学術図書出版社）（ISBN:978-4-7806-1435-0）

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問などは、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
カウンセリング論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	カウンセリングの定義と実際、カウンセラーの仕事	山口 雄介
2	カウンセリング・テクニッ ク	人の話を「きく」（傾聴）	山口 雄介
3	カウンセリング・テクニッ ク	人を「みる」（観察）	山口 雄介
4	カウンセリング・テクニッ ク	人を「みてる」（査定）	山口 雄介
5	クライアントの体験	助けを求める心理・求めない心理	山口 雄介
6	クライアントの体験	クライアントとカウンセラーの関係	山口 雄介
7	クライアントの体験	カウンセラーとの別れ	山口 雄介
8	まとめ	カウンセリングのこれから	山口 雄介

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
教育学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
木村 栞太				講義		

授 業 概 要
教育は歴史・社会・文化のすべての全体的な関連の中で営まれる。そこで、教育の目的と内容を理解し、近代の学校の成立と西欧や日本の歴史的変遷を概観し、「人間のための教育」という視点から、そこに見られる主な問題、とりわけ現代的課題である貧困や福祉の現状、医療と教育について検討していく。さまざまな具体的な教育思想や実践事例などを紹介しながら医療教育についても現状や課題などを考える。本科目では教育学の基本的な概念や知識、現代の教育における問題について学修する。

到 達 目 標
1. 教育の基本概念が理解できる 2. 人間の成長と教育の意義・目的について説明できる 3. 教育の抱える現代的課題について具体的に説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応D P

評 価
原則、受講態度（10点）、授業事の小レポートの提出（30点）、期末試験（60点）の項目・配点に基づき評価します。

教 科 書
なし

参 考 図 書
木村元編（2021）『教育学 第8版』医学書院（ISBN：978-4-260-04215-4）

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、原則授業時か授業後に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
教育学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
木村 葉太				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション	授業概要の説明、看護と教育の関係	木村 葉太
2	教育学の基礎概念①	近代化に伴う教育と子ども概念の変化	木村 葉太
3	教育学の基礎概念②	社会構造と教育の関係	木村 葉太
4	教育を構成する要素①	教授と学習の関係	木村 葉太
5	教育を構成する要素②	福祉と教育の現状	木村 葉太
6	教育の現代的課題①	不登校	木村 葉太
7	教育の現代的課題②	社会教育・生涯学習	木村 葉太
8	まとめ	まとめ	木村 葉太

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達心理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

授 業 概 要
既修の「心理学」と関連させながら、心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフサイクルを視野にいれながら、ここでは胎児期から乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に時間の経過とともに質的及び量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、医療の対象である人間の誕生から老年期に至る生涯発達の過程において、各期の発達と課題を学ぶことで、医療に還元できる知識や探索の仕方を学修する。

到 達 目 標
1．人間の生涯発達の理論について説明できる 2．乳幼児期の発達と課題について説明できる 3．児童期の発達と課題について説明できる 4．青年期の発達と課題について説明できる 5．成人期の発達と課題について説明できる 6．中年期の発達と課題について説明できる 7．老年期の発達と課題について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておく 事後学修：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応DP
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
ミニレポート（20％）と定期試験（80％）により評価する。

教 科 書
発達心理学 15講 北大路書房

参 考 図 書
授業中に適宜紹介する。

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達心理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	発達心理学の基礎	授業ガイダンス 「発達の概念」、「人間発達の特殊性」、「発達段階と発達課題」について	山口雄介
2	発達心理学の理論①	人間の成長と成熟の過程、「学習理論」、「認知発達理論」、「社会的関係の中での発達理論」の観点	山口雄介
3	発達心理学の理論②	発達のプロセスと発達課題に関する「ライフサイクル論」と「ライフコース論」について	山口雄介
4	胎生期から新生児期まで	胎生期から新生児期までの発達 「個体発生のメカニズム」、「胎児への環境からの影響」「誕生と新生児の特徴」	山口雄介
5	乳児期の発達	乳児期の発達 「乳児期の特徴と身体発達」、「乳児期の認知的発達」、「対人関係の始まりと母子関係」について	山口雄介
6	幼児期の機能と発達	幼児期における基本的生活習慣の獲得 「知能」と「情動」と関連付けながら学習	山口雄介
7	幼児期の社会性	幼児期の社会性 「ことばの発達」や「親子関係から仲間関係」への対人関係の広がりに関連付けながら学習	山口雄介
8	児童期の発達	児童期における他者との関わりを通した発達の様相 「身体的変化と成熟」、「学校生活の始まり」、「対人関係の発達」の観点から	山口雄介
9	乳児期から幼児期に生じる発達に関わる問題	乳児期から幼児期に生じる「発達障害」 発達障害に含まれる精神障害の分類や発達障害児への「合理的配慮」の実践について	山口雄介
10	青年期の発達	青年期の特徴と「自我同一性の獲得」について、青年期の「友人関係」「恋愛関係」	山口雄介
11	成人期の発達	青年期から成人期への移行に伴う「キャリア発達と社会生活」「キャリア発達理論」「家族の形成」	山口雄介
12	青年期以降のメンタルヘルスと精神保健	思春期・青年期の問題行動（「いじめと不登校」など）や精神病理 成人期の危機と職場のメンタルヘルス（「バーンアウト」など）	山口雄介
13	中年期の発達と危機	中年期の発達課題、「中年期のライフイベント」、そして「老い」の兆候が表れることによる心理過程	山口雄介
14	老年期の発達	老年期の発達に関して、「老いの特徴」、「老年期のパーソナリティと適応」、「老年期の不適応と障害」	山口雄介

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達心理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 雄介				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	「死」への対応、まとめ	「死に対する態度の発達」、「死の受容」、「残されたものの悲嘆」、「幸福な老いと最期」について 授業のまとめ	山口雄介

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
ジェンダー論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
宮崎 聖子				講義		

授 業 概 要
多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上でジェンダーは重要な視点の一つである。医療、健康、保健に関わる人材は、人間の生と性に関するジェンダーへの深い理解が求められる。ここでは文化・社会的なありようとしてのジェンダーがどのように構築されてきたか、具体的な歴史やトピックをとりあげながら、ジェンダーに関わる諸相を理解する。自己のジェンダー観に気づき理解を深め、人権問題、社会問題にも広く対処できるような素養を身に着けることを目的とする。

到 達 目 標
1. 囚間の生と性の歴史や現状について知る 2. 囚間の生と性の多様性について理解し、自らの専門性との関連について考えることができる。 3. 現代のジェンダーをめぐる課題を知り、それについての対応を考えることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする

対応D P
☒ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
授業中に提出する小レポート4割、レポート6割で評価する。

教 科 書
講師資料

参 考 図 書
伊藤公男、牟田和恵編；ジェンダーで学ぶ社会学 （全訂新版） 世界思想社 2015

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業の後、またはメールによる。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
ジェンダー論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
宮崎 聖子				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	ガイダンス、ジェンダーとは	ガイダンス、ジェンダー研究の課題、性をめぐる概念、歴史について考える。	宮崎聖子
2	SDGsとジェンダー男／女らしさ	SDGsにおけるジェンダーの役割について理解する。男／女らしさがどのように構築されてきたか考える。	宮崎聖子
3	多様な性と生	セクシャリティの多様性や、LGBTといわれる性的少数者について理解する。	宮崎聖子
4	ドメスティック・バイオレンス1	親密な間柄におきる暴力の現状と課題について理解する。	宮崎聖子
5	ドメスティック・バイオレンス2 生殖の歴史	DV防止法について知り、理解する。 明治以降における日本の生殖の歴史について理解する。	宮崎聖子
6	リプロダクティブ・ヘルス・ライツ	リプロダクティブ・ヘルス・ライツの概念、その歴史的経緯について考える。	宮崎聖子
7	グローバル化とジェンダー	グローバル化の中でどのようなジェンダーの問題が出現しているのか、アジアなどの具体的事例を通して考える。	宮崎聖子
8	まとめ	これまでの振り返りとレポートの提出。	宮崎聖子

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
社会学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
横田尚俊				講義		

授 業 概 要
社会学の観点からみると人間は社会的存在である。私たちは、現代社会のしくみに拘束され、その動向・潮流に流されていく存在だが、同時に他者と結びつきながら社会のしくみ・動向を左右し創り出す存在でもある。この授業では、そのような社会学の視点から、現代の災害現象・災害問題にアプローチし、災害社会学における研究成果の一端に触れていく。災害と人間行動・社会との関係について理解を深めることを授業の目的とする。

到 達 目 標
1. 現代社会における災害の特質や災害問題について理解を深める。 2. 現代の災害現象・災害問題がどのような社会的背景と結びついているかを考察し説明することができる。 3. 現代日本における災害問題や防災対策等に関心をもち、それらに関する資料や文献を調べることができる。 4. 社会学の視点から、現代の災害の特質や災害対応に関する諸問題を説明することができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
平常点（出席+受講態度）、レポート、定期試験により総合的に評価する。 出席は毎回とることとする。また欠席3回以上の者は、その後の受講資格を失うものとする。

教 科 書
使用しない。講義資料を配付する。

参 考 図 書
講義中に提示する。時間に余裕があれば、映像資料も活用したい。

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業中。あるいはE-mailにて連絡すること。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
社会学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
横田尚俊				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	社会学から災害をどうとらえるか	授業ガイダンス 社会学の特徴、および社会学からみた災害のとらえ方を理解する。	横田尚俊
2	都市災害の特質	都市災害における被害とその特質について理解する。	横田尚俊
3	災害と避難行動	災害時における避難行動の特質を理解する。	横田尚俊
4	大規模災害における避難行動	大規模災害における避難行動の実態と、避難行動の促進要因・阻害要因について理解する。	横田尚俊
5	災害とコミュニティ	コミュニティの概念と災害時におけるコミュニティの機能について理解する。	横田尚俊
6	災害と社会的支援	災害時および災害後におけるボランティア、NPOの被災者・被災地支援活動と、さまざまな主体による連携・協働型支援の意義について理解する。	横田尚俊
7	災害支援ネットワークの形成と展開	連携・協働型支援の発展型として、市民活動団体（ボランティア団体、NPO等）を中心とした災害支援ネットワークのしくみと機能について理解する。	横田尚俊
8	まとめと試験	授業内容全体の理解度を問う試験を実施する。	横田尚俊

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
倫理学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
国越 道貴				講義		

授 業 概 要
作業療法職において倫理的問題について適切な判断ができるための基本となる知識を学び、合わせて、人が生きることのなかでの価値観について考える。

到 達 目 標
倫理的問題を含む医療上の事柄について、一般に採用されているあるいは専門家に支持されている対処方法、およびその対処方法が取られる理由を説明することができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の講義を復習し、要点の確認をする

対応D P
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ○ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
学期末試験の点数に積極的な質問など平常の態度を加えて評価する。

教 科 書
使用しない。

参 考 図 書
玉井 真理子・大谷 いづみ編著『はじめて出会う生命倫理』有斐閣，2011.

留 意 事 項
とくになし。

オフィスアワー等
moodle のメッセージにより質問などの連絡をする。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
倫理学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
国越 道貴				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	インフォームド・コンセント	医療のなかで新しく確立された最も重要な価値である「自己決定権の尊重」について学ぶ。	国越道貴
2	人生の最終段階	今日「人生の最終段階の医療」といわれる領域について、その先駆者キューブラ・ロスからその意味を学ぶ。	国越道貴
3	安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死が日本の現行法で容認されるための条件を確認し、特に本人の意思尊重の扱い方を学ぶ。	国越道貴
4	臓器移植と脳死	臓器移植にかかわるなかで、人の死が脳死判定によって決められることの意味を学ぶ。	国越道貴
5	出生前診断と人工妊娠中絶	人工妊娠中絶のうち、出生前診断による「選択的」と呼ばれる中絶について学ぶ。	国越道貴
6	生殖補助医療	容認されうる範囲、そして実施されて初めて明らかになった諸問題を学ぶ。	国越道貴
7	障害者施策/ 医療資源の配分	近年大きく変更された障害者施策について、また、希少な医療資源を公正に配分する仕方について学ぶ	国越道貴
8	職業倫理 まとめ	医療者の職業倫理として守秘義務について学ぶ。 これまでの講義の要点を確認する。	国越道貴

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
国際関係論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 健至				講義		

授 業 概 要
グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は1国のみの問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、国際関係論の理論的背景、歴史的経緯を理解し、紛争問題や貧困と格差など具体的な国際問題を検討することを通して、世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。

到 達 目 標
1. 国際社会の仕組みや国際機関の役割を説明できる 2. 世界が抱える紛争問題について説明できる 3. 世界が抱える貧困と格差について説明できる 4. 国際的な人の移動について説明できる 5. 世界の抱える問題と日本が抱える問題の相互関連について説明できる 6. 問題解決の取組みにおける日本の役割について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の講義の該当テーマに沿って復習・まとめをする

対応D P

評 価
期末レポート（80％）、出席などの平常点（20％）

教 科 書
毎回レジュメを配布します。

参 考 図 書
1. 佐渡友哲他編著『国際関係論 第3版』弘文堂 2. 藤原帰一他編著『平和構築・入門』有斐閣 3. 福田保編『アジアの国際関係』春風社 4. 坂本治也編『市民社会論』法律文化社

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
国際関係論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 健至				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	国際関係論概要	授業ガイダンス 国際関係論とは、国際社会の成立、国際社会を形成するアクター	山根健至
2	国際機関とその役割	国際連合の組織と役割、その他の国際機関	山根健至
3	世界が抱える紛争問題	紛争多発地の状況・テロ（事件）の事例を通して	山根健至
4	世界が抱える貧困と格差	各国が抱える貧困と格差、日本の抱える貧困	山根健至
5	国際的な人の移動	国際労働力移動、移民、難民、日本の外国人労働者	山根健至
6	アジアの地域情勢	中国の台頭、米中の対立とアジア	山根健至
7	平和構築と日本の役割	紛争と平和構築、PKOの仕組みと活動状況、日本の取り組み	山根健至
8	国際協力とODA	ODAの仕組みと日本の国際協力、授業のまとめ	山根健至

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
文化人類学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
王 貞月				講義		

授 業 概 要
「国際化」や「グローバル化」が進む中、自文化と異文化の理解は私たちにとって必須なものとなっている。世界各国との交流が活発な現在、医療に関わる人材には、文化による考え方や価値、生活習慣の違いなど理解し対応する必要がある、特にその能力が必要とされている。文化人類学はそのための有力なツールである。本科目では、「文化とは何か」「人間とは何か」を、多様で具体的事象や理論を紹介しながら考えていく。それにより文化理解に必要な総合的な知識を学修し、今日の世界を洞察する力を身につける。

到 達 目 標
1. 文化の多様性を理解することで、他者理解の姿勢を持つことができる 2. 家族の捉え方の視点を説明できる 3. 病気や死の捉え方の普遍性と多様性を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☒ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐
☐
☐
☐

評 価
授業中に行う小テスト5割、期末テスト5割で評価する。

教 科 書
波平恵美子編：文化人類学〔カレッジ版〕第4版 （医学書院）

参 考 図 書

留 意 事 項
小テストと期末テストはMoodleのテスト機能で行い、その方法は初回で説明する。

オフィスアワー等
授業の後質問を受け付ける。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
文化人類学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
王 貞月				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	文化と文化人類学	ガイダンス、第1章人間と文化・小テスト説明・練習	王 貞月
2	文化人類学と質的研究	第2章質的研究とエスノグラフィー・小テスト説明・練習	王 貞月
3	家族と親族	第3章個人・家族・家族をこえたつながり・小テスト	王 貞月
4	人生と通過儀礼	第4章人生と通過儀礼・小テスト	王 貞月
5	宗教と病	第5章宗教と世界観・小テスト	王 貞月
6	健康と医療人類学	第6章健康と医療・小テスト	王 貞月
7	いのちと生きる	第7章いのちと文化・小テスト	王 貞月
8	まとめ、期末テスト	まとめ、期末テスト	王 貞月

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
統計学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山下貴範 奥井佑				演習		

授 業 概 要
本科目は基礎的な話が中心となる。統計学は、1つ1つの基礎を積み上げながら自分の中でイメージを描き、理解をしていくことが大事である。特に、扱うデータの種類や性質などが分かっていると、そこから先の統計学の理解が難しくなる。そのため、最初に医療データの種類や医療データ解析事例を説明する。そして前半は基礎となる特徴記述統計の理解を中心に解説する。後半の推測統計では標本の扱い、推定、検定の手法についての理解を中心に解説する。統計学は各分野での学修の基礎となる、今後の研究的思考に活かせるように学修する。

到 達 目 標
1. 因療データの種類、性質を理解できる 2. データを収集するための計画・立案ができる 3. データの種類を把握し、基本統計量を求めることができる 4. 統計検定の流れを把握し、正しく検定の判断ができる 5. 統計解析デザインの重要性を理解できる 6. 目的に沿った検定手法を用いることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐
☐
☐
☐
☐

評 価
出席+試験結果

教 科 書
講師資料、基礎医学統計学改訂第7版

参 考 図 書

留 意 事 項
1～5コマ目はExcel実習を行う。タブレットを持参すること。

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
統計学		2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
山下貴範 奥井佑					演習		
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	概論 医療データの現状	医療データの種類、特徴			山下貴範		
2	医療データ解析の目的	解析の目的（医療データ解析事例を元に）			山下貴範		
3	医療データ解析の目的	統計分析の目的、基本的な用語、研究種類、解析方法の概要			山下貴範		
4	記述統計1 1変量データの記述（代表値、散布度）	代表値（最頻値・中央値・平均値）、散布度（範囲・分位点、パーセンタイル、分散、標準偏差）			山下貴範		
5	記述統計2 2変量データの記述	クロス表、散布図			山下貴範		
6	記述統計3 2変量データの記述	2変量データの関連指標（カイ二乗値、クラメール関連指数、相関係数）			奥井 佑		
7	推測統計 1 確率・確率分布	確率、確率分布（離散型、連続型）			奥井 佑		
8	記述統計のまとめ	記述統計および確率について、演習問題			奥井 佑		
9	推測統計 2 推定	母集団と標本、推定（点推定、区間推定）			奥井 佑		
10	推測統計 3 検定	検定（帰無仮説、対立仮説）、独立性の検定、ノンパラメトリック検定			奥井 佑		
11	推測統計のまとめ	推測統計1－3について、演習問題			奥井 佑		
12	推測統計4 解析手法	単変量解析～多変量解析			奥井 佑		
13	統計デザイン	統計解析におけるデザインの重要性			奥井 佑		
14	統計と機械学習	いままでの授業のまとめ、演習問題			奥井 佑		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
統計学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山下貴範 奥井佑				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	統計と機械学習	機械学習手法の説明と統計手法の違い	奥井 佑

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
英語Ⅱ（医療文献読解）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
				演習		

授 業 概 要
“Medical English 2” is the first in a series of two courses intended for 1st year students in the Faculty of Health Sciences as part of their integrated English curriculum. Through the medium of English, students will integrate vocabulary building and recycling, reading & notetaking, controlled grammar practice, and short writing tasks via healthcare scenarios in a Japan-specific context.

到 達 目 標
・Understand longer (relative to spring semester), level-appropriate reading texts about healthcare scenarios and be able to understand the gist of each as well as important details. ・Achieve mastery of the medical vocabulary encountered in Medical English 1 and relative control of newly-introduced terms. ・Achieve complete mastery of basic- and intermediate-level English grammatical forms and constructions encountered in Medical English 1. ・Write grammatically correct paragraphs that synthesize concepts, grammar, and vocabulary in end-of-unit short writing assignments.

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
pre-study : Prepare for class by reviewing the relevant sections of the textbook beforehand. post-class study : Use textbooks, lecture materials, and reference materials to organize what you have learned and deepen your understanding.

対応DP
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。

評 価
Quizzes & tests 67% Attendance 15% Homework 18%

教 科 書
Vital Signs 2: Reading & Writing by Vivian Morooka & Terri Sugiura (Nan’ un-do) (ISBN978-4-523-17755-5)

参 考 図 書
Additional materials may be made available online.

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
英語Ⅱ（医療文献読解）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	Introduction / Unit 2		Aleles Jonathan
2	Unit 3		Aleles Jonathan
3	Unit 4		Aleles Jonathan
4	Review		Aleles Jonathan
5	Test 1		Aleles Jonathan
6	Unit 5		Aleles Jonathan
7	Unit 6		Aleles Jonathan
8	Unit 7		Aleles Jonathan
9	Review		Aleles Jonathan
10	Test 2		Aleles Jonathan
11	Unit 9		Aleles Jonathan
12	Unit 11		Aleles Jonathan
13	Unit 12		Aleles Jonathan
14	Review		Aleles Jonathan

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
英語Ⅱ（医療文献読解）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	Test 3		Aleles Jonathan

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学Ⅱ（呼吸器系、循環器系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
王 克鏞				講義		

授 業 概 要
人体を構成する器官・系統のうち、植物性機能に関係の深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な構造について学ぶ。また、理学療法と関わりの深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、解剖学とリハビリテーションの関連について理解する。

到 達 目 標
1. 循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系に属する各器管の名称や解剖学的区分、特徴を説明することができる 2. 理学療法を行うにあたり解剖学を学ぶ意義について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当箇所を読んでおく 事後学修：授業内容を復習し、整理する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験（100％）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学Ⅱ（呼吸器系、循環器系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
王 克鏞				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	内臓器官の基本構造	王 克鏞
2	循環器系	心臓の構造、循環系の分類、動脈系と静脈系、胎生期の循環系①	王 克鏞
3	循環器系	心臓の構造、循環系の分類、動脈系と静脈系、胎生期の循環系②	王 克鏞
4	循環器系	リンパ系の構造（毛細リンパ管、リンパ管、リンパ節、リンパ本幹、リンパ性器管）	王 克鏞
5	呼吸器系	外鼻・鼻腔・副鼻腔の構造、咽頭と喉頭の構造	王 克鏞
6	呼吸器系	気管と気管枝の構造、肺の構造、胸膜と縦隔の構造①	王 克鏞
7	呼吸器系	気管と気管枝の構造、肺の構造、胸膜と縦隔の構造②	王 克鏞
8	消化器系	口腔・咽頭・食道の構造	王 克鏞
9	消化器系	胃・小腸・大腸の構造	王 克鏞
10	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜の構造	王 克鏞
11	泌尿生殖器	泌尿器系（腎臓・尿管・膀胱・尿道）の構造	王 克鏞
12	泌尿生殖器	生殖器（男性生殖器・女性生殖器）の構造	王 克鏞
13	内分泌系	ホルモン、下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体の構造	王 克鏞
14	内分泌系	副腎・膵島・視床下部の構造	王 克鏞

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
解剖学Ⅱ（呼吸器系、循環器系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
王 克鏞				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	内分泌系	心臓・胸腺の構造	王 克鏞

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学Ⅱ（植物性機能）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中川 和憲				講義		

授 業 概 要
人体を構成する器官・組織のうち、植物性機能に関係が深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学療法と関わりが深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。

到 達 目 標
1. 循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系に属する各器管の名称について説明することができる 2. 循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系に属する各器管の生理機能について説明することができる 3. 理学療法を行うにあたり生理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通し、理解を深めておくと同時に、難解な箇所を明確にして講義にのぞむこと。 事後学修：教科書と配布資料による復習を行ない、関連分野の過去問を解くなどして、自己の知識の再確認を行うこと。

対応DP
○ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験（100%） 最終試験で60%以上の得点を単位取得の必須要件とする。 評価が「D（不可）」であった場合は、1度に限り再試験を実施する。

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項
学習の理解度は、次回授業にて指名して確認する場合もある。スライドや資料で示すポイント項目、キーワード等は、自己の言葉で論述できるようまとめておくこと。テーマ関連の国試を演習としてMoodleに設定するので、積極的に利用して下さい。

オフィスアワー等
オフィスアワー：講義前後および昼休み。時間を取る場合、事前連絡が望ましい。 連絡先メール：Moodleメッセージ機能にて連絡可能です。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学Ⅱ（植物性機能）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中川 和憲				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	血液 1	血液の組成と機能、赤血球、白血球、生体防御機構	中川 和憲
2	血液 2	血小板、凝固系、血漿、血液型	中川 和憲
3	心臓と循環 1	血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図、血液の拍出と血圧、心周期	中川 和憲
4	心臓と循環 2	心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換、静脈還流、臓器循環、リンパ循環	中川 和憲
5	呼吸とガスの運搬 1	外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動、呼吸気量	中川 和憲
6	呼吸とガスの運搬 2	ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節、病的呼吸	中川 和憲
7	消化と吸収 1	口腔内消化、食物輸送、胃・十二指腸の機能	中川 和憲
8	消化と吸収 2	空腸・回腸・大腸・肝臓の機能	中川 和憲
9	尿の生成と排泄 1	腎臓の機能、尿の生成、クリアランス、糸球体濾過量	中川 和憲
10	尿の生成と排泄 2・酸塩基平衡	腎血漿流量、排尿の機能、血漿の酸塩基平衡、水の出納、脱水	中川 和憲
11	内分泌 1	内分泌機能とホルモン	中川 和憲
12	内分泌 2	ホルモンの作用	中川 和憲
13	生殖と発生・成長と老化 1	男性生殖機能・女性生殖機能、受精・着床・胎児の発生①	中川 和憲
14	生殖と発生・成長と老化 2	男性生殖機能・女性生殖機能、受精・着床・胎児の発生②	中川 和憲

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学Ⅱ（植物性機能）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中川 和憲				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	代謝と体温	エネルギー代謝と体温	中川 和憲

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、川原田 淳、太田 研吾				実習	実習	

授 業 概 要
生体機能とその発現メカニズムについて学ぶことを目的に、各種機器を用いた実習を行う。また、実習により得られた結果（客観的データ）を正しく記録するとともに、グループディスカッションを通して考察を深め、その内容を発表する。

到 達 目 標
1. 生体に生じる現象を各種機器により定量することができる 2. 定量された結果を記録するとともに、そのメカニズムについて考察することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：事前に示された課題について個人学修しておくこと 事後学修：実習およびグループ学修で学んだことをまとめ、記録する

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐
☐
☐
☐
☐

評 価
レポート課題（100%）。配点については、各課題時に説明を行う。

教 科 書
1. 配布資料

参 考 図 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版（医学書院） 2. 生理学Ⅰ・Ⅱで使用した配布資料

留 意 事 項

オフィスアワー等
研究室にて行う。各教員に対して、メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
工学機器を用いた研究や、作業療法の効果を生理学的に検証する研究に携わる教員が、実習を通して、使用する機器の説明や操作方法、さらに機器を用いた効果検証の必要性について指導を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、川原田 淳、太田 研吾				実習	実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション	各種機器を用いた実習の目的	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
2	オリエンテーション	各種機器を用いた実習の方法	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
3	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作①	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
4	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作②	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
5	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作③	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
6	実習レポートの作成	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の測定結果を記録としてまとめ、結果の考察（グループディスカッション）	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
7	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作①	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
8	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作②	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
9	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作③	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
10	実習レポートの作成	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の測定結果を記録としてまとめ、結果の考察（グループディスカッション）	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
11	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作①	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
12	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作②	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
13	各種機器を用いた計測	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作③	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
14	実習レポートの作成	神経筋機能（筋電図、脳波）、循環機能（心電図）の測定結果を記録としてまとめ、結果の考察（グループディスカッション）	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生理学実習	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、川原田 淳、太田 研吾				実習	実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	各種機器を用いた計測	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作①	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
16	各種機器を用いた計測	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作②	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
17	実習レポートの作成	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の測定結果を記録としてまとめ、結果の考察（グループディスカッション）	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
18	各種機器を用いた計測	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作①	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
19	各種機器を用いた計測	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作②	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
20	実習レポートの作成	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の測定結果を記録としてまとめ、結果の考察（グループディスカッション）	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
21	各種機器を用いた計測	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作①	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
22	各種機器を用いた計測	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の基礎知識の説明、各種機器の使用方法和測定操作②	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾
23	実習レポートの作成	感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚）、呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率）、循環機能（脈拍、血圧）の測定結果を記録としてまとめ、結果の考察（グループディスカッション）	川原田淳 江口喜久雄 太田研吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
病理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鬼丸 満穂				講義		

授 業 概 要
疾病の原因や生体への影響について理解を深めるために、病因や細胞の傷害に伴う生体反応（炎症・免疫・循環障害等）の基礎を学ぶとともに、遺伝・感染・環境・栄養・腫瘍・生活習慣などに起因する生体反応について学ぶ。また、代表的な疾病の進行と病理形態学的な変化に関する知識を通して、疾病の原因とその成り立ちについて理解を深める。

到 達 目 標
1. 病因の分類と老化に伴う形態的变化について説明することができる 2. 細胞・組織の形態と機能および炎症の概要について説明することができる 3. 各臓器の代表的な疾病と、その病理形態学の概要について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し理解を深めておくと同時に、難解な箇所を明確にして授業に臨むこと 事後学修：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深く関連分野の過去問を解くなどして、自己の知識の再確認に努めること

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験（100%） 最終試験で60%以上の得点を単位取得の必須要件とする。 評価が「D（不可）」であった場合は、1度に限り再試験を実施する。

教 科 書
1. はじめの一步の病理学 第2版（羊土社） 2. 配布資料

参 考 図 書
医学書院 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①

留 意 事 項
学習の理解度は、次回授業にて指名して確認する場合もあるので、スライドや資料で<ポイント>とした項目、キーワードについては、自己の言葉で論述できるようまとめておくこと。

オフィスアワー等
オフィスアワー：講義日昼休み。これ以外の時間帯を希望する場合は、メールにて事前連絡の上訪ねること。 連絡先メール：配布資料に記載

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
病理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鬼丸 満穂				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	病理学とは 細胞障害と再生 1	病気の発生病気の内因と外因 適応と傷害、変性と細胞死、酸化ストレス、生体内色素、鉄代謝と赤血球、 萎縮・肥大・化性、細胞・組織の形成 教科書14ページ～40ページ	鬼丸 満穂
2	細胞傷害と再生2	適応と傷害、変性と細胞死、酸化ストレス、生体内色素、鉄代謝と赤血球、 萎縮・肥大・化性、細胞・組織の形成 教科書25ページ～40ページ	鬼丸 満穂
3	循環障害1	浮腫、充血・うっ血、出血、血栓・血栓症、塞栓・梗塞、ショック 教科書83ページ～97ページ	鬼丸 満穂
4	循環障害2	浮腫、充血・うっ血、出血、血栓・血栓症、塞栓・梗塞、ショック 教科書83ページ～97ページ 炎症の概念・原因・反応、炎症の分類、炎症の形態像	鬼丸 満穂
5	炎症1	炎症の概念・原因・反応、炎症の分類、炎症の形態像 教科書41ページ～59ページ	鬼丸 満穂
6	炎症2	炎症の概念・原因・反応、炎症の分類、炎症の形態像 教科書41ページ～59ページ	鬼丸 満穂
7	免疫1	免疫系の概要、アレルギー、自己免疫疾患、移植免疫、免疫不全 教科書60ページ～82ページ メンデルの法則、先天異常	鬼丸 満穂
8	免疫2	免疫系の概要、アレルギー、自己免疫疾患、移植免疫、免疫不全 教科書60ページ～82ページ	鬼丸 満穂
9	感染症1	感染症の概要、感染症の病原体・治療・予防 教科書111ページ～131ページ	鬼丸 満穂
10	感染症2	感染症の概要、感染症の病原体・治療・予防 教科書111ページ～131ページ	鬼丸 満穂
11	環境因子・栄養	化学因子・物理的因子・生物学的因子による疾病、栄養欠乏・過多による疾病 教科書132ページ～144ページ	鬼丸 満穂
12	腫瘍1	腫瘍の名称・形態的特徴・分類・種類、腫瘍の増殖 教科書145ページ～166ページ	鬼丸 満穂
13	腫瘍2	腫瘍に起因する病態、悪性度と病期、腫瘍の原因と発生メカニズム、腫瘍と 臨床病理学 教科書145ページ～166ページ	鬼丸 満穂
14	先天異常・遺伝性疾患	メンデルの法則・先天異常の種類 教科書98ページ～110ページ	鬼丸 満穂

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
病理学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
鬼丸 満穂				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	代表的疾患の病態	代表的な臓器疾患の病態概要	鬼丸 満穂

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学Ⅰ（総論、上肢）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習		

授 業 概 要
作業療法で接することの多い運動機能障害の問題を解決するために、人の随意運動のメカニズムについて学修する。 上肢、下肢、頭・頸部、体幹における各関節の構造と機能を解説した後、運動の力源である各筋の作用、さらに筋収縮時における腱、靱帯との関連性を疾患・障害を交えながら学修する。また、正常歩行と異常歩行、方向舵としての肩、伸縮装置としての肘、効果器としての手について作業療法の視点から学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標
1. 身体の構造（骨・関節・靱帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係が理解できる 2. 上肢の骨・関節・靱帯・筋の構造と実際の運動との関わりが理解できる 3. 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いが理解できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：単元に該当する教科書を読み、わからない単語を調べる 事後学修：配布資料の確認、専門用語の調べ学修をする

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ☐ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。 ☐ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。

評 価
筆記試験（70％）・小テスト（20％）・授業態度など（10％）を総合して評価する

教 科 書
筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版 嶋田智明 編集 医歯薬出版株式会社

参 考 図 書
基礎運動学・身体運動学 関節の制御機構と筋機能 市橋則明 編集 Medical view社

留 意 事 項

オフィスアワー等
木曜日16時～18時（2808研究室）

実 務 経 験
本授業科目は整形外科など豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学Ⅰ（総論、上肢）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論：運動学の基礎知識①	身体運動の基礎； 運動学とは、並進と回転、力の合成と分解、関節モーメントなど	近藤 昭彦
2	運動学の基礎知識②	関節構造と機能； 関節の基本構造、関節の分類、関節運動、靱帯の構造と機能など	近藤 昭彦
3	運動学の基礎知識③	筋の構造と機能； 骨格筋の基本構造、骨格筋の収縮の仕組み、骨格筋の種類、関節トルクなど	近藤 昭彦
4	各論：肩関節の運動学①	肩関節の骨構造・関節構造	近藤 昭彦
5	肩関節の運動学②	肩関節の受動的制御；関節構造・関節包・靱帯による運動制御と肩関節能動的制御；肩甲帯の筋	近藤 昭彦
6	肩関節の運動学③	肩関節の能動的制御；肩甲上腕関節の筋による運動制御、肩関節周囲筋の筋断面積など	近藤 昭彦
7	肩関節の運動学④	肩関節の機能障害と運動学	近藤 昭彦
8	各論：肘関節の運動学①	肘関節の骨構造、肘関節の関節構造、肘関節の受動的制御（関節構造・関節包・靱帯による運動制御）	近藤 昭彦
9	肘関節の運動学②	肘関節の能動的制御と肘関節の機能障害と運動学	近藤 昭彦
10	各論：手関節の運動学①	手関節の骨構造、関節構造、受動的制御（関節構造・関節包・靱帯による運動制御）	近藤 昭彦
11	手関節の運動学②	手関節の能動的制御、手関節の機能障害と運動学	近藤 昭彦
12	各論：指関節の運動学①	指関節の骨構造、関節構造、受動的制御（関節構造・関節包・靱帯による運動制御）	近藤 昭彦
13	指関節の運動学②	指関節の能動的制御、指関節の機能障害と運動学	近藤 昭彦
14	各論：脊柱の運動学①	脊柱・胸郭の骨構造、関節構造	近藤 昭彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動学Ⅰ（総論、上肢）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	脊柱の運動学②	脊柱の能動的制御と脊柱の機能障害と運動学	近藤 昭彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション医学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
稲川利光				演習	実習	

授 業 概 要
リハビリテーション医学・医療は多くの診療科に関係する疾患と障害を対象とするため、近年の高齢化に伴う疾病構造の変化（複合疾患等）を理解するとともに、代表的な疾患や障害（脳血管障害・頭部外傷・運動器疾患・脊髄損傷・神経筋疾患・切断・小児疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・腎疾患・内分泌代謝性疾患・摂食嚥下障害・がん・その他）に対するリハビリテーション医療の概要について学ぶ。

到 達 目 標
1. リハビリテーション医学・医療の意義について理解する 2. 代表的な疾患に対するリハビリテーション医療の流れについて概説することができる 3. 障害や病期（急性期・回復期・維持期）に応じたリハビリテーションの重要性について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応DP
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ○ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。

評 価
定期試験（100%）

教 科 書
1. リハビリテーションビジュアルブック（学研メディカル秀潤社） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問等は、授業時に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション医学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
稲川利光				演習	実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論：リハビリテーションの理解	リハビリテーション医学・医療の概念、意義、現状、歴史、ICFに基づく考え方 活動・参加（復職・就労支援・障がい者スポーツ）	稲川利光
2	診断と治療	各種検査（X線・エコー・CT・MRI・心電図など）と診断 リハビリテーション治療の概要（解剖・整理・運動・精神）	稲川利光
3	脳血管障害・頭部外傷	脳卒中総論（脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血）、脳卒中へのアプローチ（急性期・回復期・生活期） 脳神経系の解剖と生理、高次脳機能障害など、水頭症	稲川利光
4	神経筋疾患	ALS、SCD、多発性硬化症、ギランバレー症候群、パーキンソン病、パーキンソニズム、などの病態・障害・リハビリの実際	稲川利光
5	運動器疾患	上肢・下肢・脊柱の疾患と外傷（骨折・靱帯損傷・腱生障害・鍵盤断裂・半月板損傷・アキレス腱断裂・変形性関節症・椎間板ヘルニア・腰椎分離症と滑り症・関節リウマチ・末梢神経損傷・肩関節周囲炎脊柱管狭窄症）外傷性脊髄損傷、馬尾損傷	稲川利光
6	脊髄損傷	疾患概要・障害像・アプローチの概要（急性期・回復期） リスク管理・復職・就労・社会参加	稲川利光
7	切断・小児疾患	上肢切断・下肢切断 脳性麻痺・筋ジストロフィー、二分脊椎、発達障害	稲川利光
8	呼吸器疾患・循環器疾患	呼吸器の解剖と生理、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎 循環器の解剖と生理、虚血性心疾患、心不全、下肢閉塞性動脈疾患 開心術後（大動脈解離・心臓弁膜症）	稲川利光
9	内分泌代謝性疾患 腎疾患	糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム 腎臓の解剖と生理、腎不全	稲川利光
10	摂食嚥下障害 排泄管理	摂食嚥下の解剖と生理、嚥下障害の評価 摂食嚥下障害に対するリハビリテーション診療ジショニング 排泄管理（ポジショニング・環境改善）	稲川利光
11	がん 廃用症候群	がんに対するリハビリテーション医療の意義と実際（各種のがんの特徴リスク管理 廃用症候群の特徴と障害像・フレイル・サルコペニア・NST活動	稲川利光
12	スポーツ障害・外傷	スポーツ障害・外傷に対するリハビリテーション医療の意義と実際 障害予防	稲川利光
13	骨粗鬆症・栄養・その他	骨粗鬆症に対するリハビリテーション医療の意義と実際 疾病予防・運動・栄養管理、転倒予防、その他	稲川利光
14	在宅支援・社会貢献 社会参加・復職就労支援	在宅復帰・環境設定（家屋評価・家屋改造） 障害者スポーツ、大規模災害リハビリテーション支援	稲川利光

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
リハビリテーション医学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
稲川利光				演習	実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	リハビリテーションの展開 (先進医療とリハビリ)	ロボット、再生医療、BMI、電気刺激療法、痙縮治療、障害者の自動車運転	稲川利光

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
栄養学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中村 強				講義	講義	

授 業 概 要
人間は食物として取り込んだ栄養素を体内で消化吸収し、それらを化学変化させ体が必要とするものを合成し、エネルギーや生体構成成分として利用したのち、不要となったものを体外に排泄して『バランスを維持』している。この『バランスが崩れる』と健康状態に障害が発生し、日常生活にも支障をきたす。これら人間に不可欠な栄養素と栄養素の吸収などを学ぶことにより、看護を実践する際に対象の健康保持に貢献できるように基礎的知識を学修する。 また、リハビリテーション医療における栄養の重要性について理解する。

到 達 目 標
1．栄養素と栄養価について説明できる。 2．食物の消化と吸収について説明できる。 3．日本人の食事摂取基準を説明できる。 4．栄養と疾患との関連を説明できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
定期試験、小テスト、出席などを総合的に加味する。

教 科 書
人体の構造と機能[3] 栄養学 第14版 (株)医学書院 ISBN978-4-260-03861-4

参 考 図 書
女子栄養大学栄養クリニックが教える イラストでゆる〜くわかる栄養の本（宝島社）ISBN：978-4-299-06339-7 一生役立つ きちんとわかる栄養学（西東社）ISBN：978-4-7916-2622-9 https://www.tyojyu.or.jp/net/kenkou-tyoju/tyojyu-shakai/sekaiichi.html

留 意 事 項
小テストは前回の授業内容を試験範囲とする。

オフィスアワー等
質問等は、授業時、授業前後に行うこと。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
栄養学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
中村 強				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	栄養とは. . .	ガイドンス（シラバス） 栄養と生化学 消化と吸収、同化・異化作用	中村 強
2	栄養素とは. . .	栄養の概念 生体内における代表的な化学反応 代謝マップ（エネルギー産生）	中村 強
3	糖質とは. . .	炭水化物と糖質（でんぷん） グルコース食物繊維	中村 強
4	たんぱく質とは. . .	たんぱく質、必須アミノ酸、非必須アミノ酸 食品とたんぱく質の栄養価	中村 強
5	脂質とは. . .	脂質（油脂） 必須脂肪酸、非必須脂肪酸 多価不飽和脂肪酸、飽和脂肪酸	中村 強
6	ビタミン、無機質とは. . .	ビタミンの種類と機能 無機質の種類と機能	中村 強
7	高齢者栄養	低栄養と疾患 低栄養の原因と影響	中村 強
8	栄養療法 まとめ	経管栄養の注入液	中村 強

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
薬理学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
小林英幸				講義		

授 業 概 要
人体の構造と機能の講義と関連させながら、薬物がどのように人体に作用し吸収されるのか学ぶ。さらに具体的な個々の薬物について、その使用目的、作用、副作用、禁忌について学ぶ。

到 達 目 標
1. 人体(各器官)のしくみとそれに関連する薬物の種類について説明できる。 2. 薬の作用機序・薬理作用・有害作用についての知識を活用することができる。 3. リハビリテーション業務に必要な薬の作用・副作用等の知識について説明できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：講義内容に関連する項目を予習して授業に臨む。 事後学修：講義資料を参照して復習・まとめをする。

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☒ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
筆記試験、授業態度及び出席状況等により総合的に判定する。100点中60点以上が合格

教 科 書
内山靖他【編】リハベーシック薬理学・臨床薬理学 第2版 医歯薬出版 2024

参 考 図 書
吉岡充弘他【著】系統看護学講座 専門基礎分野 『疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』 第15版 医学書院2023

留 意 事 項

オフィスアワー等
質問は随時受け付けます。口頭、メール等で質問して下さい。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
薬理学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
小林英幸				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	薬理学総論 1	薬理学を学ぶにあたって、薬が作用するしくみ	小林 英幸
2	薬理学総論 2	薬の体内挙動、薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と危険性	小林 英幸
3	感染・炎症	感染と炎症の病態、抗炎症薬	小林 英幸
4	神経疾患	神経疾患の発生機序と薬物療法	小林 英幸
5	精神疾患	精神疾患の発生機序と薬物療法	小林 英幸
6	循環器系疾患	循環器系疾患の発生機序と薬物療法	小林 英幸
7	疼痛の制御と薬物療法	疼痛の発生機序と鎮痛薬	小林 英幸
8	頻用される薬物	代謝性疾患治療薬、血液凝固抑制薬、睡眠薬	小林 英幸

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白石 裕子、森本 誠司、江口 喜久雄、坂口 聡子				演習		

授 業 概 要
保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。

到 達 目 標
1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる 2. 専門職連携に求められるコンピテンシーについて説明できる 3. 各医療専門職の種類と機能について説明できる 4. グループワークを通して、専門職連携に必要なコミュニケーションについて説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応DP
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☒ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。

評 価
課題レポート、事前事後課題

教 科 書
講師資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
教室：1～13回、及び15回は2101（メインホール）、14回（GW）は未定

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白石 裕子、森本 誠司、江口 喜久雄、坂口 聡子				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	専門職連携に求められる心構え	・オリエンテーション ・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？	全員
2	IPEの基礎	・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 ・IPE展開のための基礎知識	全員
3	国際疾病分類の理念	・専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識 1 ・国際疾病分類（WHO ICF）の理念	全員
4	チーム医療と チームビルディング	・チーム医療のあり方 ・チームビルディングの理論と実際 ・チームビルディングに求められるコミュニケーションスキル	全員
5	専門職連携に求められる コンピテンシー	・なぜ専門職連携が必要なのか ・専門職連携教育の重要性 ・専門職連携の定義 ・専門職連携の利点 他	全員
6	リーダーシップ、 メンバーシップ	リーダーシップ、メンバーシップ（講義）	全員
7	医療専門職の機能と連携 ①	（事前学習：医療専門職の種類、教育制度、機能・役割について調べる） 看護師・助産師・保健師の体験（教育制度、機能・役割 事例など）（講義）	全員
8	医療専門職の機能と連携 ②理学療法士	（事前学習：医療専門職の種類、教育制度、機能・役割について調べる） 理学療法士、作業療法士の体験（教育制度、機能・役割 事例など）（講義）	全員
9	医療専門職の機能と連携 ③作業療法士	（事前学習：医療専門職の種類、教育制度、機能・役割について調べる） 理学療法士、作業療法士の体験（教育制度、機能・役割 事例など）（講義）	全員
10	医療専門職の機能と連携 ③福岡和白病院 言語聴覚士	（事前学習：医療専門職の種類、教育制度、機能・役割について調べる） 言語聴覚士の体験（教育制度、機能・役割、事例等）（講義）	全員 ST
11	医療専門職の機能と連携 ④福岡和白病院 薬局長薬剤師	（事前学習：薬剤師の種類、教育制度、機能・役割について調べる） 薬剤師の体験（教育制度、機能・役割、事例等）（講義）	全員 薬剤師
12	医療専門職の機能と連携 ⑤福岡和白病院 管理栄養士	（事前学習：栄養士の種類、教育制度、機能・役割について調べる） 管理栄養士の体験（教育制度、機能・役割、事例等）（講義）	全員 管理栄養士
13	医療専門職と福祉専門職の 連携 福岡和白病院入退院支援室 ソーシャルワーカー	（事前学習：ソーシャルワーカーの教育制度、機能・役割について調べる） ・医療と福祉の専門職に関する知識（種類、法・制度） ・医療と福祉の接点（連携）（講義）	全員 ソーシャルワーカー
14	グループのまとめ	専門職について調べたことや体験談をきいて、実際との違い、新たに発見したことについてグループでまとめ、次週の発表の準備をする（GW）	全員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白石 裕子、森本 誠司、江口 喜久雄、坂口 聡子				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	グループ発表 総括	グループのまとめを発表する（GW） 発表：5分/1G×15G(75分) 総括：15分	全員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業科学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				講義	講義	

授 業 概 要
作業療法の基盤となる「作業」について研究する学問として作業科学が登場した。「人は作業をすることで健康になれる」は作業療法の信念である。「作業」の魅力や「作業ができるようになること」の意義を理解するために必要な知識を学修する。学修者自らの作業の歴史を振り返り、作業が人間の発達や環境に与える影響について学修し、さらに「作業」についてより深く学修するために、作業の広がりや深さや主観的意味、作業による成長と回復、作業に関する社会的課題について学修する。本授業科目は作業科学に知見をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標
1. 作業の概念について説明できる 2. 自身の作業の特性について説明できる 3. doing、being、becoming、belongingについて説明できる 4. 作業的不公正について説明できる 5. 他者のストーリーの中から、作業を見出し、分析することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：配布資料や、該当する教科書のページを30分程度熟読すること 事後学修：講義内容を踏まえて、教科書を30分程度読みなおし、理解を深めること

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
レポート課題（20％）、授業内課題（50％）、発表（30％）

教 科 書
吉川ひろみ 「作業」って何だろう 第2版 医歯薬出版 2017

参 考 図 書
佐藤剛・監訳 作業科学 三輪書店 1999

留 意 事 項
ディスカッションの中で自分で考えることを経験してほしいので、積極的に発言してください。

オフィスアワー等
質問等はできるだけ授業時に行うこと。授業外での質問は以下に連絡を取ること（s.yamane@（アットマーク）kyojyu.ac.jp）

実 務 経 験
作業療法士としての実践で経験した作業の関する知識の重要性を伝える。現在、日本作業科学学会の会長を務めている。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業科学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	作業科学の概要	作業科学の概要について講義する。自分自身の作業について考える。	山根 伸吾
2	症例検討	症例を通し、作業の観点からディスカッションを行う	山根 伸吾
3	症例検討2	症例を通し、作業の観点からディスカッションを行う	山根 伸吾
4	作業科学の視点：倫理と作業的公正	倫理と作業的公正について講義し、ディスカッションを行う。	山根 伸吾
5	作業科学の視点：作業の形態・機能・意味、作業の5W1H	自身の作業について、より深く考えるための作業科学の視点を講義し、ディスカッションを行う。作業を5W1Hで考える。作業を形態・機能・意味の観点で考える。	山根 伸吾
6	作業科学の視点：作業の分類を考える	作業の多様な観点での分類を考える。作業バランス、義務と願望のバランスに関する作業科学の視点を講義し、ディスカッションを行う。	山根 伸吾
7	対象者の作業を聞き取る	COPMについて説明する。グループワークで他者の作業を聞いてみる。	山根 伸吾
8	症例検討3	症例を通し、作業の観点からディスカッションを行う	山根 伸吾
9	作業療法を受けた当事者からの作業科学の講義	ゲストスピーカーによる講義（日程調整の可能性あり）	山根 伸吾
10	作業療法を受けた当事者からの作業科学の講義	ゲストスピーカーによる講義（日程調整の可能性あり）	山根 伸吾
11	作業科学の視点：義務と願望、doing、being、becoming、belonging	義務と願望、doing、being、becoming、belongingについて講義し、ディスカッションを行う。	山根 伸吾
12	物語の中の作業	これまで学んだ作業の視点から、物語の中の作業について考える。グループワークを行う	山根 伸吾
13	症例検討4	症例を通し、作業の観点からディスカッションを行う	山根 伸吾
14	物語の中の作業	これまで学んだ作業の視点から、物語の中の作業について考える。グループ発表を行う。	山根 伸吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業科学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	物語の中の作業	これまで学んだ作業の視点から、物語の中の作業について考える。 グループ発表を行う。	山根 伸吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業学実習Ⅱ（レクリエーション・作業分析）	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、太田 研吾、坂口 聡子、川崎 一平				実習	実習	

授 業 概 要
作業療法士では集団レクリエーションを企画する機会が多くある。年齢や障害を考慮しながらレクリエーションを企画する上で必要な技術を学ぶ。レクリエーションの意義からその目的、計画、実施についてその知識と技術について学ぶ。ゲーム、ソング、ダンス、スポーツ、観劇などさまざまなレクリエーションの実技を通して、グループダイナミクスや始動のポイント、サポーターの役割、注意事項について学修する。

到 達 目 標
1.レクリエーションの基本的理念を理解し，説明することができる 2.治療的レクリエーションの技法を理解し，説明することができる 3.レクリエーション活動を計画・立案することができる 4.レクリエーション活動を実施することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：実習要項をよく読み、実習目的・目標や方法を理解しておく 事後学修：実習の課程を振り返りレポートにまとめる。また、学修成果と自己の課題を確認する

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
レポート課題（50％） 授業への取組（50％）

教 科 書
レクリエーション 第3版 活動と参加を促すレクリエーション 三輪書店

参 考 図 書

留 意 事 項
グループ学修を主とした実習形式であるため、積極的に計画・立案および実施に取り組むこと

オフィスアワー等
研究室にて行う。各教員に対して、メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
各分野の作業療法士としての実務経験を有する教員が、レクリエーションの計画・立案・実施に必要な基本的知識と方法を実習形式で指導する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業学実習Ⅱ（レクリエーション・作業分析）	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、太田 研吾、坂口 聡子、川崎 一平				実習	実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	レクリエーションの基本理念	講義の流れ、レクリエーション実施計画書の立案方法	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
2	作業療法におけるレクリエーションの技法	レクリエーションにおける司会などの各種役割とポイント	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
3	レクリエーション活動	遊戯・ゲーム・スポーツの要素を取り入れたレクリエーションの計画立案①	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
4	レクリエーション活動	遊戯・ゲーム・スポーツの要素を取り入れたレクリエーションの計画立案②	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
5	レクリエーション活動	遊戯・ゲーム・スポーツの要素を取り入れたレクリエーションの計画立案③	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
6	レクリエーション活動	遊戯・ゲーム・スポーツの要素を取り入れたレクリエーションの計画立案④	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
7	レクリエーション活動	教員に対する実施計画のデモンストレーションおよび説明	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
8	レクリエーション活動	デモンストレーションおよび説明を終えての計画書修正	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
9	レクリエーション活動	学生に対する実施計画の説明	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
10	レクリエーション活動	実施準備・練習	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
11	レクリエーション活動	レクリエーション実施とフィードバック①	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
12	レクリエーション活動	レクリエーション実施とフィードバック②	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
13	レクリエーション活動	レクリエーション実施とフィードバック③	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
14	レクリエーション活動	レクリエーション実施後の計画書再修正①	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業学実習Ⅱ（レクリエーション・作業分析）	2026年度	作業療法学科	1単位	45時間	必修	1年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、太田 研吾、坂口 聡子、川崎 一平				実習	実習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	レクリエーション活動	レクリエーション実施後の計画書再修正②	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
16	レクリエーション活動	レクリエーション実施後の計画書再修正③	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
17	レクリエーション活動	レクリエーション実施後の計画書再修正④	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
18	レクリエーション活動	レクリエーション実施後の計画書再修正⑤	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
19	レクリエーション活動	再実施の準備・練習	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
20	レクリエーション活動	レクリエーション再実施とフィードバック①	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
21	レクリエーション活動	レクリエーション再実施とフィードバック②	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
22	レクリエーション活動	レクリエーション再実施とフィードバック③	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平
23	レクリエーション活動	総括	江口喜久雄 太田研吾 坂口聡子 川崎一平

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
韓国語Ⅱ（医療会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白岩 美穂				演習		

授 業 概 要
韓国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との韓国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。韓国語の場合は平音・濃音・激音の発音トレーニングが重要なので、発音練習の中で、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。

到 達 目 標
1. 基本的な韓国語の文法が理解できる 2. 簡単な文を読み、書くことができる 3. 韓国語で簡単な会話ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を復習する

対応DP
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
平常点(課題を含む)：30%、小テスト：30%、定期試験：40%

教 科 書
書名：コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ(長谷川由起子) 出版社名：白帝社 ISBNコード：ISBN9784863980860

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
授業後質問を受け付ける

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
韓国語Ⅱ（医療会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白岩 美穂				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	韓国語Ⅰの復習	①ガイダンス ②韓国語Ⅰの復習	白岩美穂
2	学年の言い方 「～も」	①12課 種類をたずねる疑問詞「何の～」 ②学年の言い表し方 ③追加を表す助詞「～も」	白岩美穂
3	所属と学年 「～を」	①12課 所属と学年を言う ②13課 対象を表す助詞「～を」	白岩美穂
4	「～が好きです」 指し示す言葉 所有・所属表現	①13課 「～が好きです」 ②サークルについて話す ③14課 指し示す言葉 ④所有・所属表現「～の」	白岩美穂
5	「～ではありません」	①14課 名詞文の否定「～ではありません」 ②持ち主について話す	白岩美穂
6	「ある・いる／ない・いない」 二重パッチムⅠ 丁寧形Ⅰ	①15課 存在表現「ある・いる／ない・いない」 ②二重パッチムⅠ ③丁寧形の語尾	白岩美穂
7	「～に」 年齢の言い表し方	①15課 場所・時・方向を表す助詞「～に」 ②存在について話す ③16課 年齢の言い表し方	白岩美穂
8	「～ですね」 「～で」	①16課 発見・気づき表現「～ですね」 ②手段・方法を表す助詞「～で」 ③年齢について話す	白岩美穂
9	流音化 二重パッチムⅡ 「～が」 「～と」	①17課 流音化 ②二重パッチムⅡ ③主語を表す助詞「～が」 ④つなぎの助詞「～と」	白岩美穂
10	「～です」 「～(し)て～」 丁寧形Ⅱ	①17課 丁寧なニュアンスを加える助詞「～です」 ②並列の接続語尾「(し)て、(する)し」 ③好きなもの・好きなことについて話す ④18課 縮約を伴う丁寧形	白岩美穂
11	「(する)が」 「～で」	①18課 逆接の接続語尾「～(する)が」 ②場所を表す助詞「～で」 ③日常のおこないについて話す	白岩美穂
12	過去の丁寧形 「～(し)に」	①19課 過去の丁寧形「(し)ました、～でした」 ②行き来の目的を表す接続語尾「～(し)に（行く・来る）」	白岩美穂
13	予定についての言い方	①19課 過去の出来事について話す ②20課 予定・つもりを表す表現	白岩美穂
14	希望表現	①20課 希望表現「～(し)たいです」 ②予定について話す	白岩美穂

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
韓国語Ⅱ（医療会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
白岩 美穂				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	韓国語Ⅱのまとめ	12課～20課復習	白岩美穂

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
中国語Ⅱ（医療会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黄 冬 柏				演習		

授 業 概 要
中国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との中国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。中国の場合は四声の発音が重要なので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。健康課題がある人に対し、医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。

到 達 目 標
1. 中国語で症状に関する会話ができる。 2. 中国語で入院中の生活に関する会話ができる。 3. 中国語で退院の案内と留意点が説明できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応DP
◎ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
1) 授業到達目標への到達努力の評価 2) 最終到達度の評価

教 科 書
芦 益平・黄 冬柏『漢語生活会話』 白帝社 ISBN 9784891746780 黄 冬柏・藤高美海「医療現場における中国人患者への言語対応に関する考察」

参 考 図 書

留 意 事 項
朗読や練習など、日常の学習が非常に大切なので、必ず予習と復習を行うこと。中国語のリズムや抑揚を体得するには、ヒアリングが一番重要なので、教科書に付いているCDを繰り返し聴くこと。授業中は積極的に声を出して練習すること。

オフィスアワー等
授業時間の前後、あるいはメール（huang@kyukyo-u. ac. jp）で対応する。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
中国語Ⅱ（医療会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黄 冬 柏				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	身体の基本部位	授業ガイダンス 身体の基本部位の名称	黄 冬 柏
2	心配しないで 別緊張	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
3	どうしましょうか 你需要帮忙吗？	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
4	いかがですか 你哪儿不舒服？	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
5	いくつかの診察の質問 请您填一下问诊表	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
6	エレベーターでどうぞ 乘坐电梯去到诊断室吧。	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
7	何か症状はありますか 你有什么症状？	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
8	どこが痛いですか 你那儿痛？	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
9	どれくらい症状が続いてま すか 这种状况有几天了？	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
10	いつから頭が痛くなりまし たか 你什么时候开始头痛？	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
11	採血します 抽血检查一下	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
12	あした手術です 明天要做手术	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
13	3種類の薬があります 有三种药	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏
14	心配事がありますか 你还有什么不明白的地方？	リーディング、リスニング演習、会話練習	黄 冬 柏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
中国語Ⅱ（医療会話）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	選択	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
黄 冬 柏				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	復習、まとめ	復習や質疑応答を行った後、期末試験について説明する。	黄 冬 柏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動生理学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				講義	講義	

授 業 概 要
ヒトが身体運動を行う際の生理機能の適応的变化について説明する。本講義では人体の正常な構造と機能について理解し、健康維持と疾患回復の過程を学修する。運動における中枢機能、末梢機能、筋機能、呼吸と循環機能、代謝機能などの変化を理解するとともに、刺激と興奮、末梢神経細胞の分類と特性、接合部と受容器、脊髄反射、脳幹・小脳・視床下部と大脳辺縁系、視覚と聴覚、感覚投射系、皮膚感覚と平衡感覚、高次中枢機能についても学ぶ。脳の構成と機能局在や神経伝導と情報伝達などについて十分に理解を深め、これらの生理学的機能についての知識を、評価技術や運動療法、リスク管理など作業療法に生かせるよう学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標
1. 運動の功罪を理解したうえで、運動を処方することの重要性を理解できる 2. 運動処方をするうえで身体的な変化がどのようにして起こるのかを理解できる 3. 不動や加齢によっておこる身体的な変化を理解することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：単元に該当する教科書を読み、わからない単語を調べる 事後学修：配布資料の確認、専門用語の調べ学修をする

対応D P
○ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
筆記試験（70％）・小テスト（20％）・授業態度など（10％）を総合して評価する

教 科 書
入門運動生理学 第4版 株式会社杏林書院

参 考 図 書
人体の正常構造と機能 日本医事新報社

留 意 事 項

オフィスアワー等
月曜日（15時～16時）・火、木曜日（11時～12時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
運動生理学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション・総論	リハビリテーションが必要な疾患、加齢の影響を知り、栄養及び運動の必要性を理解する また、運動に功罪があることを理解する	近藤昭彦
2	運動と筋	筋の収縮の仕組みとATP産生について理解する また、収縮様式の違いを理解する	近藤昭彦
3	運動と神経	伸張反射のメカニズムなど運動に必要な神経系の基礎を理解する	近藤昭彦
4	運動と循環	運動時の循環器の変化及びそのメカニズムについて理解する	近藤昭彦
5	運動と呼吸	運動時の呼吸変化およびそのメカニズムについて理解する	近藤昭彦
6	運動と栄養	3大栄養素の消化と吸収及びそれらの役割について理解する	近藤昭彦
7	運動量の測定と運動処方	運動量を測定する指標について理解し、運動強度を考えた処方ができる	近藤昭彦
8	加齢と廃用症候群、生活習慣等の影響と予防	加齢および廃用症候群、生活習慣等が体に及ぼす影響とその予防の基礎を理解する	近藤昭彦

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
内科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
蒲池浩文				演習		

授 業 概 要
代表的な内科疾患（呼吸器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎臓泌尿器疾患）について、関連する解剖学・生理学・症候・検査法などの基礎的な知識について学ぶ。また、各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に、留意すべきことについて考える。

到 達 目 標
1. 各疾患に関連する器管の解剖と生理について説明することができる 2. 各疾患の代表的な症候について説明することができる 3. 各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に、留意すべきことについて考える

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
期末試験（100%）

教 科 書
1. PTOT標準理学療法学・作業療法学 内科学 第5版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項
授業の前に該当疾患の教科書の内容を学習しておくこと。

オフィスアワー等
授業後に質問、または教務係を通じて質問すること

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
内科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
蒲池浩文				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	呼吸器疾患	肺の解剖と生理、主要な症候、検査所見、呼吸器疾患各論①	山岡 賢俊
2	呼吸器疾患	肺の解剖と生理、主要な症候、検査所見、呼吸器疾患各論②	山岡 賢俊
3	呼吸器疾患	肺の解剖と生理、主要な症候、検査所見、呼吸器疾患各論③	山岡 賢俊
4	消化管疾患	消化管の解剖と生理、主要な症候、検査法、消化管疾患各論①	川崎 啓祐
5	消化管疾患	消化管の解剖と生理、主要な症候、検査法、消化管疾患各論②	川崎 啓祐
6	消化管疾患	消化管の解剖と生理、主要な症候、検査法、消化管疾患各論③	川崎 啓祐
7	肝胆膵疾患	肝臓・胆道・膵臓の解剖と生理、検査法、肝胆膵疾患各論①	蒲地 浩文
8	肝胆膵疾患	肝臓・胆道・膵臓の解剖と生理、検査法、肝胆膵疾患各論②	蒲地 浩文
9	肝胆膵疾患	肝臓・胆道・膵臓の解剖と生理、検査法、肝胆膵疾患各論③	蒲地 浩文
10	代謝性疾患	代謝調節の仕組み、代謝性疾患各論①	大隈 俊明
11	代謝性疾患	代謝調節の仕組み、代謝性疾患各論②	大隈 俊明
12	内分泌疾患	内分泌系とホルモンの解剖と生理、検査法、内分泌疾患各論①	石井 正夫
13	内分泌疾患	内分泌系とホルモンの解剖と生理、検査法、内分泌疾患各論②	石井 正夫
14	腎疾患	腎臓の解剖と生理、主要な症候、検査法、腎疾患各論	恒吉 章治

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
内科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
蒲池浩文				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	泌尿器疾患	泌尿器の解剖と生理、主要な症候、検査法、泌尿器疾患各論	吉田 毅

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
神経内科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 浩雄				演習	講義	

授 業 概 要
神経内科領域の疾患について理解を深めることを目的に、神経内科学Ⅰで学んだ知識に基づき、各神経疾患の病因・症状・診断・治療・予後について学ぶ。また、各疾患とリハビリテーションに関連する事項について学ぶ。

到 達 目 標
1. 各疾患に関係する神経系の構造と機能について説明することができる 2. 各疾患の病因・病状・診断・治療・予後について説明することができる 3. 各疾患とリハビリテーションに関連する事項について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：テキスト、参考書で該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする 事後学修：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める 講義後配布される復習課題を解き理解を深める

対応DP
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
筆記試験（100%）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火、木曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることをとする。

実 務 経 験
担当する教員は、臨床現場におけ神経内科医としての実務経験を活かして講義を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
神経内科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 浩雄				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	脳血管障害	脳血管障害の病因・症状・診断・治療・予後①	山口浩雄
2	脳血管障害	脳血管障害の病因・症状・診断・治療・予後②	山口浩雄
3	認知症	認知症の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
4	脳腫瘍	脳腫瘍の病因・症状・診断・治療・予後	福山 幸三 (福岡和白病院) ゲストスピーカー
5	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の病因・症状・診断・治療・予後	福山 幸三 (福岡和白病院) ゲストスピーカー
6	脊髄疾患	脊髄疾患の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
7	変性疾患と脱髄疾患	変性疾患と脱髄疾患の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
8	錐体外路の変性疾患	錐体外路の変性疾患の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
9	末梢神経障害	末梢神経障害の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
10	てんかん	てんかんの病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
11	筋疾患	筋疾患の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
12	感染性疾患	感染性疾患の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
13	中毒性疾患と栄養欠乏	中毒性疾患および栄養欠乏による神経疾患の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄
14	小児神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎、ダウン症候群、先天性代謝異常の病因・症状・診断・治療・予後	山口浩雄

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
神経内科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口 浩雄				演習	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	合併症	廃用症候群、誤用症候群、排尿障害、性機能障害	山口浩雄

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
整形外科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
関矢仁				演習		

授 業 概 要
整形外科学Ⅰ（総論）で学んだ知識を踏まえ、人体の各関節における代表的な疾患や外傷に関する病態や診断、治療方法についてより詳細に学ぶ。また、各関節疾患のリハビリテーションを行うにあたり、留意すべき事項について理解する。

到 達 目 標
1. 各関節における代表的な疾患の病態について説明することができる 2. 各関節疾患における検査および治療について説明することができる 3. 各関節疾患のリハビリテーションを行う際に留意すべき事項について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応DP
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
筆記試験（100%）

教 科 書
1. 標準整形外科学 第15版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等
疑問点がある場合は、授業後に質問にくること。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
整形外科科学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
関矢仁				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	肩関節	肩関節の機能解剖、診察・検査法、肩関節の疾患（先天異常、不安定症、変性疾患、関節症、スポーツによる障害、他）	和白病院医師
2	肘関節	肘関節の機能解剖、診察・検査法、肘関節の疾患（小児に好発する疾患、成人以降に好発する疾患、先天異常、他）	和白病院医師
3	股関節	股関節の機能解剖、診察・検査法、股関節の疾患（小児・成人の疾患）と手術	和白病院医師
4	手関節と手	手の機能解剖、診察・検査法、手の疾患（外傷、拘縮と変形、炎症性疾患、骨壊死、神経麻痺、循環障害、CRPS、腫瘍、先天異常、他）	関矢 仁
5	頸椎	脊柱の機能解剖、診察・検査法、頸椎疾患（斜頸、先天異常、変性疾患、炎症性疾患、破壊性疾患）	関矢 仁
6	胸郭・胸椎・腰椎	胸郭・胸椎・腰椎の機能解剖、診察・検査法、疾患（先天異常、変形、変性疾患、分離症、すべり症、炎症性疾患、腫瘍、他）	和白病院医師
7	外傷総論	外傷の概要、捻挫と脱臼、骨折	和白病院医師
8	軟部組織損傷	皮膚・皮下組織損傷、筋・腱損傷、血管損傷、靱帯損傷、区画症候群、捻挫症候群	和白病院医師
9	膝関節	膝関節の機能解剖、診察・検査法、膝関節の疾患（半月板損傷、靱帯損傷、膝外大腿関節障害、関節症、炎症性疾患、腫瘍、他）	関矢 仁
10	足関節と足	足関節の機能解剖、診察・検査法、足関節の疾患（足部変形、麻痺、過剰骨障害、絞扼性神経障害、骨端症、無腐生壊死、外傷後足障害、他）	関矢 仁
11	骨折・脱臼	肩関節・上腕骨骨幹部・肘関節・前腕部・手の骨折と脱臼	和白病院医師
12	骨折・脱臼	胸郭・骨盤・股関節・大腿骨骨幹部・膝関節・下腿骨・足関節・足部の骨折と脱臼	和白病院医師
13	脊椎・脊髄損傷	脊椎と脊髄の解剖、脊髄損傷、脊椎損傷	和白病院医師
14	末梢神経損傷	末梢神経損傷の病態・原因・診断・治療、代表的な末梢神経損傷	関矢 仁

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
整形外科Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
関矢仁				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	スポーツと整形外科	代表的なスポーツ外傷とスポーツ障害	関矢 仁

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神医学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村良二				演習		

授 業 概 要
精神医学Ⅰで学んだ精神疾患や精神障害に関する基礎的知識に基づき、ライフサイクルも含めたより広い社会的支援の観点から精神障害を有する対象者へのアプローチについて学ぶ。また、医療施設のみならず、学校や地域社会におけるメンタルヘルス問題について学ぶ。

到 達 目 標
1. 精神障害を有する対象者への医療的支援および社会的支援の概要について説明することができる 2. ライフサイクルにおける精神医学の特徴について説明することができる 3. 学校や社会におけるメンタルヘルスの問題について説明することができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：講義時、関連するテキストの該当部分を熟読して出席する 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、レポートの課題に取り組み、学びを深める

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
レポート(20%) 定期試験（80%）

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神医学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村良二				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	生物学的心理社会的アプローチについて	西村 良二
2	コンサルテーション・リエゾン精神医学	精神腫瘍学、緩和ケア、チーム医療	西村 良二
3	症状性精神障害	代謝および栄養障害、膠原病、内分泌障害	西村 良二
4	生理的障害および身体要因関連障害	摂食障害、睡眠障害、性機能障害	西村 良二
5	心身症	心身医学の概念、心身症の定義と概要、心身症の診断と治療	西村 良二
6	ライフサイクルにおける精神医学①	小児期の精神医学	西村 良二
7	ライフサイクルにおける精神医学②	思春期・青年期の精神医学	西村 良二
8	ライフサイクルにおける精神医学③	成人期の精神医学、パーソナリティ障害、行動や性の障害	西村 良二
9	ライフサイクルにおける精神医学④	老年期の精神医学、認知症以外の脳器質性精神障害	西村 良二
10	精神科保健医療と福祉①	精神障害者の処遇の歴史、精神保健福祉法、医療観察法、障害者総合支援法	西村 良二
11	精神科保健医療と福祉②	精神科医療の現状と課題	西村 良二
12	精神科保健医療と福祉③	職業リハビリテーション、障害者雇用・就労の形態・雇用政策	西村 良二
13	精神障害の治療とリハビリテーション	薬物療法と精神療法、社会的治療とリハビリテーション	西村 良二
14	社会・文化とメンタルヘルス	精神の病と社会、学校・職場・家庭のメンタルヘルス	西村 良二

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神医学Ⅱ（各論）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
西村良二				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	総括	まとめ（確認テスト）	西村 良二

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
老年学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口浩雄				演習		

授 業 概 要
加齢による身体各系および器官の機能的変化について学ぶとともに、高齢者に多い疾患や症候の概要を理解し、健康長寿のための医療的および社会的アプローチの重要性について学ぶ。

到 達 目 標
1. 加齢による身体機能の変化について説明することができる 2. 高齢者に多い疾患の概要について説明することができる 3. 高齢者を取り巻く社会福祉について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うとともに、各回の講義終了時に指示される課題についてまとめること

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
定期試験100%

教 科 書
1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第6版（医学書院） 2. 配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名		開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
老年学		2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員					授業形態	開講形式	
山口浩雄					演習		
回数	単 元	内 容			担当教員		
1	老化と老年病の考え方	老化の定義と機序、高齢者の定義と分類、平均寿命・平均余命・健康寿命、老年病の成り立ち			山口 浩雄		
2	加齢に伴う生理機能の変化	高齢者の生理機能の特徴、感覚機能・自律機能・高次脳機能の加齢変化			山口 浩雄		
3	加齢に伴う運動機能の変化	高齢者の運動機能の特徴、神経系・骨格筋の加齢変化			山口 浩雄		
4	高齢者に多い症候と老年症候群	老年症候群の概念、代表的な老年症候群（各種症候と障害）			山口 浩雄		
5	老化と循環器疾患	血圧異常、不整脈、虚血性心疾患、弁膜症、心筋・心疾患、心不全、フレイルと循環器疾患、高齢者の血管疾患			有田 武史		
6	老化と呼吸器疾患	呼吸器感染症、誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎			山岡 賢俊		
7	老化と消化器疾患	消化器癌、上部・下部消化管疾患、肝疾患、胆道・膵疾患			寺坂 禮治		
8	老化と神経疾患	脳血管障害、パーキンソン病、びまん性Lewy小体型認知症、血管障害性パーキンソニズム、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、末梢神経障害			山口 浩雄		
9	老化と内分泌疾患	糖尿病、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、原発性副腎不全			石井 正夫		
10	老化と血液・免疫疾患	血液疾患（AML・MDS・リンパ腫・他）、膠原病（RA・PMR・GCA・他）			田口 文博		
11	老化と運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症、後縦靱帯骨化症、関節リウマチ			井上 奨大		
12	老化と感染症	感染症の特徴と原因、各臓器の特徴的な感染症			鄭 湧		
13	老化と眼疾患	加齢白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、網膜動脈閉塞症、加齢黄斑性症			村田 浩司		
14	高齢者福祉と社会資源	高齢者医療の特徴と諸問題、高齢者のリハビリテーションを取り巻く社会資源			稲川 利光		

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
老年学	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山口浩雄				演習		

回数	単 元	内 容	担当教員
15	総括	まとめ 老年医学とリハビリテーション	稲川 利光

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
救急救命医学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
角秀秋				講義		

授 業 概 要
救急医療に関する基礎的な知識（救急医療体制、医学的処置）について理解を深めるとともに、救急疾患の概要（病態、診断および治療）を学ぶ。また、救急医療の現場における理学療法士・作業療法士の役割について学ぶ。

到 達 目 標
1. 救急医療体制と法的諸問題、リハビリテーションの役割について説明することができる 2. 救急初療で行われる各種処置の概要について理解する 3. 救急疾患の病態、治療の概要について理解する 4. 患者急変時の初期対応、理学療法士・作業療法士が関わる救急救命処置について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：事前に示された資料を予習する 事後学修：学修した内容を整理し、理解を深める

対応D P
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
筆記試験（100%）

教 科 書
配布資料

参 考 図 書
1. 標準救急医学（医学書院）、2. リハベージック安全管理学・救急医療学（医歯薬出版）、3. リハビリテーションリスク管理ハンドブック（medical view）

留 意 事 項

オフィスアワー等

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
救急救命医学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
角秀秋				講義		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	総論	救急救命医学の概要、救急医療体制、法的諸問題 救急・集中医療におけるリハビリテーション総論、医療安全	角 秀秋
2	救急初療に必要な処置	一次・二次救命処置、気道確保、静脈路確保、中心静脈・動脈カニューレーション、胃チューブ、SBチューブ、尿道カテーテル、心嚢穿刺、胸腔穿刺、輸液、輸血、救急医薬品	角 秀秋
3	症状・兆候からみた救急疾患①	救急診断、バイタルサイン、緊急度・重症度評価、トリアージ、治療 緊急検査、画像検査	角 秀秋
4	症状・兆候からみた救急疾患②	ショック、呼吸困難、意識障害、頭痛、胸痛、腹痛、腰背部痛、嘔吐、吐血、下痢、脱水、下血、尿異常	角 秀秋
5	重症救急患者の管理	生体侵襲と生体反応、循環管理、呼吸管理、意識障害患者の管理、体液管理、血液浄化	角 秀秋
6	内因性の救急疾患	中枢神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌代謝系、腎泌尿器系 産婦人科	角 秀秋
7	外傷、災害医療	外傷、熱傷、急性中毒、熱中症 災害医療総論、医療体制、自然災害	角 秀秋
8	小児の救急疾患 リハビリテーション安全管理 ICUリハビリテーション	小児救急の全身評価、小児の心肺蘇生、発熱、けいれん、腹痛、呼吸障害、 血糖異常、小児虐待 安全管理・推進のガイドライン、ICU早期リハ	角 秀秋

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法研究法	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、川原田 淳、川崎 一平				演習	講義・演習	

授 業 概 要
作業療法実践を検証し、エビデンスを蓄積するための研究は、作業療法実践の質と効率を高めるために重要である。作業療法学科の課程で修得した知識や技術の深化・統合を基盤として、実践上の課題や疑問の中から研究疑問を導き、その解決に向けて、適切な方法を考え、検証するための知識と技術の修得することが、作業療法研究法の目的である。作業療法研究を進めるために必要な文献資料検索法や整理の方法、研究疑問、研究の実施における倫理、作業療法で用いられる研究技法、量的および質的研究データの処理法、研究成果のまとめ方と発表の仕方などについて学修する。

到 達 目 標
1. 科学の発展に研究が果たした貢献を説明できる 2. 作業療法実践における研究の意義を説明できる 3. 作業療法の研究実施に際して必要となる倫理的配慮を説明できる 4. 主題を設けて研究論文の検索を効率的に行うことができる 5. 作業療法研究で用いることのできる研究技法について説明することができる 6. 事例を基にした研究の方法を説明できる 7. 研究データの処理方法を説明できる 8. 研究成果の発表の方法を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：学習支援システムを利用して単元毎に提示される事前学修についての課題（1から5回は講義内容についての予習、7回から15回は課題論文の購読）を行い、それらを基にして行われる学修に備えること 事後学修：各単元の終了時に、振り返りを通じて、各自の学修状況を自己評価し、必要に応じて補習を行うこと。

対応D P
◎ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
総合的に判断する（中間試験50%、文献演習50%）

教 科 書
山田 孝 ， 長谷 龍太郎（編） 作業療法研究法（標準作業療法学 専門分野） 医学書院 2011

参 考 図 書

留 意 事 項
授業については講義と演習を組み合わせで効果的に実施する。

オフィスアワー等
各担当教員にメール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。川原田淳（a.kawarada@rhs-u.ac.jp）、田中悟郎（g.tanaka@rhs-u.ac.jp）、川崎一平（i.kawasaki@rhs-u.ac.jp）。

実 務 経 験
本科目を担当する教員は、臨床現場におけるリハビリテーション活動の実務経験を生かして講義・演習を展開する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法研究法	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、川原田 淳、川崎 一平				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	科学と研究	人間の生活を豊かにした科学とその発展に、研究がどのように貢献してきたかを概観し、将来の医療福祉専門職としてどのように取り組むべきかを考える	川原田淳
2	研究方法の類型	作業療法研究で用いられる方法の類型の特徴を整理し、それぞれの適応を学ぶ	川崎一平
3	研究計画と倫理	作業療法研究の計画を立案するために必要となる研究倫理を学び、そのための手順を理解する	田中悟郎
4	文献検索法	膨大な研究成果が記録されている文献を効率的に、そして機能的に探索し、知見を整理する方法を学ぶ	田中悟郎
5	データ処理法	研究結果として得られたデータを処理する方法を学び、作業療法研究における活用法を考える	川崎一平
6	中間試験と文献購読演習のオリエンテーション	1～5回の研究方法に関する基礎知識の習得を確認するための試験を中間試験として実施する。その試験後、7回以降の3グループに分けた文献購読についてのオリエンテーションを行う	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
7	文献購読演習(1)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
8	文献購読演習(2)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
9	文献購読演習(3)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
10	文献購読演習(4)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
11	文献購読演習(5)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
12	文献購読演習(6)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
13	文献購読演習(7)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳
14	文献購読演習(8)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法研究法	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、川原田 淳、川崎 一平				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	文献購読演習(9)	担当教員が提示した研究論文をあらかじめ購読し、それをもとに研究方法や結果の分析方法、考察の方法について小グループで討論する	川崎一平 田中悟郎 川原田淳

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能評価学演習Ⅱ（中枢神経系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、川崎 一平				演習	演習	

授 業 概 要
作業療法評価法のなかで身体機能評価（中枢神経系）に用いられる協調性検査、感覚検査、上肢機能検査、高次脳機能評価等の具体的技法について演習形式で学修する。身体機能領域における作業療法の基本となる評価技術であり、患者と作業療法士の役割を設定しながら学修する。

到 達 目 標
1. 学生は身体機能評価（中枢神経系）に用いられる検査の枠組みを説明できる 2. 学生は身体機能評価（中枢神経系）に用いられる検査間の関連性を説明できる 3. 学生は身体機能評価（中枢神経系）に用いられる検査に必要な器具、実施手順、リスク管理について説明できる 4. 学生は脳の損傷部位から、起こりうる症状について列挙することができる 5. 学生は片麻痺機能テスト（BRS）、高次脳機能評価（HDS-R）を適切に実施できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
実技試験（50％），筆記試験（50％）

教 科 書
能登真一ら編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版，医学書院，2024

参 考 図 書
能登真一編：標準作業療法学 専門分野 高次脳機能障害作業療法学 第2版，医学書院2019

留 意 事 項

オフィスアワー等
水曜日（13時～14時）研究室 メール等で3日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士としての臨床経験を基に講義を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能評価学演習Ⅱ（中枢神経系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、川崎 一平				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	反射検査、姿勢反射検査	反射検査、姿勢反射検査について説明し、演習形式で学修する	山根伸吾
2	感覚検査	感覚検査について説明し、演習形式で学修する	川崎一平
3	感覚検査	感覚検査について説明し、演習形式で学修する	川崎一平
4	筋緊張検査、協調性検査	筋緊張検査、協調性検査について説明し、演習形式で学修する	山根伸吾
5	脳神経検査	脳神経検査について説明し、演習形式で学修する反射	山根伸吾
6	実技テスト	HDS-Rの実技テストを行う	山根伸吾 川崎一平
7	実技テスト	HDS-Rの実技テストを行う	山根伸吾 川崎一平
8	上肢機能検査（脳卒中片麻痺を対象とする検査）1	脳卒中片麻痺を対象とする上肢機能検査について説明し、演習形式で学修する（MFT、片麻痺機能テスト（BRS）、フレンチアイ上肢テスト、ARAT、BBT）	山根伸吾
9	上肢機能検査（脳卒中片麻痺を対象とする検査）2	脳卒中片麻痺を対象とする上肢機能検査について説明し、演習形式で学修する（片麻痺機能テスト（上田式）、SIAS、mNIHSS、JSS、WMFT、MAL、FMA）	山根伸吾
10	実技テスト	BRSの実技テストを行う	山根伸吾 川崎一平
11	実技テスト	BRSの実技テストを行う	山根伸吾 川崎一平
12	事例検討	作業療法評価の事例検討を行う	川崎一平
13	高次脳機能障害のある方へのアプローチ1	注意障害、記憶障害への介入について講義する	山根伸吾
14	高次脳機能障害のある方へのアプローチ2	失行、失認への介入について講義する	山根伸吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能評価学演習Ⅱ（中枢神経系）	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、川崎 一平				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	高次脳機能障害のある方へのアプローチ 3	半側空間無視、遂行機能障害への介入について講義する	山根伸吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期評価学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、角田 孝行				演習	講義・演習	

授 業 概 要
作業療法評価法のなかで発達期の評価に用いられる、発達のスクリーニング検査（DENVERⅡ等）、運動発達検査（粗大運動、微細運動、姿勢反射・反応等）、知覚・認知機能検査（知的能力検査、視知覚発達検査、感覚統合能力検査、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査）、ADL、社会性の発達検査等の具体的技法について演習形式で学修する。また、発達期のこどもの評価のポイントや評価室の環境についても学修する。

到 達 目 標
1. 発達障害領域の作業療法の対象となる疾患に用いる評価法が理解できる 2. 発達障害領域の作業療法の対象となる疾患に用いる評価法を実施できる 3. 作業療法士の観点から、評価（検査）の結果をまとめることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：今回の講義内容についてMoodleの事前配信資料を確認する 事後学修：教科書、配信資料を元に講義内容を復習する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
試験（70％）、レポート等（10％）、授業中課題（15％）、参加度（5％）

教 科 書
能登真一他（編集）「作業療法評価学 第4版」医学書院

参 考 図 書

留 意 事 項
提出期限を過ぎたレポートは成績評価の対象としないことがある

オフィスアワー等
研究室に在室時はいつでも対応可。ただし、事前にメールにて予約を取ることとする

実 務 経 験
講義を担当する2名とも、作業療法士として発達障害領域で実務経験があり、対象となる子どもの評価、また用いられる評価法の経験も豊富である。その経験を活かして講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期評価学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、角田 孝行				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	発達障害領域の評価の基本的考え	評価の基本的考え、並びに、家族との面接・情報集について	森本 誠司
2	発達全般を評価①	発達全般を評価する検査（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）の説明と演習	森本 誠司
3	発達全般を評価①	発達全般を評価する検査（DENVERⅡ、KIDS）の説明と演習	森本 誠司
4	原始反射・姿勢反射（反応）	原始反射・姿勢反射（反応）の説明と演習	角田 孝行
5	運動機能の評価①	粗大運動を評価する検査の説明と演習	角田 孝行
6	運動機能の評価②	微細運動（手指機能）を評価する検査の説明と演習	角田 孝行
7	視覚認知機能の評価	視知覚・視覚認知を評価する検査の説明と演習	角田 孝行
8	知能・認知機能の評価	知能・認知機能を評価する検査の説明と演習	角田 孝行
9	行動の評価	行動を評価する検査の説明と演習	角田 孝行
10	作業遂行・身辺処理の評価	作業遂行・身辺処理能力を評価する検査の説明と演習	森本 誠司
11	感覚統合機能の評価①	感覚統合機能（感覚調整障害）を評価する検査の説明と演習	森本 誠司
12	感覚統合機能の評価②	感覚統合機能（行為機能障害）を評価する検査の説明	*森本 誠司 角田 孝行
13	評価の実際①	JMAPによる検査の紹介と演習①	*森本 誠司 角田 孝行
14	評価の実際②	JMAPによる検査の紹介と演習②	*森本 誠司 角田 孝行

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期評価学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、角田 孝行				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	評価結果のまとめ	JMAPの検査結果のまとめ及び解釈	*森本 誠司 角田 孝行

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法臨床推論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、近藤 昭彦、江口 喜久雄、太田 研吾、角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義・演習	

授 業 概 要
本講義では、作業療法士が対象者の抱える課題を特定し、最適な介入計画を立案・実施するために必要な「思考プロセス（臨床推論Clinical Reasoning）」の枠組みと実践方法を学ぶ。作業療法における臨床推論は、医学的知識に基づく「科学的推論」だけでなく、対象者の人生や物語を理解する「物語的推論」、倫理的な判断を伴う「倫理的推論」など、多面的な視点が求められる。講義では、これらの推論の種類や特徴を理解した上で、具体的な事例を用いた演習等を行う。単に評価法や治療手技を当てはめるのではなく、「なぜその作業療法が必要なのか」「対象者にとっての意味は何か」を論理的かつ柔軟に導き出す能力を養うことを目的とする。また、EBP（根拠に基づく実践）とNBP（ナラティブに基づく実践）の統合についても学修する。

到 達 目 標
1．作業療法実践における臨床推論を説明できる 2．各専門領域（身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害、地域で暮らす障害者）の作業療法実践における臨床推論を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：これまでの作業療法に関する講義及び実習等での学びを整理しておく 事後学修：講義資料で復習し、知識の定着を行う

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
各専門領域ごとの理解度確認試験100％【5領域×20点】

教 科 書
指定の教科書はない。

参 考 図 書
各担当教員が必要な資料等を配布する。

留 意 事 項
授業には積極的に参加して、今後の学修に役立つ情報や知識を自らつかみ取ること。

オフィスアワー等
各担当教員へメール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
本科目を担当する教員は、臨床現場における作業療法の実務経験を生かして講義・演習を展開する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法臨床推論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、近藤 昭彦、江口 喜久雄、太田 研吾、角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	作業療法臨床推論1	身体障害領域の事例を通した推論過程の理解①	山根、近藤、吉田、川崎
2	作業療法臨床推論2	身体障害領域の事例を通した推論過程の理解②	山根、近藤、吉田、川崎
3	作業療法臨床推論3	身体障害領域の事例を通した推論過程の理解③【理解度確認試験①】	山根、近藤、吉田、川崎
4	作業療法臨床推論4	精神障害領域の事例を通した推論過程の理解①	太田
5	作業療法臨床推論5	精神障害領域の事例を通した推論過程の理解②	江口
6	作業療法臨床推論6	精神障害領域の事例を通した推論過程の理解③【理解度確認試験②】	田中
7	作業療法臨床推論7	発達障害領域の事例を通した推論過程の理解①	森本
8	作業療法臨床推論8	発達障害領域の事例を通した推論過程の理解②	角田
9	作業療法臨床推論9	発達障害領域の事例を通した推論過程の理解③【理解度確認試験③】	角田
10	作業療法臨床推論10	高齢期障害領域の事例を通した推論過程の理解①	江口
11	作業療法臨床推論11	高齢期障害領域の事例を通した推論過程の理解②	江口
12	作業療法臨床推論12	高齢期障害領域の事例を通した推論過程の理解③【理解度確認試験④】	坂口
13	作業療法臨床推論13	地域で暮らす障害者の事例を通した推論過程の理解①	谷川
14	作業療法臨床推論14	地域で暮らす障害者の事例を通した推論過程の理解②	谷川

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法臨床推論	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、近藤 昭彦、江口 喜久雄、太田 研吾、角田 孝行、吉田 和弘、坂口 聡子、川崎 一平				講義	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	作業療法臨床推論15	地域で暮らす障害者の事例を通した推論過程の理解③【理解度確認試験⑤】	坂口

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生活行為向上マネジメント	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博				講義	講義	

授 業 概 要
生活行為向上マネジメントは作業療法士が対象とする方々の生活行為を中心に、アセスメントの手法やマネジメントを駆使して生活を支援する方法の一つである。特に、生活行為向上マネジメントは、①活動から参加までを包括的にとらえる視点、②過去から現在、将来まで連続している包括的視点、③作業の広がりの包括的視点が含まれている。講義と演習を経験して、これらの包括的視点を養うことを目標とする。

到 達 目 標
1. 生活行為と生活行為の障害について説明できる 2. 生活行為の障害について聞き取りの重要性を説明できる 3. 生活行為向上マネジメントのプロセスについて説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：次回範囲のテキスト読書 事後学修：配布資料および各シートの理解

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。

評 価
提出課題（30％）、筆記試験（70％）

教 科 書
日本作業療法士協会 編：事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント（第2版）

参 考 図 書
日本作業療法士協会 編：作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント 改訂第3版，2018

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火曜日（15時～16時）・金曜日（11時～12時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士業務に携わった経験をもつ教員が、生活行為向上マネジメントの視点を身につけるため、アセスメントや面談、動作分析などの基本的知識と方法について講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生活行為向上マネジメント	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	生活行為向上マネジメントの背景	生活行為向上マネジメントを活用するために、背景、理論的位置づけ、用語の理解について学ぶ。	谷川良博
2	生活行為向上マネジメントの考え方1	生活行為の分類と内容について理解し、その連続性について学ぶ。	谷川良博
3	生活行為向上マネジメントの考え方2	生活行為の障害について、国際生活機能分類（ICF）を中心に整理し、作業療法との関連について学ぶ。	谷川良博
4	生活行為向上マネジメントのプロセス	生活行為向上マネジメントのプロセスでは、インテーク、アセスメント、プランニングに移行する。これらの過程におけるマネジメントの重要性について学ぶ。	谷川良博
5	評価指標	生活行為向上マネジメントで用いられる評価指標について、各評価の活用方法、内容について学ぶ。	谷川良博
6	模擬事例を用いた演習1	提示された事例をもとに、生活行為向上マネジメントの各種シートを用いて演習を進める。生活行為聞き取りシートか、興味関心チェックシート等を使用する。	谷川良博
7	模擬事例を用いた演習2	提示された事例をもとに、生活行為向上マネジメントの各種シートを用いて演習を進める。生活行為聞き取りシートを用いて、聞き取り内容について討議する。	谷川良博
8	模擬事例を用いた演習3	提示された事例をもとに、生活行為アセスメント演習シート、生活行為課題分析シート等を使用する。	谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
日常生活支援学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、坂口 聡子、角田 孝行				演習	演習	

授 業 概 要
代表的なADLやQOLの評価とADLへの介入について演習形式で学修する。脳血管障害や運動器疾患によるADL障害を持つ方の、生活動作の実演と演習を行う。また、作業療法で関わることが多い疾患を有するクライアントの食事や排泄、更衣、入浴、整容、コミュニケーションの自立をサポートする自助具についても学修する。

到 達 目 標
1. ADL支援のプロセスを説明できる 2. ADLへの基本的な支援方法について説明できる 3. 疾患特性とADL上の障害の関連性を説明できる 4. 基本的な起居動作・移乗の技術を身につけている 5. 自助具が代償する機能を説明できる 6. 作業療法士のADL支援の特徴について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当する教科書のページを30分程度熟読すること 事後学修：講義内容を踏まえて、教科書を30分程度読みなおし、理解を深めること

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
実技試験（30％），授業内発表（20％），筆記試験（50％）

教 科 書
濱口編 標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 第2版 医学書院 2022

参 考 図 書
伊藤利之ら編 新版 日常生活活動（ADL） 第2版 評価と支援の実際 医歯薬出版 2020

留 意 事 項

オフィスアワー等
水曜日（13時～14時）研究室 メール等で3日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士としての臨床経験を基に授業を行う

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
日常生活支援学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、坂口 聡子、角田 孝行				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	食事、整容（脳血管障害を中心に）	食事、整容について、実演と演習を行う 疾患特性による左記の活動についても説明する	山根伸吾
2	更衣（脳血管障害を中心に）	更衣について、実演と演習を行う 疾患特性による左記の活動についても説明する	山根伸吾
3	排泄（脳血管障害を中心に）	排泄について、実演と演習を行う 疾患特性による左記の活動についても説明する	山根伸吾
4	入浴（脳血管障害を中心に）	入浴について、実演と演習を行う 疾患特性による左記の活動についても説明する	山根伸吾
5	運動器障害・整形外科疾患のADL（1）	運動器疾患の方のADLについて説明する	坂口聡子
6	運動器障害・整形外科疾患のADL（2）	運動器疾患の方のADLについて説明する	坂口聡子
7	発達領域のADL	発達領域のADLについて説明する	角田孝之
8	ADL支援の実際	ゲストスピーカーによる講義 日程調整中	山根伸吾
9	ADL支援の実際	ゲストスピーカーによる講義 日程調整中	山根伸吾
10	福祉用具調べ	ADLに用いる福祉用具について、調べる（グループワーク）	角田孝之
11	福祉用具の発表	ADLに用いる福祉用具の機能や特徴について、プレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う	角田孝之 山根伸吾 坂口聡子
12	起居動作・移乗	起居動作・移乗の実技について演習を行う	山根伸吾 角田孝之 坂口聡子
13	起居動作・移乗	起居動作・移乗の実技について演習を行う	山根伸吾 角田孝之 坂口聡子
14	実技テスト	起居動作・移乗の実技テストを行う	山根伸吾 角田孝之 坂口聡子

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
日常生活支援学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾、坂口 聡子、角田 孝行				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	実技テスト	起居動作・移乗の実技テストを行う	山根伸吾 角田孝之 坂口聡子

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
高次脳機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				講義	講義	

授 業 概 要
脳血管障害や頭部外傷では、人が生活行為を遂行していく上で、その行為を困難にする高次脳機能障害が出現することが多く、その機序や具体的な対応方法を学んでおく必要がある。この授業では、失語、失行、失認の特性や作業療法の評価方法を学修する。

到 達 目 標
1. 高次脳機能障害の各症状の概要を説明できる 2. 高次脳機能障害の特性と生活上の障害の関連性を説明できる 3. 高次脳機能障害を有する方への作業療法の評価方法について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当する教科書のページを３０分程度熟読すること 事後学修：講義内容を踏まえて教科書を参照しながら、３０分程度復習すること

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
筆記テスト100%

教 科 書
能登真一編 標準作業療法学専門分野高次脳機能障害作業療法学 第2版 医学書院 2019

参 考 図 書
鎌倉矩子 高次脳機能障害の作業療法 美輪書店 2010 鈴木孝治 他 高次脳機能障害マエストロシリーズ 医歯薬出版 2006

留 意 事 項

オフィスアワー等
水曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
高次脳機能障害のある方への作業療法士としての臨床経験を基に授業を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
高次脳機能作業療法学	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	高次脳機能障害の総論	高次脳機能障害の総論	山根伸吾
2	一般的精神機能	左記の障害の概要を説明し、その特性に応じた作業療法について説明する	山根伸吾
3	記憶障害	左記の障害の概要を説明し、その特性に応じた作業療法について説明する	山根伸吾
4	注意障害、失認	左記の障害の概要を説明し、その特性に応じた作業療法について説明する	山根伸吾
5	失語、失行	左記の障害の概要を説明し、その特性に応じた作業療法について説明する	山根伸吾
6	半側空間無視	左記の障害の概要を説明し、その特性に応じた作業療法について説明する	山根伸吾
7	遂行機能障害	左記の障害の概要を説明し、その特性に応じた作業療法について説明する	山根伸吾
8	社会的行動障害	左記の障害の概要を説明し、その特性に応じた作業療法について説明する	山根伸吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生活環境論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
川原田 淳				演習	対面、座学	

授 業 概 要
地域リハビリテーションや訪問作業療法において、クライアントや家族の安心・安全、そして自立した生活を実現するためには、自宅のリフォームをはじめ住環境の改善が必要となる場合が多い。この授業では、そのために必要な知識や技術を学修する。また、ハード面だけでなく、そこに住む人の意向を重視することも学修する。

到 達 目 標
1. 生活環境の概念と障害児・者や高齢者に関連する法制度に関して理解する。 2. 住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整のための評価と実際を理解する。 3. 地域環境も含めた生活環境整備における作業療法士の役割を理解する。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：学習支援システムを利用して単元毎に提示される事前学修についての課題（リーディング課題と調査型課題）を行い、それらを基にして行われる単元での学修に備える。 事後学修：各単元の終了時に、まとめ課題と発展課題を提示する。まとめ課題の実施によって、各自の学修状況を自己評価し、必要に応じて補修を行う。十分な学修の基で、発展課題を行い、学修の定着と深化をはかる。

対応D P
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
総合的に判断する【筆記試験80%、授業態度（事前課題、まとめ課題、発展課題を含む）20%】

教 科 書
細田多穂（監）『生活環境学テキスト（改訂第2版）』南江堂、2020<ISBN：9784524227020>

参 考 図 書
・野村 敏、他『O T ・ P Tのための住環境整備論（第2版）』三輪書店 2012<ISBN：9784895904254> ・木村哲彦（監）『生活環境論 生活支援の視点と方法（第6版）』医歯薬出版 2010< ISBN：9784263213452> ・日本作業療法士協会（監）『作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方、住環境整備』協同医書出版社 2009< ISBN：9784763921277> ・伊藤利之他（編）『新版 日常生活活動（ADL）評価と支援の実際』医歯薬出版 2010< ISBN：9784263213445>

留 意 事 項
事前学修・事後学修は非常に大切ですが、授業中に疑問を生じた場合はそのまませず積極的に質問を行うなど、なるべくその場で解決するようにしてください。

オフィスアワー等
・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールかMoodleで連絡してください。

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生活環境論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
川原田 淳				演習	対面、座学	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	生活環境学の考え方	①作業療法における生活環境学の概念、②障害のとらえ方、③リハビリテーションと生活支援、④生活環境整備における作業療法士の役割、などについて学ぶ。	川原田淳
2	日本における生活環境の特徴と課題	①高齢者・障害者を取り巻く生活状況、②日本式住宅（木造住宅）の特徴と問題点、などについて学ぶ。	川原田淳
3	生活環境整備に関する法的制度	①生活環境整備に関連する諸制度、②介護保険制度の概要、③介護保険制度における生活環境整備、④障害者福祉施策の概要、などについて学ぶ。	川原田淳
4	生活環境整備の進め方	①生活環境整備のプロセス、②生活環境整備のための評価の視点、③生活環境整備の実践における留意点、④生活環境整備に関連する職種、などについて学ぶ。	川原田淳
5	生活環境整備の基本① [段差・スペース・床材]	①段差の解消、②スペースの配慮、③床材、などについて学ぶ。	川原田淳
6	生活環境整備の基本② [手すり・建具]	①手すりの取り付け、②建具への配慮、などについて学ぶ。	川原田淳
7	玄関・アプローチの環境整備	①玄関の整備、②アプローチの整備、③福祉用具の活用、などについて学ぶ。	川原田淳
8	廊下・階段の環境整備	①廊下の整備、②階段の整備、③福祉用具の活用、などについて学ぶ。	川原田淳
9	トイレの環境整備	①トイレの整備、②その他の整備機器、③福祉用具の活用、などについて学ぶ。	川原田淳
10	浴室・脱衣室の環境整備	①浴室の整備、②脱衣室の整備、③福祉用具の活用、などについて学ぶ。	川原田淳
11	台所・食堂の環境整備	①台所の環境整備、②食堂の環境整備、③福祉用具の活用、などについて学ぶ。	川原田淳
12	居間・寝室の環境整備	①居間・寝室への配慮、②その他の設備機器への配慮、③福祉用具の活用、などについて学ぶ。	川原田淳
13	疾患別環境整備①	①脳血管障害、②パーキンソン病、などについて学ぶ。	川原田淳
14	疾患別環境整備②	①脊髄損傷、②関節リウマチ、③変形性関節症、などについて学ぶ。	川原田淳

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
生活環境論	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
川原田 淳				演習	対面、座学	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	ホームケアテクノロジー	①ホームケアテクノロジーとは、②在宅医療、③ホームヘルスモニタリング、などについて学ぶ。	川原田淳

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
職業リハビリテーション	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、吉田 和弘、角田 孝行、川崎 一平				講義	講義・演習	

授 業 概 要
障害者の就労支援（「職業リハビリテーション」）は作業療法士の重要な役割であるが、本授業では、より広い概念である「社会参加」に焦点をあて講義する。作業療法と社会参加は密接に関連している。病気や障害を持つ人が「自分らしい生活」を取り戻し、職業（仕事）、趣味、地域活動（ボランティア、サークル活動、友人との交流など）を通じて他者と関わり、生きがいや役割を見つけるプロセスを支援するのが作業療法士の役割である。単なる身体機能回復だけでなく、環境調整や心理的サポートも行い、「人は作業を通じて元気になる」という考えに基づき、その人らしい社会参加の方法を当事者と一緒に見つけ出し、実現する支援のあり方を講義する。

到 達 目 標
1. 障害者の社会参加と作業療法との関連を説明できる 2. 「その人らしい」社会参加の支援のあり方を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：事前学修：教科書、配付資料等で予習し、事前に疑問点を整理しておくこと。 事後学修：理解困難な所は必ず教員に質問し解決する。課題等には迅速に対応する。

対応DP
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ☐ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。 ☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ☒ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。 ☐ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
筆記試験100点

教 科 書
就労支援の作業療法 一基礎から臨床実践まで一 医歯薬出版，ISBN；978-4-263-26663-2C3047)

参 考 図 書

留 意 事 項
授業には積極的に参加して、今後の学修に役立つ情報や知識を自らつかみ取ること。

オフィスアワー等
各担当教員にメール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
本科目を担当する教員は、臨床現場における作業療法・職業リハビリテーション活動・社会参加支援活動の実務経験を生かして講義・演習を展開する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
職業リハビリテーション	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	2年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、山根 伸吾、谷川 良博、吉田 和弘、角田 孝行、川崎 一平				講義	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	多様な社会参加の支援1	精神障害のある人の社会参加の支援1	田中悟郎
2	多様な社会参加の支援2	精神障害のある人の社会参加の支援2	田中悟郎
3	多様な社会参加の支援3	高次脳機能障害のある人の社会参加の支援	山根伸吾
4	多様な社会参加の支援4	認知症のある人の社会参加の支援	谷川良博
5	多様な社会参加の支援5	ひきこもり経験者/長期無業者（ニート）の社会参加支援	吉田和弘
6	多様な社会参加の支援6	高齢者の社会参加の支援	川崎一平
7	多様な社会参加の支援7	障害のある子どもの社会参加の支援	角田孝行
8	多様な社会参加の支援8	まとめ、筆記試験	田中悟郎

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法管理学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 敏				講義	講義	

授 業 概 要
作業療法士は医療行為のみならず、病院や施設の組織を理解し、作業療法部門の管理に努めることも要求される。本科目では、作業療法部門の組織、安全管理、機器のメンテナンス、在庫物品の管理、さらには記録、職員教育、職業倫理について学修する。また、組織内での様々なハラスメントやクライアントとの関係の取り方、自身の健康管理、医療職において生じる倫理的ジレンマについて事例を挙げながら学修する。

到 達 目 標
1. 作業療法士がなぜ管理学を学ぶ必要があるか説明できる。 2. 病院の組織について説明できる。 3. 仕事に必要なヒト、モノ、カネ、情報について説明できる。 4. 作業療法実践における患者の安心と安全を守るための配慮について説明できる。 5. 作業療法に関係する診療報酬等について説明できる。 6. 個人及び医療情報管理について説明できる。 7. 倫理的ジレンマについて説明できる。 8. 作業療法部門の設計や設備について説明できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：「理学療法士及び作業療法士法」を確認する。日本作業療法士協会の作業療法ガイドラインを一読する。 事後学修：配布資料をファイル化し復習する。

対応D P
◎ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。

評 価
筆記試験100%

教 科 書
資料を配付する。

参 考 図 書
大庭潤平・編著：作業療法管理学入門、医歯薬出版、ISBN978-4-263-26568-0 日本作業療法士協会：作業療法ガイドライン（2024年版）

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火曜日（16時～18時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士としての実務経験は50年です。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法管理学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 敏				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	序、組織、管理（１）	何故、管理学を学ぶか、組織、管理（マネジメント）とは 病院の組織の特徴	近藤敏
2	組織、管理（２）	医療、保健、福祉、介護の連携・諸制度、地域包括ケアシステム SWOT（強み、弱み、機会、脅威）分析、PDCAサイクル	近藤敏
3	リスク管理、危機管理（１）	如何に、クライアント・スタッフの安心・安全を守るか インシデント・アクシデント	近藤敏
4	リスク管理、危機管理（２）	作業療法室の管理：整理整頓（シンプル、クリーン、セフティ）、機器のメンテナンス、事業継続計画BCP	近藤敏
5	経営資源（１）	経営資源としてのヒト（人材育成）、モノ（設備、物品）、カネ、情報の管理	近藤敏
6	経営資源（２）	経営資源としてのヒト（人材育成）、モノ（設備、物品）、カネ、情報の管理。健康経営	近藤敏
7	精神科病院の組織・管理	精神科病院の組織の特徴と作業療法士の管理について	近藤敏
8	キャリア形成	作業療法士とキャリア形成について	近藤敏
9	学術・職能団体の組織・活動（１）	日本作業療法士協会の組織、活動内容（生涯教育、広報活動等）について	近藤敏
10	学術・職能団体の組織・活動（２）	日本作業療法士協会の組織、活動内容（大災害時における被災地支援等）について	近藤敏
11	診療報酬・介護報酬、法令遵守（１）	作業療法室の基準（人員・スペース・機器）、リハビリテーション部・作業療法部門の機能評価 作業療法の診療報酬、社会保険診療報酬点数表	近藤敏
12	診療報酬・介護報酬、法令遵守（２）	介護保険制度、介護保険法、施設基準（人員・スペース）、作業療法と関連する介護報酬等	近藤敏
13	職業倫理・記録１	作業療法士の職業倫理、診療記録、守秘義務、権利尊重	近藤敏
14	職業倫理・記録２	作業療法士の職業倫理、倫理的ジレンマ・事例についてデイベート研究倫理、ハラスメント防止、研究活動の不正行為	近藤敏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法管理学	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 敏				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	自己研鑽、職域開発、地域・国際貢献等 確認試験	近藤敏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、川崎 一平				演習	演習	

授 業 概 要
知識としてすでに獲得した身体機能障害者の障害像、評価法、医学的治療を踏まえながら、具体的な事例（ペーパーベイシエント・動画）として、脳血管障害、脊髄損傷、パーキンソン病等の中枢神経障害、関節リウマチや腰痛症等の運動器障害、さらに呼吸循環器疾患等(喀痰吸引を含む)について、人・作業・環境モデルや作業遂行モデルなどの作業療法独自の理論的枠組みを用いて実演と演習を行う。

到 達 目 標
1. 各疾患の障害特性、それに見合った検査測定方法の選択、予後予測が理解できる 2. 模擬症例の情報をまとめ、作業療法の治療原理と作業療法の理論的枠組みを適応してプログラムをまとめることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業テーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：技術修得のため、自己学修を行うこと

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。 ☒ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ☒ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。 ☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。 ☐ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。 ☐ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
各授業ごとのレポート100%

教 科 書
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版

参 考 図 書
作業で語る事例報告：作業療法レジメの書きかた・考えかた

留 意 事 項

オフィスアワー等
月曜日（15時～16時）・火、木曜日（11時～12時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする

実 務 経 験

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、川崎 一平				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション・総論	この授業の運営方法とグループ分け。	近藤昭彦 川崎一平
2	脳血管障害について①	脳血管障害の事例提示。グループ活動にて障害像の復習	近藤昭彦 川崎一平
3	脳血管障害について②	グループ活動にて、対象事例の問題点と目標設定の決定	近藤昭彦 川崎一平
4	脳血管障害について③	対象事例に対する作業療法プランの作成とワールドカフェ	近藤昭彦 川崎一平
5	脊髄損傷について①	脊髄損傷の事例提示。グループ活動にて障害像の復習	近藤昭彦 川崎一平
6	脊髄損傷について②	グループ活動にて、対象事例の問題点と目標設定の決定	近藤昭彦 川崎一平
7	脊髄損傷について③	対象事例に対する作業療法プランの作成とワールドカフェ	近藤昭彦 川崎一平
8	関節リウマチについて①	関節リウマチの事例提示。グループ活動にて障害像の復習と問題点・目標設定	近藤昭彦 川崎一平
9	関節リウマチについて②	対象事例に対する作業療法プランの作成とワールドカフェ	近藤昭彦 川崎一平
10	パーキンソン病について①	パーキンソン病についての事例提示。グループ活動にて障害像の復習と問題点・目標設定	近藤昭彦 川崎一平
11	パーキンソン病について②	対象事例に対する作業療法プランの作成とワールドカフェ	近藤昭彦 川崎一平
12	循環器疾患について①	循環器疾患についての事例提示。グループ活動にて障害像の復習と問題点・目標設定	近藤昭彦 川崎一平
13	循環器疾患について②	対象事例に対する作業療法プランの作成とワールドカフェ	近藤昭彦 川崎一平
14	呼吸器疾患について①	呼吸器疾患についての事例提示。グループ活動にて障害像の復習と問題点・目標設定	近藤昭彦 川崎一平

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
身体機能作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、川崎 一平				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	呼吸器疾患について②	対象事例に対する作業療法プランの作成とワールドカフェ 喀痰吸引	近藤昭彦 川崎一平

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、江口 喜久雄、太田 研吾				演習	講義 演習	

授 業 概 要
精神機能作業療法学で学んだ知識を基本に、各精神疾患の障害像、それに対する評価と治療、リハビリテーション技法について講義、演習する。

到 達 目 標
1. 各精神疾患の障害像，評価，治療について説明できる． 2. 各疾患特性に応じた作業療法を計画・立案できる． 3. 精神科リハビリテーションの流れと社会資源を説明できる．

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：教科書、配付資料等で予習し、事前に予備知識を取得しておくとともに、疑問点を整理しておく． 事後学習：復習することで、解決できなかった疑問点，理解困難な所は必ず教員に質問し解決する．

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☒ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☒ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。
☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。
☐ 多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、対象者の応用的動作能力または社会適応能力の回復を図ることでチームに貢献できる能力を有している。
☐ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
レポート100％

教 科 書
「精神機能作業療法学」（医学書院）

参 考 図 書

留 意 事 項
精神機能作業療法学の復習および教科書での事前学習において疑問点を整理して講義に臨むこと。

オフィスアワー等
各担当教員にメール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
本科目を担当する教員は、臨床現場におけるリハビリテーション活動の実務経験を生かして講義・演習を展開する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、江口 喜久雄、太田 研吾				演習	講義 演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	統合失調症1	症例検討1	江口喜久雄
2	統合失調症2	症例検討2	江口喜久雄
3	統合失調症3	症例検討3	江口喜久雄
4	統合失調症4	症例検討4	江口喜久雄
5	統合失調症5	症例検討5【レポート課題提示】	江口喜久雄
6	気分障害1	症例検討1	太田研吾
7	気分障害2	症例検討2	太田研吾
8	気分障害3	症例検討3	太田研吾
9	気分障害4	症例検討4	太田研吾
10	気分障害5	症例検討5【レポート課題提示】	太田研吾
11	社会生活技能訓練1	社会生活技能訓練の理論	田中悟郎
12	社会生活技能訓練2	社会生活技能訓練の実践	田中悟郎
13	認知行動療法1	認知行動療法の理論	田中悟郎
14	認知行動療法2	認知行動療法の実際	田中悟郎

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
精神機能作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、江口 喜久雄、太田 研吾				演習	講義 演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	WRAP	WRAP（元気回復行動プラン）の実際【レポート課題提示】	田中悟郎

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期作業療法学演習	2026年度	作業療学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、角田 孝行				演習	講義・演習	

授 業 概 要
知識としてすでに獲得した発達期の障害児の障害像、評価、治療について、自閉スペクトラム症や知的障害、並びに、脳性麻痺の通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作業療法の展開、臨床思考過程について実演と演習を行う。また、対象児の特性を考慮し家庭や学校等で活かせる援助法についても学修する。

到 達 目 標
1．小児領域の作業療法の対象となる自閉スペクトラム症等の神経発達症がある児に対する治療や支援の方法を感覚統合障害を背景に理解できる 2．小児領域の作業療法の対象となる運動障害がある児に対する治療や支援の方法を脳性麻痺を中心に理解できる 3．小児領域の作業療法の対象となる児に対する過程や学校等で活かせる援助法が理解できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：今回の講義内容について配信資料等を確認する 事後学修：教科書、配信資料を元に講義内容を復習する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
試験（60％）、授業中課題（25％）、レポート等（10％）、参加度（5％）

教 科 書
長崎重信監修・神作一実編集「発達障害作業療法学 改訂第3版」メジカルビュー

参 考 図 書

留 意 事 項
提出期限を過ぎたレポートは成績評価の対象にならない場合がある。合わせて、演習には積極的に参加し、意見を述べること

オフィスアワー等
研究室に在室時は対応可。ただし、メール等で事前に予約をすること

実 務 経 験
講義を担当する2名とも、作業療法士として発達障害領域で実務経験があり、対象となる子どもの治療や支援の経験も豊富であり、その経験を活かし講義、演習を行う

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、角田 孝行				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	小児領域における作業療法の治療・支援の在り方	作業療法の治療や支援の在り方の基本について。並びに、アフォーダンスの考えを基にした子どもの行動予測を演習	* 森本誠司 角田孝行
2	神経発達症がある児に対する作業療法①	知的障害がある児に対する作業療法の紹介と演習	* 森本誠司 角田孝行
3	神経発達症がある児に対する作業療法②	感覚調整障害がある児に対する感覚統合の視点をういた解釈と治療プランの立案の紹介、並びに、感覚統合障害の説明	* 森本誠司 角田孝行
4	神経発達症がある児に対する作業療法③	行為機能障害があるASD児に対する感覚統合療法を用いた作業療法の紹介と演習	* 森本誠司 角田孝行
5	神経発達症がある児に対する作業療法④	感覚調整障害に対する感覚統合療法の体験①（学内体験実習）	* 森本誠司 角田孝行
6	神経発達症がある児に対する作業療法⑤	行為機能障害に対する感覚統合療法の体験①（学内体験実習）	* 森本誠司 角田孝行
7	運動障害がある児に対する作業療法①	脳性麻痺児に対する介入	* 角田孝行 森本誠司
8	運動障害がある児に対する作業療法②	脳性麻痺児（痙直型）に対する介入	* 角田孝行 森本誠司
9	運動障害がある児に対する作業療法③	脳性麻痺児（アテトーゼ型）に対する介入	* 角田孝行 森本誠司
10	運動障害がある児に対する作業療法④	重症心身障害児に対する介入	* 角田孝行 森本誠司
11	運動障害がある児に対する作業療法⑤	運動障害がある児の環境への介入	* 角田孝行 森本誠司
12	運動障害がある児に対する作業療法⑥	運動障害がある児の家族理解と社会参加	* 角田孝行 森本誠司
13	発達障害作業療法の実際①	地域支援施設におけるOT支援の実際①	ゲストスピーカー
14	発達障害作業療法の実際②	地域支援施設におけるOT支援の実際②	ゲストスピーカー

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
発達期作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、角田 孝行				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	まとめ	発達障害領域の対象児に対する作業療法の展開について	*森本誠司 角田孝行

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
高齢期作業療法学演習	2026年度	作業療学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、江口 喜久雄、太田 研吾				演習	演習	

授 業 概 要
高齢者の疾病の特徴やリスクを踏まえ、認知症や廃用症候群、ロコモティブ症候群等具体的な事例、あるいは健康な高齢者に対して老化現象の進行を遅らせる取り組み等を通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作業療法の展開、臨床思考過程を実演と演習を通して学修する。

到 達 目 標
1. 高齢期障害ごとの作業療法についてその特徴を述べ、模擬的に演じられる。 2. 高齢期における家族形態を考慮しつつ、その支援方法と留意点について述べるができる。 3. 高齢期における作業療法支援過程における臨床推論の視点を学ぶ。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：技術の修得のため自己学修を行うこと

対応DP
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
講義内課題（60％）、筆記試験（40％）

教 科 書
松房 利憲／新井 健五編：標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学第4版 医学書院, 2024

参 考 図 書
浅海奈津美・守口恭子 老年期の作業療法 三輪書店 2018

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火曜日（15時～16時）・金曜日（11時～12時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士として実務経験のある教員によって、高齢期の対象となる方に対して作業療法実践を展開するための基本的知識と具体的な方法を演習を通じて理解を深める。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
高齢期作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、江口 喜久雄、太田 研吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション 高齢期作業療法総論	高齢期の特徴と高齢期作業療法の対象、および高齢期作業療法の基本的枠組みについて学ぶ また、高齢期作業療法を支える社会資源と地域援助システムについて学修する	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
2	高齢期における参加を考える（１）	高齢者の社会参加を阻む環境をフィールドワークを通して学ぶ	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
3	高齢期における参加を考える（２）	高齢者の社会参加を阻む環境をフィールドワークを通して学ぶ	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
4	高齢期における参加を考える（４）	高齢者の社会参加を阻む環境をフィールドワークを通して学ぶ	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
5	高齢期における参加を考える（５）	高齢者を対象としたフィールドワークで学んだ内容を発表する	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
6	介護保険領域のサービスの調査	介護保険とそのサービスについて、実際に調べる。さらに、フィールドワークで学んだ事柄を結びつけ、作業療法士として援助する際の実際をディスカッションする	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
7	一般高齢者に対する高齢期作業療法１	健康な高齢者及び虚弱高齢者に対する医療福祉サービス及び専門職の関わり方を学ぶ 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
8	一般高齢者に対する高齢期作業療法１	健康な高齢者及び虚弱高齢者に対する医療福祉サービス及び専門職の関わり方を学ぶ 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
9	介護予防に関して考える（１）	廃用症候群、ロコモティブ症候群等具体的な事例に対して老化現象の進行を遅らせる取り組み等を演習を通して学修する。 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、考えをまとめる	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
10	介護予防に関して考える（２）	廃用症候群、ロコモティブ症候群等具体的な事例に対して老化現象の進行を遅らせる取り組み等を演習を通して学修する。 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
11	家族支援について考える	高齢期における障害、死生観などを調べ、その支援について学ぶ。学生は小グループのディスカッションを通じて考えをまとめる	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
12	高齢期障害者に対する作業療法の実践（１）	高齢期における障害に対する作業療法を実践し、学んだ内容をまとめる 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
13	高齢期障害者に対する作業療法の実践（２）	高齢期における障害に対する作業療法を実践し、学んだ内容をまとめる 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾
14	高齢期障害者に対する作業療法の実践（３）	高齢期における障害に対する作業療法の内容を実践し、学んだ内容について発表の準備を行う 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、考えをまとめる	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
高齢期作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、江口 喜久雄、太田 研吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	高齢期障害者に対する作業療法の実践（4）	高齢期における障害に対する作業療法の内容を実践し、学んだ内容を発表する 学生はグループディスカッションを通して高齢期作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 江口喜久雄 太田研吾

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
摂食・嚥下作業療法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義・演習	

授 業 概 要
作業療法として必要な摂食・嚥下の基礎医学的知識、評価技術、疾患別の基本的アプローチについて習得する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標
1. 摂食・嚥下の基礎・障害が理解できるようになる。 2. 摂食・嚥下障害の評価が理解できるようになる。 3. 摂食・嚥下障害を合併する疾患への基本的アプローチについて理解できるようになる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学習：授業予定内容の教科書の該当部分を予習しておくこと。 事後学習：講義後の記録や教科書を参考にしながら復習すること。

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☒ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐
☐
☐
☐

評 価
試験70％、課題20％、参加度10％

教 科 書
配付資料

参 考 図 書

留 意 事 項
事前学修：moodle上に掲載されている講義資料を確認し、予習すること。 事後学修：教授された内容の振り返りを行い、理解した内容を整理する（授業毎にリアクションペーパー実施する）。

オフィスアワー等
あらかじめメール等でアポイントを取れば対応可能とする

実 務 経 験
小児療育施設（病院）・地域療育施設で作業療法士として従事し、摂食指導の経験を有す。その経験を活かし講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
摂食・嚥下作業療法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	摂食・嚥下の基礎	摂食・嚥下器官の解剖と摂食・嚥下機能の生理	森本誠司
2	摂食・嚥下障害	摂食・嚥下機能障害と疾患別の障害特性	森本誠司
3	摂食・嚥下の発達①	定型発達児における摂食・嚥下機能の発達①	森本誠司
4	摂食・嚥下の発達②	定型発達児における摂食・嚥下機能の発達②	森本誠司
5	摂食・嚥下の評価①	摂食・嚥下障害に対する問診・観察の評価とその演習	森本誠司
6	摂食・嚥下の評価②	摂食・嚥下障害に対する客観的評価とその演習	森本誠司
7	摂食・嚥下障害へのOTアプローチ	摂食・嚥下障害に対する治療的介入とその演習	森本誠司
8	まとめ	摂食・嚥下OTの今後	森本誠司

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
感覚統合療法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義・演習	

授 業 概 要
行動・情緒に問題をもち、学校や幼稚園に適応できない神経発達症（発達障害）児が増えている。このようななか、作業療法の実践理論として、ジーン・エアーズの開発した感覚統合療法は、彼らに極めて有効な神経学的治療であり、発達障害領域に進む作業療法士には不可欠な治療法である。この授業では、その理論と実践について学修する。

到 達 目 標
1. 感覚統合理論の基礎、並びに、感覚統合障害について理解できる 2. 子どもの苦手さを感覚統合の観点から理解できる 3. 感覚統合理論の観点での遊び活動を企画・実施することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：事前に資料を配布し、予習を指示する場合があります 事後学修：事後にレポートの提出を求める場合があります

対応D P
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
発表（60％）、授業中課題（20％）、レポート等（20％）

教 科 書
土田玲子監修 石井孝弘・岡本武己編集「感覚統合Q&A 改訂第2版」協同医書出版

参 考 図 書

留 意 事 項
提出期限を過ぎたレポートは成績評価の対象にならない場合がある

オフィスアワー等
研究室に在籍時はいつでも対応可。ただし、メール等で事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
臨床において感覚統合療法を実践経験あり。また、日本感覚統合学会認定講習会ではインストラクターを務め、感覚統合理論・療法に精通している。その経験を活かし講義する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
感覚統合療法	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司				講義	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	感覚統合理論について	感覚統合理論の基本的な概要について	森本誠司
2	感覚統合障害について	感覚統合障害（SD・BIS並びに感覚調整障害）について	森本誠司
3	感覚統合機能の評価 1	子どもの遊びや行動での感覚統合の観点での評価	森本誠司
4	感覚統合機能の評価 2	日本版感覚統合評価法（JPAN）の紹介①	森本誠司
5	感覚統合機能の評価 3	日本版感覚統合評価法（JPAN）の紹介②	森本誠司
6	感覚統合機能の評価 4	日本版感覚統合評価法（JPAN）の紹介③	森本誠司
7	感覚統合療法の展開 1	事例紹介、並びに、感覚統合療法で用いる遊具の紹介と使い方の基本について	森本誠司
8	感覚統合療法の展開 2 及びまとめ	事例に対する感覚統合療法を基にした治療計画発表、並びに、まとめ	森本誠司

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法特論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、近藤 敏、谷川 良博、近藤 昭彦、川崎 一平				講義	講義	

授 業 概 要
本授業においては、海外で勤務した経験をもつ作業療法士が異文化における業務体験を伝えることで、国際的に活躍できる作業療法士を目指す契機とする。また、近年、地域社会の課題解決に向けて作業療法士の活躍できる機会が増えている。この授業では、国際支援と地域社会貢献の具体的取り組みについて学び、作業療法士としての視野を醸成する。

到 達 目 標
1. 海外での支援や勤務する上で必要なことをあげることができる 2. 医療機関で勤務しながら、地域で作業療法士ができる支援をあげることができる 3. 作業療法士が起業するために必要なものをあげることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：基幹科目で既に学修した文化人類学を復習する。日本作業療法士協会ホームページにアクセスし「こんなところに作業療法士」等を見る。 事後学修：学生自身の住む地域の課題について調査する

対応D P
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
課題レポート100%

教 科 書
配布資料

参 考 図 書
なし

留 意 事 項
授業には積極的に参加して、今後の学修に役立つ情報や知識を自らつかみ取ること。

オフィスアワー等
各担当教員にメール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
本科目を担当する教員は、臨床現場におけるリハビリテーション活動の実務経験を生かして講義・演習を展開する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法特論	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	選択	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
田中 悟郎、近藤 敏、谷川 良博、近藤 昭彦、川崎 一平				講義	講義	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	国際支援1	JICA海外協力隊の活動	田中悟郎
2	社会貢献1	NPO法人等の設立及び実践	田中悟郎
3	国際支援2	東南アジアでの作業療法の実践①	川崎一平
4	国際支援3	東南アジアでの作業療法の実践②	川崎一平
5	社会貢献2	社会課題（シャレン活動等）と作業療法	近藤昭彦
6	社会貢献3	認知症の人の社会参加・社会貢献	谷川良博
7	社会貢献4	介護保険と起業の機会について（会社創設と通所介護事業所の創業・運営について）	近藤敏
8	まとめ	地域課題に対する作業療法士の取り組みについて 確認レポート	近藤敏

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域作業療法学演習	2026年度	作業療学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、太田 研吾、川崎 一平				演習	演習	

授 業 概 要
年齢を問わず在宅を基盤に地域で生活している人への作業療法の実際と、在宅生活支援のための地域援助システムについて学修する。通所・訪問における介入法、福祉機器の導入、家族指導、社会資源の活用等事例などについて、演習形式で学修する。また、専門職連携について理解を深め、さらに地域における介護予防や就労支援、在宅現場のリスクマネジメントについて学修し、作業療法士の役割と具体的な対応に関する理解を深める。

到 達 目 標
1. 在宅生活支援に関わる地域援助システムについて説明できる 2. 地域支援における作業療法士の役割と、地域課題について説明できる 3. 在宅現場における作業療法の実際を理解し、必要な支援について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：提示した事前課題をまとめ、概要を整理しておく 事後学修：課題をまとめ、発表の準備を行う

対応DP
◎ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。

評 価
講義内課題（60％）、課題レポート（40％）

教 科 書
大熊明/加藤朋子 編 標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学第4版 医学書院 2023

参 考 図 書
大田仁史 著 地域リハビリテーション言論Ver. 7 池田由里子他 著 REHABILITATION LIFE

留 意 事 項

オフィスアワー等
月、火曜日（15時～16時）・金曜日（11時～12時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士として実務経験のある教員によって、地域作業療法の対象となる方に対して作業療法実践を展開するための基本的知識と具体的な方法を演習を通じて紹介する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、太田 研吾、川崎 一平				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション 地域作業療法総論	地域作業療法の概念及び、地域作業療法を支える社会資源や多職種連携、地域包括ケアシステムなどについて学ぶ	谷川良博 川崎一平 太田研吾
2	地域における作業療法 1	障害を有する患者について、発症から在宅生活までの医療福祉サービス及び専門職の関わり方を学ぶ 学生はグループディスカッションを通して身体障害の地域作業療法について学び、考えをまとめる	川崎一平 谷川良博 太田研吾
3	地域における作業療法 2	身体障害を有する患者について、発症から在宅生活までの医療福祉サービス及び専門職の関わり方を学ぶ 学生はグループディスカッションを通して身体障害の地域作業療法について学び、発表を行う	川崎一平 谷川良博 太田研吾
4	精神障害領域の地域作業療法1	精神障害を有する患者について、発症急性期から在宅生活までの医療福祉サービス及び専門職の関わり方などを学ぶ 学生はグループディスカッションを通して精神障害の地域作業療法について学び、考えをまとめる	太田研吾 川崎一平 谷川良博
5	精神障害領域の地域作業療法2	精神障害を有する患者について、発症急性期から在宅生活までの医療福祉サービス及び専門職の関わり方などを学ぶ 学生はグループディスカッションを通して精神障害の地域作業療法について学び、発表を行う	太田研吾 川崎一平 谷川良博
6	老年期障害領域の地域作業療法1	老年期障害を有する患者に関連した、在宅生活における医療福祉サービス及び専門職の関わり方を学ぶ 学生はグループディスカッションを通して老年期障害の地域作業療法について学び、考えをまとめる	谷川良博 川崎一平 太田研吾
7	老年期障害領域の地域作業療法2	老年期障害を有する患者に関連した、在宅生活における医療福祉サービス及び専門職の関わり方を学ぶ 学生はグループディスカッションを通して老年期障害の地域作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 川崎一平 太田研吾
8	発達領域の作業療法士の役割 1	発達領域の対象者について学修し、実際を経験する	谷川良博 川崎一平 太田研吾
9	発達領域の作業療法士の役割 2	発達領域の対象者について学修し、実際を経験する	谷川良博 川崎一平 太田研吾
10	発達領域の作業療法士の役割 3	発達領域の対象者について学修し、実際を経験する 学生はグループディスカッションを通して老年期障害の地域作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 川崎一平 太田研吾
11	発達領域の作業療法士の役割 4	発達領域の対象者について学修し、実際を経験する 学生はグループディスカッションを通して老年期障害の地域作業療法について学び、発表を行う	谷川良博 川崎一平 太田研吾
12	就労支援における地域作業療法 1	就労支援の実際の現場について学修し、OTの支援の在り方を学ぶ	太田研吾 川崎一平 谷川良博
13	就労支援における地域作業療法 2	就労支援の実際の現場について学修し、OTの支援の在り方を学ぶ	太田研吾 川崎一平 谷川良博
14	就労支援における地域作業療法 3	就労支援の実際の現場について学修し、OTの支援の在り方を学ぶ 学生はグループ演習の中で実際の現場を想定し知識・技術を身に付ける	太田研吾 川崎一平 谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域作業療法学演習	2026年度	作業療法学科	1単位	30時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
谷川 良博、太田 研吾、川崎 一平				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	就労支援における地域作業療法4	就労支援の実際の現場について学修し、OTの支援の在り方を学ぶ 学生はグループ演習の中で実際の現場を想定し知識・技術を身に付ける	太田研吾 川崎一平 谷川良博

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
総合臨床実習Ⅰ	2026年度	作業療法学科	6単位	270時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、坂口 聡子				実習	実習	

授 業 概 要
学生はこれまで学内外で学んだ知識・技術を経験ある作業療法士の指導のもとで、1) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を見学する、2) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を模倣する。

到 達 目 標
1. 作業療法過程における必要な知識・技術および態度を学修する 2. 実習指導者の作業療法実践に参加し、基本的な作業療法計画の立案と介入を学修する 3. 実習指導者の担当する対象者の作業療法の観察、模倣を通して、作業療法の思考過程を学修する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前：学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を進める 事後：報告会に参加し、幅広い意見と知識を学修する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
総合臨床実習Ⅰルーブリック表、提出物、実習後報告会の結果を合わせて総合的に成績評価を行い、最終成績（合否判定）とする。

教 科 書
丹羽敦 編 作業療法臨床実習のチェックポイント メジカルビュー社 2020

参 考 図 書
小林幸治 編 クリニカルクラークシップガイド 三輪書店 2017

留 意 事 項

オフィスアワー等
研究室にて行う。各教員に対して、メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
作業療法士として20年程度の実務経験を有する教員が、対象者の観察、計画立案、介入の基本的視点について指導するとともに、実習前の準備および実習後の指導・振り返りを行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
総合臨床実習Ⅰ	2026年度	作業療法学科	6単位	270時間	必修	3年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
江口 喜久雄、坂口 聡子				実習	実習	

内 容
1．学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監視のもとで行う診療参加型実習を実施する。実習は、3年次後期に実施する 2．実習前に以下のことを行う 1）実習前セミナー（オリエンテーション）に参加することで、学内担当教員と学内教育ループリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を行う 3．実習施設では実習指導者の指導のもと診療チームの一員として以下のことを行う 1）対象者の疾患と障害の理解：対象者の疾患や障害状況の把握に必要な情報収集をする 2）評価法の準備：面接、観察、検査測定の方法と手順を確認する。学生は評価法選択の根拠を説明する 3）作業療法計画の立案と介入： 実習指導者の観察、面接、検査測定を見学および模倣する 評価結果をICF（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）を用いて整理し全体像を把握する 評価結果をもとに対象者の問題点と利点・資源について説明する 対象者中心の作業療法の目標および効果的な作業を選択する 対象者等に作業療法計画に対する実習指導者の説明と同意について見学する 対象者の作業療法介入を見学、模倣しながら対象者との治療関係やリスク管理について体験する 対象者の作業療法の経過を記録する 対象者の個人情報を保護する 4．課題 1）対象者の観察、検査測定および介入の記録 対象者の作業療法の記録（情報収集、面接・観察、検査測定、計画立案、介入、経過等）を記載する。この書式については、実習指導者と相談する 2）症例報告書の作成 作業療法の展開について、リーズニングを含む事例報告を作成する 3）デイリーノートの作成 毎日の実習内容および学修内容、質問、感想等を記載する 4）報告会における発表 実習後、学内において症例発表会を実施する

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法総合演習	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	4年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

授 業 概 要
総合臨床実習において、作業療法の一連の過程を経験し学修した知識をもとに、より統合的に作業療法への理解を深め、臨床に適用できるよう、基本的な知識を確認し再獲得する。専門基礎分野（解剖学、生理学、運動学、臨床医学）と作業療法専門分野の知識を統合させながら作業療法士として必要な臨床思考過程のさらなる向上を図る。

到 達 目 標
1. 作業療法士に必要な専門基礎科目の知識と作業療法実践を結びつけることが明できる 2. 作業療法士に必要な評価法について、目的や検査手順、解釈について説明ができる 3. 作業療法士に必要な介入技術について、作業療法実践モデルを踏まえて説明ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：専門基礎分野（解剖学、生理学、運動学、臨床医学）と作業療法専門科目の知識を常に復習して臨むこと 事後学修：各回で再学修した内容を復習し、自身の知識・技術を点検する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ◎ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
定期的に実施する筆記テスト（100％）

教 科 書
PTOT国家試験、必修ポイント 専門基礎分野基礎医学2027（医歯薬出版）、PTOT国家試験、必修ポイント 専門基礎分野臨床医学2027（医歯薬出版）、PTOT国家試験、必修ポイント 障害別OT治療学2027（医歯薬出版）、PTOT国家試験、必修ポイント 基礎OT学2027（医歯薬出版）2026年度に順次発行される予定です

参 考 図 書
適宜紹介する。

留 意 事 項
個別、グループ学習を通じ、4年間を総括する必須科目であり、国家試験受験の準備となる科目です。 授業や試験等に関する日時の変更もあり得ますので、担当教員からの連絡を見落とさないようにすること

オフィスアワー等
質問したい内容に応じて、教員にアポイントを取り相談して下さい。

実 務 経 験
各領域に関して教育経験豊富な教員が担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法総合演習	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	4年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	骨関節分野	骨、関節、靱帯、筋、運動学	吉田、角田、坂口
2	骨関節分野	姿勢、歩行、その他	吉田、角田、坂口
3	骨関節分野	末梢神経（手の外科、装具、整形評価）	吉田、角田、坂口
4	骨関節分野	骨折・リウマチ・末梢神経障害	吉田、角田、坂口
5	骨関節分野	切断、義肢装具	吉田、角田、坂口
6	骨関節分野	その他（骨粗鬆症、熱傷、小児疾患、脱臼）	吉田、角田、坂口
7	評価学	ROM	吉田、角田、坂口
8	評価学	MMT	吉田、角田、坂口
9	中枢分野	神経基礎・感覚	谷川、近藤昭、川崎、山根
10	中枢分野	脳神経、自律神経、反射・脳解剖	谷川、近藤昭、川崎、山根
11	中枢分野	脊髄疾患・脊髄損傷	谷川、近藤昭、川崎、山根
12	中枢分野	脳血管疾患のOT	谷川、近藤昭、川崎、山根
13	中枢分野	頭部外傷、高次脳機能障害のOT	谷川、近藤昭、川崎、山根
14	中枢分野	PD、SCD、ALS、MS、GBS、MG、筋ジストロフィー、筋炎	谷川、近藤昭、川崎、山根

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法総合演習	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	4年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	内部障害分野	循環器	谷川、近藤昭、川崎、山根
16	内部障害分野	呼吸器	谷川、近藤昭、川崎、山根
17	内部障害分野	消化・肝胆膵	谷川、近藤昭、川崎、山根
18	内部障害分野	代謝、体温	谷川、近藤昭、川崎、山根
19	内部障害分野	泌尿器・内分泌	谷川、近藤昭、川崎、山根
20	内部障害分野	血液、免疫、炎症、悪性腫瘍	谷川、近藤昭、川崎、山根
21	精神障害分野	臨床心理	田中、江口、太田
22	精神障害分野	統合失調症	田中、江口、太田
23	精神障害分野	気分障害・神経症	田中、江口、太田
24	精神障害分野	摂食障害・依存症	田中、江口、太田
25	精神障害分野	パーソナリティ障害	田中、江口、太田
26	精神障害分野	てんかん・認知症	田中、江口、太田
27	発達障害分野	人間発達（正常発達・評価・反射）	森本、角田
28	発達障害分野	自閉症スペクトラム	森本、角田

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
作業療法総合演習	2026年度	作業療法学科	2単位	60時間	必修	4年後期
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
29	発達障害分野	脳性麻痺	森本、角田
30	発達障害分野	その他（二分脊椎、ダウン症など）	森本、角田

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
基礎臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	1年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、川崎 一平				実習	実習	

授 業 概 要
本実習は、学生がまだ専門的知識のない中で行われる見学実習である。その目的とするところは、実際に作業療法士がやりがいをもって働いている姿に接することで、作業療法士になりたいというモチベーションを高め、今後の学修意欲を高める切っ掛けにすることにある。また、医療機関や施設を内側から眺めることで、医療職の責任や使命感について学ぶ。本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。

到 達 目 標
1. 医療職を志す者としての常識的態度（挨拶、服装、言葉遣い）を身につける。 2. 地域における社会資源（環境、制度、資源）の現状について報告することができる。 3. 見学をまとめて発表ができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
見学予定の施設について、ホームページ等で調べる。見学施設の報告書を作成する。 集合時間厳守、見学先からの注意事項を確認する。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
実習課題レポート20%、実習行動30%、実習後セミナーのディスカッション・発表50%

教 科 書
配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項
感染症対策、守秘義務を遵守すること。

オフィスアワー等
要事前予約

実 務 経 験
担当教員は全員、豊富な作業療法の臨床経験を有している

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
基礎臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	1年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、川崎 一平				実習	実習	

内 容
1. 実習前（準備）オリエンテーションを実施する。 実習の目的の説明を受ける。 実習施設の紹介、学生の配置、実習の進め方、日程や時間、課題、留意事項について説明を受ける。 感染対策、守秘義務について手引きをもとにレクチャーを受ける。 2. 学生は配置された実習施設で見学を行う。 学生は5日間の見学実習を行う。 主たる実習施設を中心に、1施設につき1名～複数名（5名以下）で配置される。 実習は、作業療法士が勤務している病院（医療提供施設）を基本に、老人保健施設、身体障害者福祉施設、児童福祉施設、指定障害サービス事業所、指定障害者支援施設、児童デイサービス等で行う。 実習施設では実習指導者の指示に従う。 実習施設では、施設概要、リハビリテーションと作業療法の内容及び、関連する職種の連携に関するレクチャーを受ける。 作業療法士の役割、対象者との会話場面などを見学する。 レクチャーや見学後、質疑の時間を設ける。 3. 実習終了後、学内にて報告会を実施する。 実習施設での経験をまとめ、他者に対して伝える 制限時間内に発表できるように準備を行う。 資料を作成してグループ内発表を行う。発表後、質疑を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
基礎臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	1年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、川崎 一平				実習		

授 業 概 要
本実習は、学生が専門的知識のない中で行われる見学実習である。その目的とするところは、実際に作業療法士がやりがいをもって働いている姿に接する。作業療法士が対象者に用いる作業療法について、解説を受けることで今後の学修意欲を高めるきっかけにする。また、医療機関や施設を内側から眺めることで、医療職の責任や使命感について学ぶ。本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。

到 達 目 標
1. 医療職を志す者としての常識的態度（挨拶、服装、言葉遣い）を身につける 2. 作業療法の実際を見学することで、作業がどのように活用されているかを学ぶ 3. 見学した内容から自身の考えをまとめることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
見学予定の施設について、ホームページ等で調べる。見学施設の報告書を作成する。 集合時間厳守、見学先からの注意事項を確認する。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
実習課題レポート20%、実習行動30%、実習後セミナーのディスカッション・発表50%

教 科 書
配布資料

参 考 図 書

留 意 事 項
体調管理、感染症対策、守秘義務を遵守すること。特に、初めて臨床現場に向かうことから、事前セミナーへの出席、実習前の体調管理の指示に従うよう留意すること。

オフィスアワー等
要事前予約

実 務 経 験
担当教員は全員、実習先の作業療法士は豊富な臨床経験を有している

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
基礎臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	1年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
近藤 昭彦、川崎 一平				実習		

内 容
1．実習前（準備）オリエンテーションを実施する 実習の目的の説明を受ける。 実習施設の紹介、学生の配置、実習の進め方、日程や時間、課題、留意事項について説明を受ける。 感染対策、守秘義務について手引きをもとにレクチャーを受ける。 2．学生は配置された実習施設で見学を行う。 学生は5日間の見学実習を行う。 主たる実習施設を中心に、1施設につき1名～複数名（5名以下）で配置される。 実習は、作業療法士が勤務している病院（医療提供施設）を基本に、老人保健施設、身体障害者福祉施設、児童福祉施設、指定障害サービス事業所、指定障害者支援施設、児童デイサービス等で行う。 実習施設では実習指導者の指示に従う。 実習施設では、施設概要、リハビリテーションと作業療法の内容及び、関連する職種の連携に関するレクチャーを受ける。 作業療法士の役割、対象者との会話場面などを見学する。 レクチャーや見学後、質疑の時間を設ける。 3．実習終了後、学内にて報告会を実施する。 実習施設での経験をまとめ、他者に対して伝える 制限時間内に発表できるように準備を行う。 資料を作成して発表を行う。発表後、質疑を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	2年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、谷川 良博				実習	実習	

授 業 概 要
通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおいて作業療法士が実施する作業療法について見学を中心とした実習を行う。実習を通して、地域における作業療法の役割について学ぶ。

到 達 目 標
1. 対象者および指導者や関係職種とのコミュニケーションが行える。 2. 地域における社会資源（環境、制度、資源）の現状について報告することができる。 3. 地域リハビリテーションの作業療法の役割について報告することができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
実習施設について、ホームページ等で調べる。実習の報告書を作成する。 集合時間厳守、実習施設からの注意事項を確認する。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
実習行動30％、実習中のレポート課題20％、実習後レポート課題50％

教 科 書
大熊明/加藤朋子 編：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 医学書院 2017

参 考 図 書
太田仁史 著 地域リハビリテーション言論Ver. 7 池田由里子他 著 REHABILITATION LIFE

留 意 事 項
感染症対策、守秘義務を遵守すること。また、オリエンテーションの参加および実習開始2週間前からの検温記載を遵守すること。

オフィスアワー等
メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
担当教員は、10～50年の作業療法の臨床経験を有している。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	2年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、谷川 良博				実習	実習	

内 容
1．実習前（準備）、オリエンテーションを実施する。 実習施設の紹介、学生の配置、実習の進め方、日程や時間、課題、留意事項について説明を受ける。 2．学生は、配置された施設で実習を行う。 1) 訪問リハビリテーション施設では、学生は実習指導者が担当する対象者宅に同行訪問する。 訪問リハビリテーションにおける実習指導者の対象者および家族とのコミュニケーションと指導を観察・見学する。 指導者を通じて、生活行為の回復を目標とした作業療法介入について理解する。 訪問する前には、禁忌事項や個人情報の保護等に関する説明を受ける。 2) 通所リハビリテーション施設では、実習指導者が担当する対象者を中心に観察・見学をする。 実習指導者の指導を受けながら他の利用者ともコミュニケーションを図る。 実習指導者の指導を受けながら、集団レクレーションをチームの一員として参加する。 指導者を通じて、通過施設としてのリハビリテーション施設での作業療法の役割を理解する。 3．実習終了後、学内にて報告会を実施する。 *本実習は作業療法士教員が全員で担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	2年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、谷川 良博				実習	実習	

授 業 概 要
通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおいて作業療法士が実施する作業療法について見学を中心とした実習を行う。実習を通して、地域における作業療法の役割について学ぶ。

到 達 目 標
1. 対象者および指導者や関係職種とのコミュニケーションが行える。 2. 地域における社会資源（環境、制度、資源）の現状について報告することができる。 3. 地域リハビリテーションの作業療法の役割について報告することができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
実習施設について、ホームページ等で調べる。実習の報告書を作成する。 集合時間厳守、実習施設からの注意事項を確認する。

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をととして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
実習行動30％、実習中のレポート課題20％、実習後レポート課題50％

教 科 書
大熊明/加藤朋子 編：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 医学書院 2017

参 考 図 書
太田仁史 著 地域リハビリテーション言論Ver. 7 池田由里子他 著 REHABILITATION LIFE

留 意 事 項
感染症対策、守秘義務を遵守すること。また、オリエンテーションの参加および実習開始2週間前からの検温記載を遵守すること。

オフィスアワー等
メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
担当教員は、10～50年の作業療法の臨床経験を有している。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
地域臨床実習	2026年度	作業療法学科	1単位	20時間	必修	2年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
森本 誠司、谷川 良博				実習	実習	

内 容
1．実習前（準備）、オリエンテーションを実施する。 実習施設の紹介、学生の配置、実習の進め方、日程や時間、課題、留意事項について説明を受ける。 2．学生は、配置された施設で実習を行う。 1) 訪問リハビリテーション施設では、学生は実習指導者が担当する対象者宅に同行訪問する。 訪問リハビリテーションにおける実習指導者の対象者および家族とのコミュニケーションと指導を観察・見学する。 指導者を通じて、生活行為の回復を目標とした作業療法介入について理解する。 訪問する前には、禁忌事項や個人情報の保護等に関する説明を受ける。 2) 通所リハビリテーション施設では、実習指導者が担当する対象者を中心に観察・見学をする。 実習指導者の指導を受けながら他の利用者ともコミュニケーションを図る。 実習指導者の指導を受けながら、集団レクレーションをチームの一員として参加する。 指導者を通じて、通過施設としてのリハビリテーション施設での作業療法の役割を理解する。 3．実習終了後、学内にて報告会を実施する。 *本実習は作業療法士教員が全員で担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	講義・演習	

授 業 概 要
研究テーマの設定、文献レビュー、研究計画書の作成までの一連の流れを実践して、科学的思考を養う。この研究計画書は研究の基本であり、文献レビューを批判的に読むことを学ぶことで研究テーマの設定と絞り込みに役立つ。 この研究計画書は卒業研究演習に取り組むための重要な課題である。

到 達 目 標
1. 研究疑問から研究テーマの設定をすることができる 2. 研究テーマに必要な文献を検索することができる 3. 文献レビューにより，研究テーマの意義や目的を説明できる 4. 研究計画を立案できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：教科書、配付資料等で研究法を予習し、事前に予備知識を取得しておく 研究疑問を整理する 事後学修：解決できなかった疑問点，理解困難なことは必ず教員に質問し解決する、レポートは迅速に対応する

対応D P
◎ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
研究計画書60点 授業内課題40点

教 科 書
指定しない

参 考 図 書
作業療法士のための研究法入門，著者：鎌倉矩子・宮前珠子・清水一 1997

留 意 事 項
各教員のゼミにて進行するため、以下の授業計画はあくまで目安である。

オフィスアワー等
各ゼミに配属されるため、各ゼミ担当の教員に必要な応じて相談を行うこと。

実 務 経 験
研究経験豊富な教員が、それぞれの専門性を活かして研究指導を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	研究疑問と目的	研究疑問の抽出	作業療法学科教員
2	研究疑問と目的	研究疑問の抽出	作業療法学科教員
3	文献レビュー	文献レビュー	作業療法学科教員
4	文献レビュー	文献レビュー	作業療法学科教員
5	文献レビュー	文献レビュー	作業療法学科教員
6	研究テーマの設定	研究テーマの絞り込み	作業療法学科教員
7	研究仮説の設定	研究仮説の設定	作業療法学科教員
8	研究方法の設定	研究方法の検討（対象の設定，データ収集と分析方法）	作業療法学科教員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	講義・演習	

授 業 概 要
研究テーマの設定、文献レビュー、研究計画書の作成までの一連の流れを実践して、科学的思考を養う。この研究計画書は研究の基本であり、文献レビューを批判的に読むことを学ぶことで研究テーマの設定と絞り込みに役立つ。 この研究計画書は卒業研究演習に取り組むための重要な課題である。

到 達 目 標
1. 研究疑問から研究テーマの設定をすることができる 2. 研究テーマに必要な文献を検索することができる 3. 文献レビューにより，研究テーマの意義や目的を説明できる 4. 研究計画を立案できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：作業療法研究法で学んだことを復習し、事前に予備知識を取得しておく。 事後学修：解決できなかった疑問点，理解困難なことは必ず教員に質問し解決する。

対応D P
◎ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
研究計画書60点　授業内課題40点

教 科 書
指定しない

参 考 図 書
作業療法士のための研究法入門．著者：鎌倉矩子・宮前珠子・清水一　1997

留 意 事 項
各教員のゼミにて進行するため、以下の授業計画はあくまで目安である。

オフィスアワー等
各ゼミに配属されるため、指導教員に適宜相談を行うこと

実 務 経 験
研究経験豊富な教員が、それぞれの専門性を活かして研究指導を行う。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究	2026年度	作業療法学科	1単位	15時間	必修	3年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	講義・演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	研究方法の妥当性	研究方法の妥当性，信頼性の検討	作業療法学科教員
2	研究計画書	研究計画書の作成	作業療法学科教員
3	研究計画書	研究計画書の作成	作業療法学科教員
4	研究倫理	倫理審査書類の作成	作業療法学科教員
5	研究同意書	研究協力の依頼書、同意書等の作成	作業療法学科教員
6	発表資料作成	研究計画のプレゼンテーション資料の作成	作業療法学科教員
7	発表資料作成	研究計画のプレゼンテーション資料の作成と予演会	作業療法学科教員
8	—	—	

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
評価臨床実習	2026年度	作業療法学科	3単位	65時間	必修	3年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
坂口 聡子、江口 喜久雄				実習		

授 業 概 要
3年前期までに学内で学修した知識・技術・資質を臨床実習において再確認するとともに、学生は医療機関等において経験ある作業療法士の指導のもとで、実習指導者を見習いながら対象者の基本的な評価（観察、面接、検査・測定、解釈）を実施し、作業療法計画（治療目的、ゴール設定）を経験する。また、実習指導者の対象者に対する接し方や面接、検査・測定を拝見しながら対象者とのコミュニケーション技術を学ぶ。

到 達 目 標
1. 臨床実習指導者の行っている検査・測定の技術を観察し模倣することができる 2. 作業療法過程である問題点の抽出や統合と解釈についてICFを用いて整理し、作業療法実施計画を立案する 3. 対象者に対する評価法から作業療法計画立案に到る思考過程を学ぶ

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前：学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を進める 事後：報告会に参加し、幅広い意見と知識を学修する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
学内教育ルーブリック 実習目標到達度確認シート OSCE結果を合わせて総合的に評価をする

教 科 書
丹羽敦 編 作業療法臨床実習のチェックポイント メジカルビュー社、2020

参 考 図 書
小林幸治 編 クリニカルクラークシップガイド 三輪書店 2017

留 意 事 項

オフィスアワー等
メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
本実習を担当する教員は豊富な臨床経験を有している。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
評価臨床実習	2026年度	作業療法学科	3単位	65時間	必修	3年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
坂口 聡子、江口 喜久雄				実習		

内 容
・学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督のもとで行う診療参加型実習を体験する 1．実習前のオリエンテーションに参加する 1) 学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を行う 2) 学生は臨床実習に必要な知識・技術，態度について客観的臨床能力試験(OSCE)を受験し、技能の確認を行う 2．実習施設では実習指導者の指導のもと診療チームの一員として以下のことを行う 1) 対象者の疾患と障害の理解：対象者の疾患や障害状況の把握に必要な情報収集をする 2) 評価法の準備：面接、観察、検査測定の方法と手順を確認する。学生は評価法選択の根拠を説明する 3) 作業療法計画の立案を行う ・実習指導者の観察、面接、検査測定を見学および模倣する ・評価結果をICF（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）を用いて整理し全体像を把握する ・評価結果をもとに対象者の問題点と利点・資源について説明する ・対象者中心の作業療法の目標および効果的な作業を選択する ・対象者等に作業療法計画に対する実習指導者の説明と同意について見学する ・対象者の個人情報保護する 3．課題 1) 担当症例の観察、面接、検査測定結果の記録 2) 作業療法計画の立案 3) デイリーノートの作成 4) 事例報告書の作成 5) 報告会における発表 ＊本実習は作業療法士教員が全員で担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
評価臨床実習	2026年度	作業療法学科	3単位	65時間	必修	3年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
坂口 聡子、江口 喜久雄				実習		

授 業 概 要
3年前期までに学内で学修した知識・技術・資質を臨床実習において再確認するとともに、学生は医療機関等において経験ある作業療法士の指導のもとで、実習指導者を見習いながら対象者の基本的な評価（観察、面接、検査・測定、解釈）を実施し、作業療法計画（治療目的、ゴール設定）を経験する。また、実習指導者の対象者に対する接し方や面接、検査・測定を拝見しながら対象者とのコミュニケーション技術を学ぶ。

到 達 目 標
1. 臨床実習指導者の行っている検査・測定の技術を観察し模倣することができる 2. 作業療法過程である問題点の抽出や統合と解釈についてICFを用いて整理し、作業療法実施計画を立案する 3. 対象者に対する評価法から作業療法計画立案に到る思考過程を学ぶ

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前：学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を進める 事後：報告会に参加し、幅広い意見と知識を学修する

対応D P
◎ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。 ○ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。

評 価
学内教育ルーブリック　実習目標到達度確認シート　OSCE結果を合わせて総合的に評価をする

教 科 書
丹羽敦　編　作業療法臨床実習のチェックポイント　メジカルビュー社、2020

参 考 図 書
小林幸治　編　クリニカルクラークシップガイド　三輪書店　2017

留 意 事 項

オフィスアワー等
メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

実 務 経 験
本実習を担当する教員は豊富な臨床経験を有している。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
評価臨床実習	2026年度	作業療法学科	3単位	65時間	必修	3年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
坂口 聡子、江口 喜久雄				実習		

内 容
・学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督のもとで行う診療参加型実習を体験する ・実習は、3年次後期に実施する 1．実習前のオリエンテーションに参加する 1) 学内担当教員と学内教育ルーブリックを用いて、情意領域・認知領域を中心に実習の準備を行う 2) 学生は臨床実習に必要な知識・技術，態度について客観的臨床能力試験(OSCE)を受験し、技能の確認を行う 2．実習施設では実習指導者の指導のもと診療チームの一員として以下のことを行う 1) 対象者の疾患と障害の理解：対象者の疾患や障害状況の把握に必要な情報収集をする 2) 評価法の準備：面接、観察、検査測定の方法と手順を確認する。学生は評価法選択の根拠を説明する 3) 作業療法計画の立案を行う ・実習指導者の観察、面接、検査測定を見学および模倣する ・評価結果をICF（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）を用いて整理し全体像を把握する ・評価結果をもとに対象者の問題点と利点・資源について説明する ・対象者中心の作業療法の目標および効果的な作業を選択する ・対象者等に作業療法計画に対する実習指導者の説明と同意について見学する ・対象者の個人情報保護する 3．課題 1) 担当症例の観察、面接、検査測定結果の記録 2) 作業療法計画の立案 3) デイリーノートの作成 4) 事例報告書の作成 5) 報告会における発表 ＊本実習は作業療法士教員が全員で担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究演習	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	4年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

授 業 概 要
研究計画書を元に、データの収集、分析、結果、考察の方法を学び、科学的思考による論文作成を実践する。完成した論文は学会形式にて発表して、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。以上より、臨床的思考や推論そして臨床研究の重要性を学ぶ。

到 達 目 標
1. 科学研究ができるようになる 2. 論文の目的と意義を説明することができる 3. 論文を作成できる 4. 論文発表ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：研究計画書に基づき、事前に予備知識を取得しておく 事後学修：理解困難な所は必ず教員に質問し解決する、報告、レポートは迅速に対応する

対応D P
◎ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
研究論文60％ プレゼンテーション20％ 授業内課題20％

教 科 書
指定しない

参 考 図 書

留 意 事 項
指導教員のゼミにて進行するため、以下の授業計画はあくまで目安である。

オフィスアワー等
各ゼミに配属されるため、指導教員に適宜相談を行うこと。

実 務 経 験
研究経験の豊富な教員が担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究演習	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	4年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーションおよび研究計画書を再確認し、データ収集の準備を行う	作業療法学科教員
2	パイロットスタディのデータ収集準備	パイロットスタディのデータ収集の準備を行う	作業療法学科教員
3	パイロットスタディの実施	パイロットスタディから研究計画の妥当性を再検討する 1	作業療法学科教員
4	パイロットスタディの実施	パイロットスタディから研究計画の妥当性を再検討する 2	作業療法学科教員
5	データ収集の準備	データ収集のための準備確認	作業療法学科教員
6	データ収集 1	データの収集を行う 1	作業療法学科教員
7	データ収集 2	データの収集を行う 2	作業療法学科教員
8	データ収集 3	データの収集を行う 3	作業療法学科教員
9	データ収集 4	データの収集を行う 4	作業療法学科教員
10	データの整理 1	データの整理 1	作業療法学科教員
11	データの整理 2	データの整理 2	作業療法学科教員
12	データの処理 1	データの統計処理，得られた情報の分析 1	作業療法学科教員
13	データの処理 2	データの統計処理，得られた情報の分析 2	作業療法学科教員
14	結果のまとめ 1	結果のまとめ 1	作業療法学科教員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究演習	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	4年通年(前期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	結果のまとめ 2	結果のまとめ 2	作業療法学科教員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究演習	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	4年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

授 業 概 要
研究計画書を元に、データの収集、分析、結果、考察の方法を学び、科学的思考による論文作成を実践する。完成した論文は学会形式にて発表して、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。以上より、臨床的思考や推論そして臨床研究の重要性を学ぶ。

到 達 目 標
1. 科学研究ができるようになる 2. 論文の目的と意義を説明することができる 3. 論文を作成できる 4. 論文発表ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：作業療法研究法で学んだ内容を復習し、事前に予備知識を取得しておく 事後学修：理解困難な所は必ず教員に質問し解決する、報告、レポートは迅速に対応する

対応D P
☐ 幅広い教養と人間愛（倫理観）を身につけ、主体的に学修する態度を有している。
☐ 多様性のある対象者の個別の健康課題に対し、科学的根拠に基づく作業療法を実践する能力を有している。
☐ 価値のある作業をとおして、人々を健康にできる作業療法が実践できる。
☐ 多様化かつ高度化する医療において、専門的な実践をとおして広く社会に貢献する能力を有している。
☒ 自己実現を成し遂げるために、生涯にわたって人格の涵養に努め、作業療法の本質を主体的に探究する素養を有している。

評 価
研究論文60％ 卒業研究のプレゼンテーション20％ 授業内課題20％

教 科 書
指定しない

参 考 図 書

留 意 事 項
各教員のゼミで進行するため、以下の授業計画はあくまで目安である。

オフィスアワー等
各ゼミに配属されるため、指導教員に適宜相談を行うこと。

実 務 経 験
研究経験の豊富な教員が担当する。

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究演習	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	4年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	考察 1	結果の考察 1	作業療法学科教員
2	考察 2	結果の考察 2	作業療法学科教員
3	考察 3	先行研究と自分の考察を比較検討する 1	作業療法学科教員
4	考察 4	先行研究と自分の考察を比較検討する 2	作業療法学科教員
5	考察 5	研究目的・仮説の検証 1	作業療法学科教員
6	考察 6	研究目的・仮説の検証 2	作業療法学科教員
7	論文の執筆 1	論文の作成 1	作業療法学科教員
8	論文の執筆 2	論文の作成 2	作業療法学科教員
9	論文の執筆 3	論文の作成 3	作業療法学科教員
10	論文の執筆 4	論文の作成 4	作業療法学科教員
11	プレゼンテーション資料の作成 1	研究発表プレゼンテーション資料の作成	作業療法学科教員
12	プレゼンテーション資料の作成 2	研究発表プレゼンテーション資料の作成	作業療法学科教員
13	プレゼンテーションの準備	研究発表プレゼンテーション資料の事前発表と討議	作業療法学科教員
14	研究論文の執筆 1	研究論文の執筆	作業療法学科教員

授 業 科 目 名	開講年度	学科	単位数	時間数	必修・選択	配当年次
卒業研究演習	2026年度	作業療法学科	2単位	30時間	必修	4年通年(後期)
担 当 教 員				授業形態	開講形式	
山根 伸吾				演習	演習	

回数	単 元	内 容	担当教員
15	研究論文の執筆2	研究論文の執筆	作業療法学科教員